

Endeavor

MT7800

ユーザーズマニュアル

Windows XP

ご使用
の前に

設置
・
準備

1

基本
操作

2

装置の
増設

3

BIOS
設定

4

再
インス
トール

5

困った
ときに

6

付録


ご使用前に


- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために


このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。




 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。




障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。
--	-------------------------------------










障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。
	アース端子を接地（アース）することを示しています。

⚠ 警告

 	<p>煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p>
 	<p>マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。 けがや感電・火災の原因となります。</p>
 	<p>交流100V以外では使用しないでください。 指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。</p>
 	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。</p>
 	<p>通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。</p>
 	<p>異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。</p>
 	<p>破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。 ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。</p>
 	<p>電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。</p>







警告

	<p>電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none">・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 <p>電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。</p>
	<p>増設作業などをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。 電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。</p>
 	<p>小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。 飲み込むと化学物質による被害の原因となります。 万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。</p>
 	<p>雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。</p>
	<p>電源プラグのアース端子を接地（アース）してください。 接地しないで使用すると、感電の危険性があります。 アースは必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。また、アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。</p>
	<p>アース端子は、絶対にガス管に接続しないでください。 火災の原因となります。</p>
	<p>アース端子をコンセントに挿入または接触させないでください。 感電の危険があります。</p>

⚠ 注意

 	<p>小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。</p>
 	<p>不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。</p>
 	<p>湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。</p>
 	<p>本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 ・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。 ・じゅうたんや布団の上などに設置しない。 ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。</p>
	<p>連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>
 	<p>各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。</p>
 	<p>装置の増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。 火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。</p>
	<p>本機を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。</p>
 	<p>ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。</p>
 	<p>長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。</p>
 	<p>光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れ、挟まれないようにしてください。 けがの原因になります。</p>

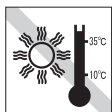
注意

 	光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。
 	マウス底面にある光学式センサーの光を直接見つめないでください。強い光により、視覚障害の原因となります。
 	本機を廃棄する場合は、法律に従って正しい処理をしてください。

製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

本機（コンピュータ）は精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本機を正しく取り扱ってください。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



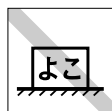
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。本機の誤動作が生じたり、データが破損したりすることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。



電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



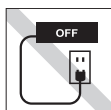
コンピュータ本体を横置きにしないでください。故障、誤動作の原因になります。本機は縦置き専用設計されています。



本機の上には重い物を載せないでください。重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。汚れは、中性洗剤をしたたらない程度に染み込ませた柔らかい布で軽く拭き取ってください。



コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。電源を切っても、本機内部に微小な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



遠隔地に輸送するときや保管するときには、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



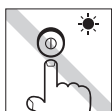
移動するときには、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



アクセラランプ点灯中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

▶記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破損するおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

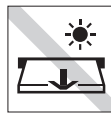
FD FD

CD 光ディスクメディア

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



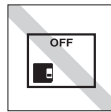
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点灯/点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用したり保管したりしないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

FD



磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。

FD



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD



何度も読み書きしたFDは使わないでください。磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。

CD



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD



シールを貼らないでください。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する場合があります。

CD

▶マウス

マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



落したり、ぶついたりして強い衝撃を与えないでください。



持ち運びの際はマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



レンズ部分に触れないでください。



ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因になります。

目次

製品保護上の注意	7
使用・保管時の注意	7
記録メディア	8
マウス	10

はじめに

マニュアル中の表記	16
本製品の仕様とカスタマイズ	19

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	22
本機を使い始めるまでの手順	22
ご使用前の確認事項	23
添付されているソフトウェア	24
本機でできること	26
各部の名称と働き	27
本体前面	27
本体背面	28
FDD (オプション)	29
コンピュータの設置	30
電源の入れ方とWindowsのセットアップ	39
Windowsが使用できるように なるまでの作業	39
電源を入れる前に	40
電源の入れ方とWindowsの起動	41
Windowsのセットアップ	42
セットアップ完了後の作業	45
Windows使用時の確認事項	47
2回目以降に電源を入れる	47
音量の調節	47
インフォメーションメニューを使う	48
復元ポイントを作成する	50
セキュリティ対策を行う	50
画面表示が消えたときは (省電力機能)	50
Windows CD-ROMを要求された ときは	50
電源の切り方	51
Windowsの終了と電源の切り方	51
再起動	52
ハングアップしたときは	52

コンピュータの基本操作

キーボードを使う	54
キーの種類と役割	54
文字を入力するには	55
日本語を入力するには	55
キーロック表示ランプ	56
ホットキーを使用する	57
USBハブ機能	59
マウスを使う	60
マウスの操作	60
マウスの設定変更	60
FDDを使う (オプション)	61
FDのセットと取り出し	61
FDのフォーマット	63
ライトプロテクト (書き込み禁止)	64
HDDを使う	65
データのバックアップ	65
購入時のHDD領域	66
HDDを分割して使用する	67
HDDを増設・交換したら	67
光ディスクドライブを使う	68
使用可能な光ディスクメディア	68
光ディスクメディアのセットと取り出し	69
強制的な光ディスクメディアの取り出し	71
CDメディアの読み込み・再生	71
DVDメディアの読み込み・再生	71
光ディスクメディアへの書き込み	72
Nero 7 Essentialsの使い方	73
USB機器を使う	75
USB機器の接続と取り外し	75
画面表示機能を使う	77
表示に関する各種設定	77
解像度や表示色を変更するには	78
表示できる解像度と表示色	78
表示装置に関する設定	79
サウンド機能を使う	80
外部オーディオ機器などの接続	80
サウンドユーティリティを使う	81
音量の調節	83
音声の再生・録音	83
サウンドボードを使う	84

ネットワーク機能を使う	85
ネットワークの構築	85
インターネットへの接続	85
そのほかの機能	86
ネットワークボードを使う	86
インターネットに接続するには	87
接続するまでの流れ	87
接続方法の選択とプロバイダとの契約	87
インターネットに接続する	88
インターネットを使う上での注意	89
インターネットや電子メールを利用する	89
インターネットを使用する際のセキュリティ対策	92
Windows Update	92
セキュリティソフトウェア	94
ファイアウォール	95
省電力機能を使う	97
省電力機能使用時の制限	97
省電力状態の種類	98
省電力状態に移行する	100
省電力状態から復帰する	102
SpeedStep (スピードステップ) 機能	102
そのほかの機能	103
パラレルコネクタ	103
シリアルコネクタ	103
ハイパー・スレッディング機能	103
セキュリティロックスロット	104

システムの拡張

拡張できる装置	106
作業時の注意	107
拡張時の準備作業	108
本体カバーの取り外し・取り付け	108
フロントパネルの取り外し・取り付け	111
3.5型フェイスプレートの取り外し・ 取り付け	112
5.25型フェイスプレートの取り外し・ 取り付け	113
メモリの装着	114
メモリの仕様	114
メモリ装着の組み合わせと順番	115
メモリの取り付け・取り外し	115

メモリの増設・交換後の作業	119
拡張ボードの装着	120
拡張スロットの仕様	120
拡張ボードの取り付け・取り外し	121
拡張ボードの取り付け・取り外し後の 作業	124
ドライブ装置とコネクタの接続 (IDE装置の装着)	125
IDEコネクタ	125
S-ATAコネクタ	127
ドライブ装置の接続例	128
3.5型ドライブの装着	129
3.5型ドライブの取り付け・取り外し	129
3.5型ドライブの取り付け・取り外し後の 作業	132
5.25型ドライブの装着	133
5.25型ドライブの取り付け・ 取り外し	133
5.25型ドライブの取り付け・ 取り外し後の作業	136
HDDの装着	137
HDDの取り付け・取り外し	137
HDDの取り付け・取り外し後の作業	140

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	142
BIOS Setupユーティリティの操作	143
BIOS Setupユーティリティの起動	143
BIOS Setupユーティリティの操作	144
BIOS Setupユーティリティの終了	146
設定値をもとに戻す	147
Passwordを設定する	148
起動 (Boot) デバイスの順番を変更 する	151
BIOS Setupユーティリティの設定項目	153
Mainメニュー画面	154
Advancedメニュー画面	155
Power メニュー画面	157
Bootメニュー画面	158
Exitメニュー画面	160
BIOSの設定値	160

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください ...	164
再インストールが必要な場合	164
重要事項	164
ソフトウェアの再インストールを行う	165
必要なメディア	165
インストールの順番	165
インストール作業における確認事項	167
Windows XPのインストール	168
Windows XPをインストールする	169
本体ドライバのインストール	173
Adobe Readerのインストール	174
セキュリティソフトウェアの インストール	174
Nero 7 Essentialsのインストール ...	175
WinDVDのインストール	176
109USBキーボードユーティリティの インストール	176
JWord Pluginのインストール	176
gooスティックのインストール	177
その他のインストール	178
再インストール後の作業	179

こんなときは

トラブルが発生したら	182
困ったときに	183
コンピュータ本体の不具合（起動時） ...	184
コンピュータ本体の不具合	192
メモリの不具合	195
記憶装置の不具合	196
入力装置の不具合	201
表示装置の不具合	203
サウンドの不具合	204
ソフトウェアの不具合	205
ネットワーク、インターネットの 不具合	208
システム診断ツールを使う	209
システム診断ツールの種類	209
システム診断を実行する	209
トラブル時に役立つ機能	211
セーフモードでの起動	211
システムの復元	211
警告メッセージが表示されたら	213

付録

お手入れ	216
本機のお手入れ	216
データのバックアップ	217
バックアップ方法	217
電子マニュアルのダウンロード	219
ダウンロードできるそのほかのデータ	219
セキュリティチップ（TPM）によるデータの 暗号化	220
HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成	221
HDD領域を分割して使用する（概要）	221
Cドライブを分割・変更する	222
Cドライブ以外のドライブを作成・ 変更する	225
Cドライブ以外のドライブを削除する ..	229
リチウム電池の交換	230
CMOS RAMの初期化	233
コンピュータ内部のケーブル接続	235
コンピュータを廃棄するときは	236
HDDのデータを消去する	236
機能仕様一覧	238
索引	239

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

「マニュアル中の表記」	16
「本製品の仕様とカスタマイズ」	19

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。



本書とは別のマニュアルを示します。
例) 『梱包品の確認』: 本機に添付の『梱包品の確認』を示します。




参照先を示します。



1 2



操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。



 はEnterキーを表します。また、 は $N_{み}$ のことで、このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。
この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディア
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition
------------	--

HDD 容量の記述

本書では、HDD 容量を1KByte=1000Byte として記載しています。

Windowsの画面表示に関する記載方法


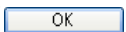
デスクトップ画面

本書では、Windows XPの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタン

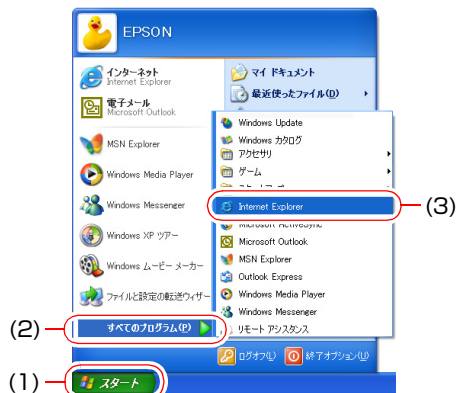
ボタンは [] で囲んで記載します。

例)  スタート : [スタート] /  OK : [OK]

画面操作

本書では、Windows XPの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

- 記載例
[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」をクリックします。
- 実際の操作
(1) [スタート] をクリックします。
(2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
(3) 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様に合わせて、お客様オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

本書で記載しているコンピュータの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバのインストール方法などは、購入時に選択された各装置に添付のマニュアルを参照してください。

メモリ	: 1枚
HDD	: 1台
FDD	: なし
光ディスクドライブ	: 1台
ディスプレイ機能	: メインボードの機能を使用
ネットワーク機能	: メインボードの機能を使用
サウンド機能	: メインボードの機能を使用
FAXモデム機能	: なし
キーボード	: 109USBキーボード
マウス	: ホイール付USBオプティカルマウス

仕様によって必要なマニュアルについて

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、本機のユーザーズマニュアル（本書）とは別に添付されます。

お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されています。ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに収録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピュータに収録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅーわ」から閲覧）

第1章 使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。


「ご使用前に」	22
「添付されているソフトウェア」	24
「本機でできること」	26
「各部の名称と働き」	27
「コンピュータの設置」	30
「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」	39
「Windows使用時の確認事項」	47
「電源の切り方」	51

ご使用前に

▶本機を使い始めるまでの手順


購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。


梱包品に不足や不良がないかを確認する


 『梱包品の確認』(別冊)





本機を使用する前に必要な情報を確認する


 p.2 「安全にお使いいただくために」

 p.7 「製品保護上の注意」


 p.16 「マニュアル中の表記」

 p.19 「本製品の仕様とカスタマイズ」

 p.22 「ご使用前に」


 p.24 「添付されているソフトウェア」

 p.26 「本機でできること」

 p.27 「各部の名称と働き」




コンピュータを設置し、各機器の接続を行う

 p.30 「コンピュータの設置」



電源を入れ、Windowsをセットアップする

 p.39 「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」



使用開始！

▶ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機には、製品情報が記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

- お問い合わせ情報シール

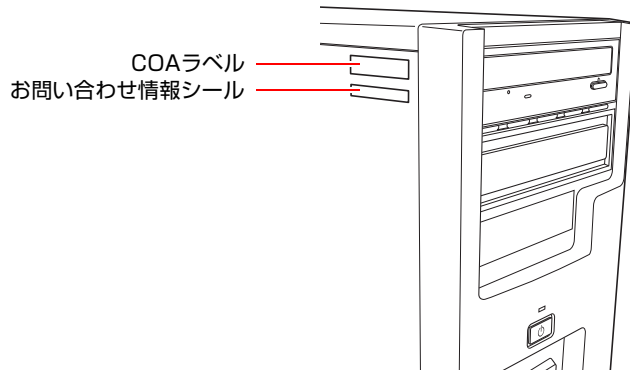
お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。

- COAラベル

COAラベル（Windows Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。



困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。




添付されているソフトウェア

購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールが必要なソフトウェアは次のとおりです。

本機にインストールされているソフトウェア


次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされています。


本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none">● Windows XP 本機のオペレーティングシステム（OS）です。	 Windows XPリカバリCD
<ul style="list-style-type: none">● チップセットドライバ メインボード上のデバイスを使用するためのドライバです。● ビデオドライバ Windowsを高解像度で表示するためのドライバです。● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。● ネットワークドライバ ネットワーク機能（有線LAN）を使用するためのドライバです。● セキュリティチップドライバ セキュリティチップ（TPM）を使用するためのドライバです。● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。● インフォメーションメニュー 本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。● Microsoft .NET Framework .NET Frameworkの開発環境で作成されたアプリケーションなどを使用するためのプログラムです。● Windows Media Player 10 動画や音声を再生するためのソフトウェアです。● システム診断ツール 本機の調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。● Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。	 ドライバCD

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● Nero 7 Essentials (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ) 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。 	 Nero 7 Essentials CD-ROM
<ul style="list-style-type: none"> ● WinDVD (DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ) DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。 	 WinDVD CD-ROM
<ul style="list-style-type: none"> ● 109USBキーボードユーティリティ (109USBキーボード選択時のみ) 109USBキーボードのホットキーを使用するためのユーティリティです。 	 109USBキーボード ユーティリティ CD

必要に応じてインストールが必要なソフトウェア


次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。

 p.45 「セットアップ完了後の作業」

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺検出機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。 	 ドライバCD
<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップ (TPM) の設定を行うためのユーティリティです。 	

その他のソフトウェア

次のソフトウェアは、CDから起動して実行します。インストールは必要ありません。

その他のソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● システム診断ツール 本機の調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。 	 ドライバCD

本機でできること

本機は内蔵装置の増設・交換が可能なタワー型コンピュータです。
本機では、次のような操作ができます。



インターネットやメールを利用する

 p.87

光ディスクを再生する、光ディスクに
データを保存する（オプション）

 p.68

ネットワークに接続する

 p.85

USB機器を使う

 p.75

パラレル接続の機器を使う

 p.103

シリアル接続の機器を使う

 p.103

装置（メモリ・拡張ボード・ドライブ装置）
を増設・交換する

 p.105

省電力機能を使う

 p.97

音声の入力・出力をする

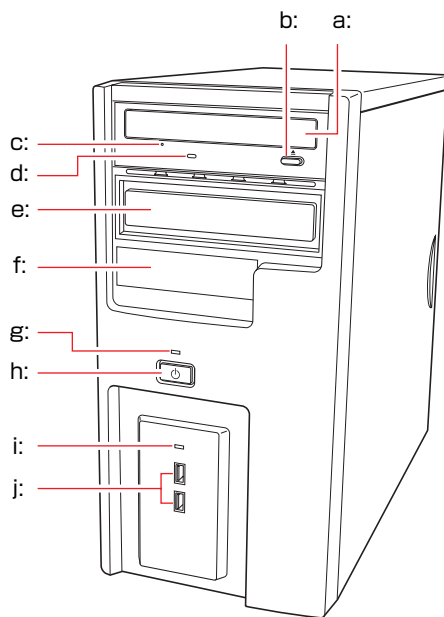
 p.80

FDを使う（オプション）

 p.61

各部の名称と働き

▶ 本体前面



a: 光ディスクドライブ

CD-ROMなどの光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行います。

b: 光ディスクドライブイジェクトボタン

ディスクトレイの開閉を行います。

c: 光ディスクドライブイジェクトホール

ディスクトレイが開閉しなくなったときに使用します。

d: 光ディスクドライブアクセスランプ


光ディスクメディアへのアクセス中に点灯・点滅します。

e: 5.25型ドライブベイ


5.25型のドライブ装置を取り付けます。

f: 3.5型ドライブベイ

3.5型のドライブ装置を取り付けます。


g: 電源ランプ 

電源を入れると点灯し、スタンバイ中は点滅します（購入時の設定）。


h: 電源スイッチ 

本機の電源の入切を行います。

また、スタンバイや休止状態からの復帰にも使用します。

i: HDDアクセスランプ 

HDDへのアクセス中に、点灯・点滅します。

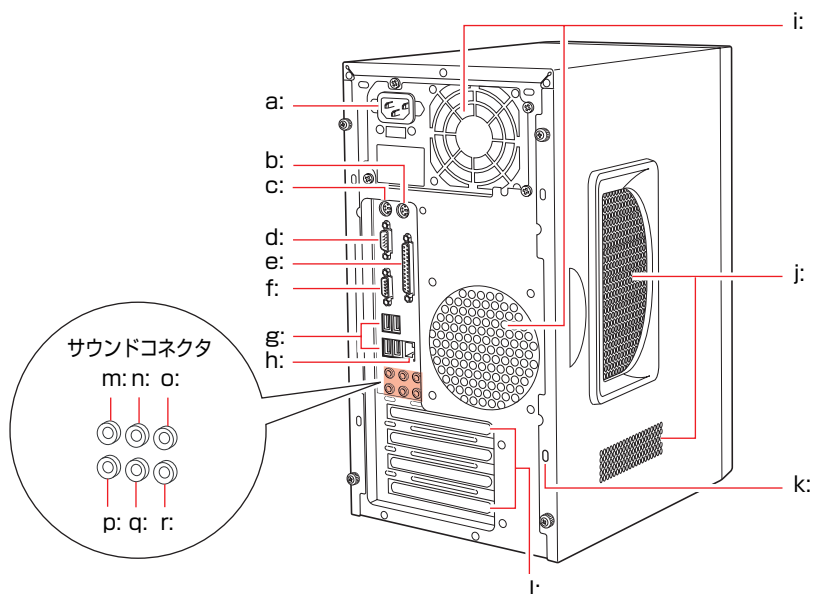
j: USBコネクタ 

USB2.0対応の周辺機器を接続します。




アクセスランプが点灯しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

▶ 本体背面




a: 電源コネクタ


添付の電源コードを接続して電気を供給します。

b: マウスコネクタ 


マウスを接続します。

c: キーボードコネクタ 


キーボードを接続します。

d: シリアルコネクタ 


モデムなど、RS-232Cインタフェースに対応した装置を接続します。

e: パラレルコネクタ 


プリンタや、スキャナなどパラレルコネクタに対応した装置を接続します。

f: VGAコネクタ 

アナログ方式のディスプレイとVGA（アナログ）ケーブルで接続します。

g: USBコネクタ 

USB2.0対応の周辺機器を接続します。

h: LANコネクタ 

LANケーブルを接続します。

i: 冷却ファン

内部で発生する熱を逃したり、冷ましたりします。

j: 通風孔


外気を取り入れます。

k: セキュリティロックスロット


市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。

l: 拡張スロット


拡張ボードを装着します。購入時のシステム構成によっては、あらかじめ拡張ボードが装着されています。

m: サイドスピーカ出力コネクタ 

サイドスピーカと接続して音声を出力します。

n: リアスピーカ出力コネクタ 


リアスピーカと接続して音声を出力します。

o: センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ 


センタースピーカ、サブウーファと接続して音声を出力します。

p: マイク入力コネクタ 

マイクと接続して音声を入力します。

q: フロントスピーカ/ライン出力コネクタ 

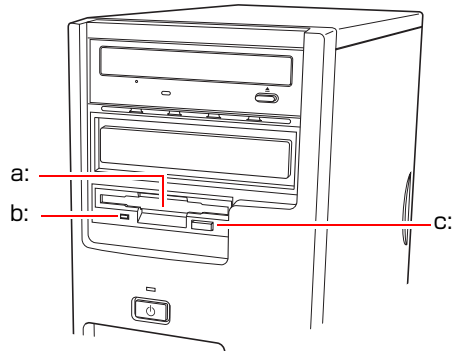
フロントスピーカやヘッドフォンなどと接続して音声を出力します。通常、スピーカはこのコネクタに接続します。

r: ライン入力コネクタ 

オーディオ機器と接続して音声を入力します。

▶FDD (オプション)

本機購入時にFDDをオプション選択された場合、本機にはあらかじめFDDが装着されています。



a: 3.5型FDD

3.5型FDのデータの読み込み、書き込みを行います。

b: FDDアクセスランプ

FDに読み書きを行っているときに点灯します。

c: FDDイジェクトボタン

FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。


ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ完了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・ 押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
 - ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、 p.7「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード（ケーブル）接続時の注意



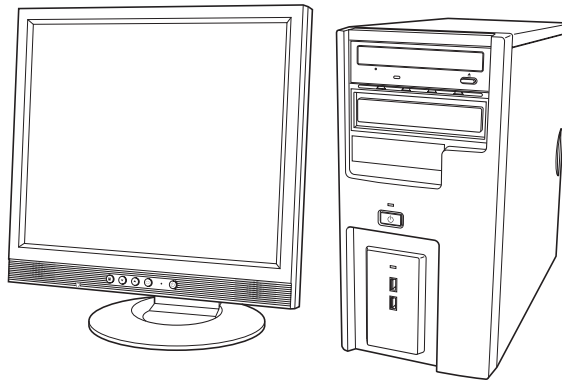
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



- 各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカを使用するときは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

設置

- 1** 本機とディスプレイを設置場所（机などの丈夫で水平な台の上）に置きます。本機は横置きで使用できません。必ず縦置きでお使いください。設置した際に通風孔をふさがないようにしてください。



ディスプレイの接続

ディスプレイ側の接続方法や注意事項などの詳細は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

2 ディ스플레이のVGAケーブルを、本機背面のVGAコネクタ（青色）に接続します。

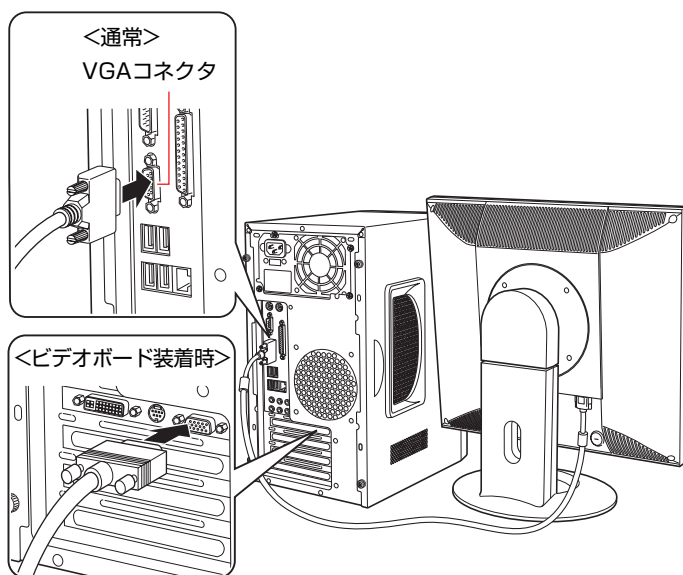
<ビデオボード装着時>

ディスプレイのケーブルをビデオボードのコネクタに接続します。ビデオボードのコネクタは、選択されたビデオボードにより異なります。

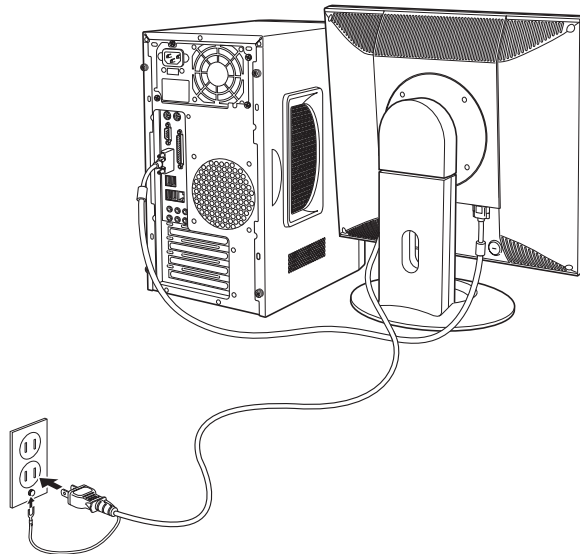
アナログ接続の場合：VGAケーブルをVGAコネクタに接続

デジタル接続の場合：DVI-DまたはDVI-IケーブルをDVI-DまたはDVI-Iコネクタに接続

ディスプレイがデジタル/アナログ両用の場合は、デジタル接続で使用します。



3 ディスプレイの電源コードを家庭用電源コンセントに接続します。



キーボードの接続


4 キーボードを接続します。

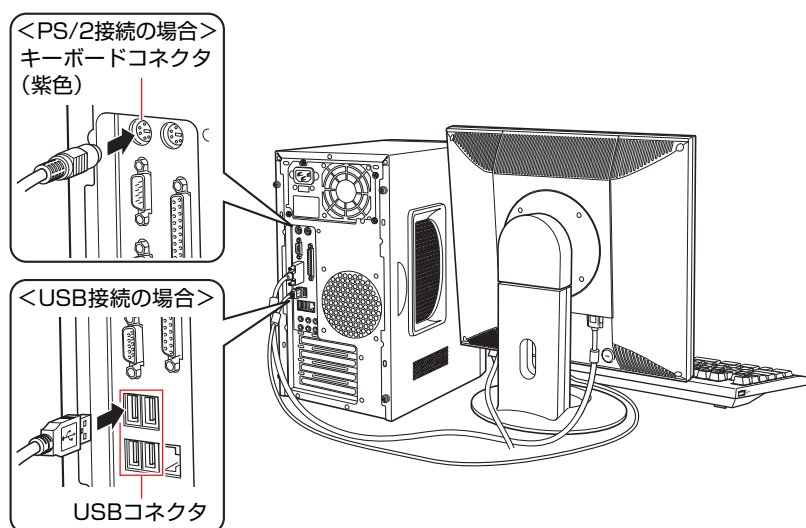
ここでは一般的な接続方法を説明しています。お使いになるキーボードにマニュアルが添付されている場合は、そちらをご覧ください。

<PS/2接続の場合>

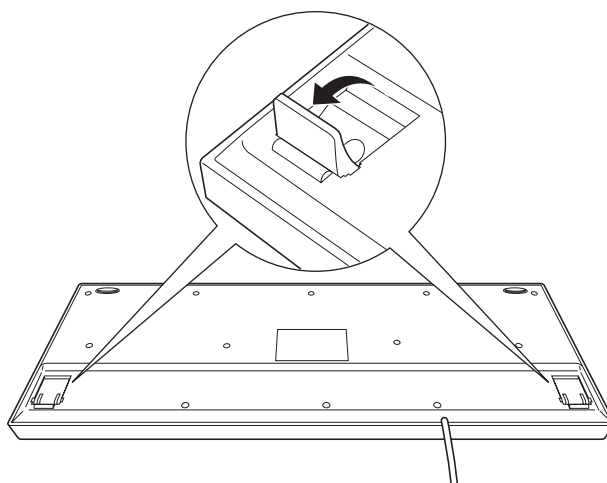
キーボードケーブルのコネクタを本機背面のキーボードコネクタ（紫色）に接続します。

<USB接続の場合>

キーボードケーブルのコネクタを本体背面のUSBコネクタ（)に接続します。4つのUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。



キーボードは操作しやすい位置に置き、傾斜させるときはキーボード底面の両端の脚を起こします。



マウスの接続


5 マウスを接続します。

ここでは一般的な接続方法を説明しています。お使いになるマウスにマニュアルが添付されている場合は、そちらをご覧ください。

<PS/2接続の場合>


マウスケーブルのコネクタを本機背面のマウスコネクタ（緑色）に接続します。

<USB接続の場合>

マウスケーブルのコネクタをキーボード側面のUSBコネクタ（)に接続します。

利き手側の側面のUSBコネクタに接続してください。

左側のコネクタにマウスを接続した場合は、Windowsのセットアップ後にマウスを左利き用に設定します。

 p.60 「マウスの設定変更」



スピーカの接続

本機にスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、スピーカやスピーカが搭載されているディスプレイなどを接続してください。

ここでは一般的な接続方法を説明します。

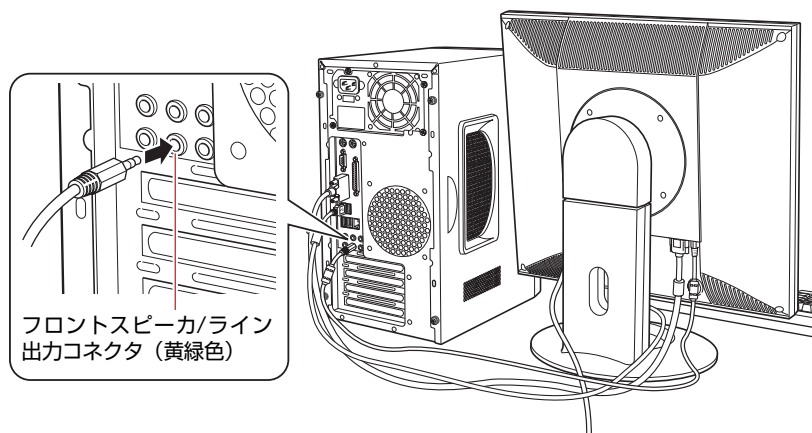
詳しくはディスプレイやスピーカに添付のマニュアルをご覧ください。

6 ディスプレイやスピーカのオーディオケーブルを本機背面のサウンドコネクタに接続します。

スピーカにより、接続するオーディオケーブルの数は異なります。オーディオケーブルが1本の場合は、フロントスピーカ/ライン出力コネクタ（黄緑色）に接続します。

スピーカを接続した場合は、サウンドユーティリティでの設定が必要です。Windowsのセットアップ後に設定を行ってください。

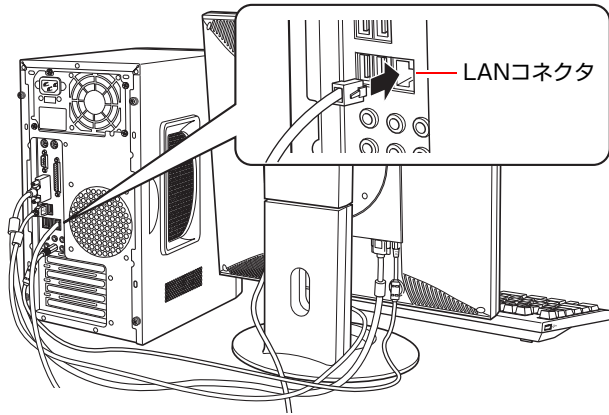
 p.81 「サウンドコネクタの設定」



ネットワークへの接続

- 7** ネットワークに接続できる環境で、ネットワーク機能を使用する場合は、市販のLANケーブルをLANコネクタ（品）に接続します。

インターネットへの接続作業はWindowsのセットアップ後に行います。接続方法は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。



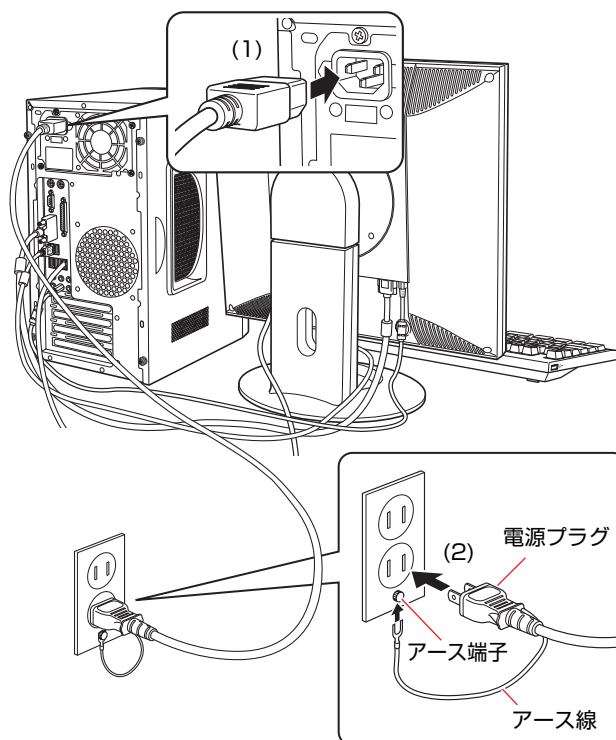
電源コードの接続

8 電源コードを接続します。

(1) 電源コードを本機背面の電源コネクタに接続します。

(2) 電源プラグを家庭用電源コンセントに接続します。

アース線は、必ずコンセントのアース端子に接続してください。




これで本機の設置は完了です。

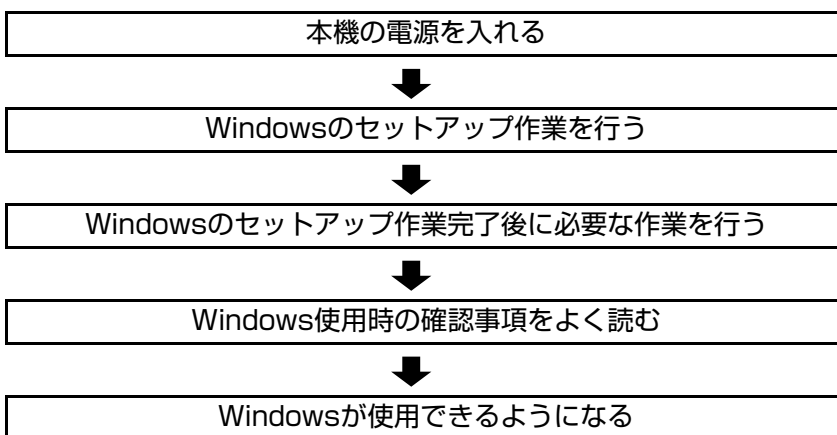
続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、本機にはじめて電源を入れて、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

▶Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。 p.40 「電源を入れる前に」以降の手順に従って作業を行ってください。



▶電源を入れる前に

Windowsのセットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って、セットアップを簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスを使用して行います。セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

- マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタもマウスを動かした方向に動きます。

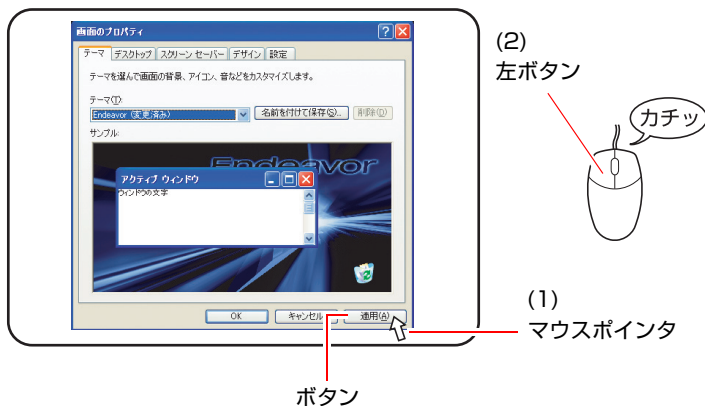


- ボタンをクリックする

- (1) マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。
- (2) マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

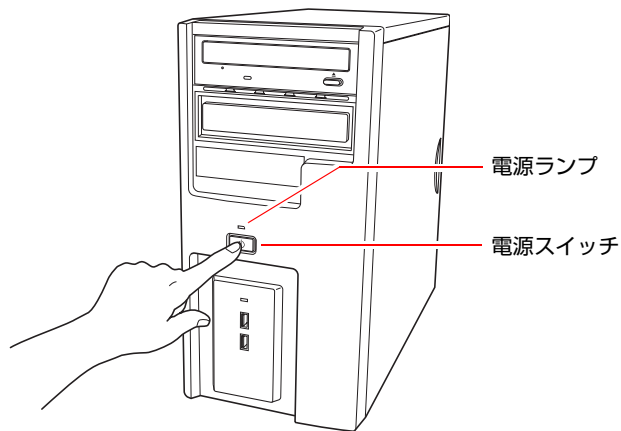
画面のボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



▶電源の入れ方とWindowsの起動


本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1** ディスプレイやスピーカなどの電源を入れます。
- 2** 本機の電源スイッチ (⏻) を押して、本機の電源を入れます。
電源ランプ (①) が点灯します。
電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認してください。



- 3** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。
画面に何も表示されない場合は、ディスプレイが正しく接続されているか、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

続けてWindowsのセットアップを行います。

 p.42 「Windowsのセットアップ」

▶Windowsのセットアップ

セットアップ中に入力する項目

Windowsのセットアップ中に入力する項目の中で、特に注意が必要な内容について記載しています。入力の際に参考にしてください。

- コンピュータ名

「コンピュータ名」は、本機をネットワークに接続して使用する場合などに必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

<ネットワークに接続しない場合>

セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。

<ネットワークに接続する場合>

ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を変更します。

- パスワード (Windows XP Professionalのみ)

本機を個人で使用/管理する場合は、任意のパスワードを設定します (設定しなくても問題はありません)。企業などで、使用者とは別に本機を管理する方がいる場合は、管理者の指示に従って入力します。

このパスワードは、「Administrator」(アカウント)のパスワードです。「Administrator」(アカウント)でログオンする際に、このパスワードを入力しログオンします。

パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。

- ユーザー名

ユーザー名は少なくとも1つ入力します。本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザー名をいくつか入力すると、Windows XPをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で使用することができます。

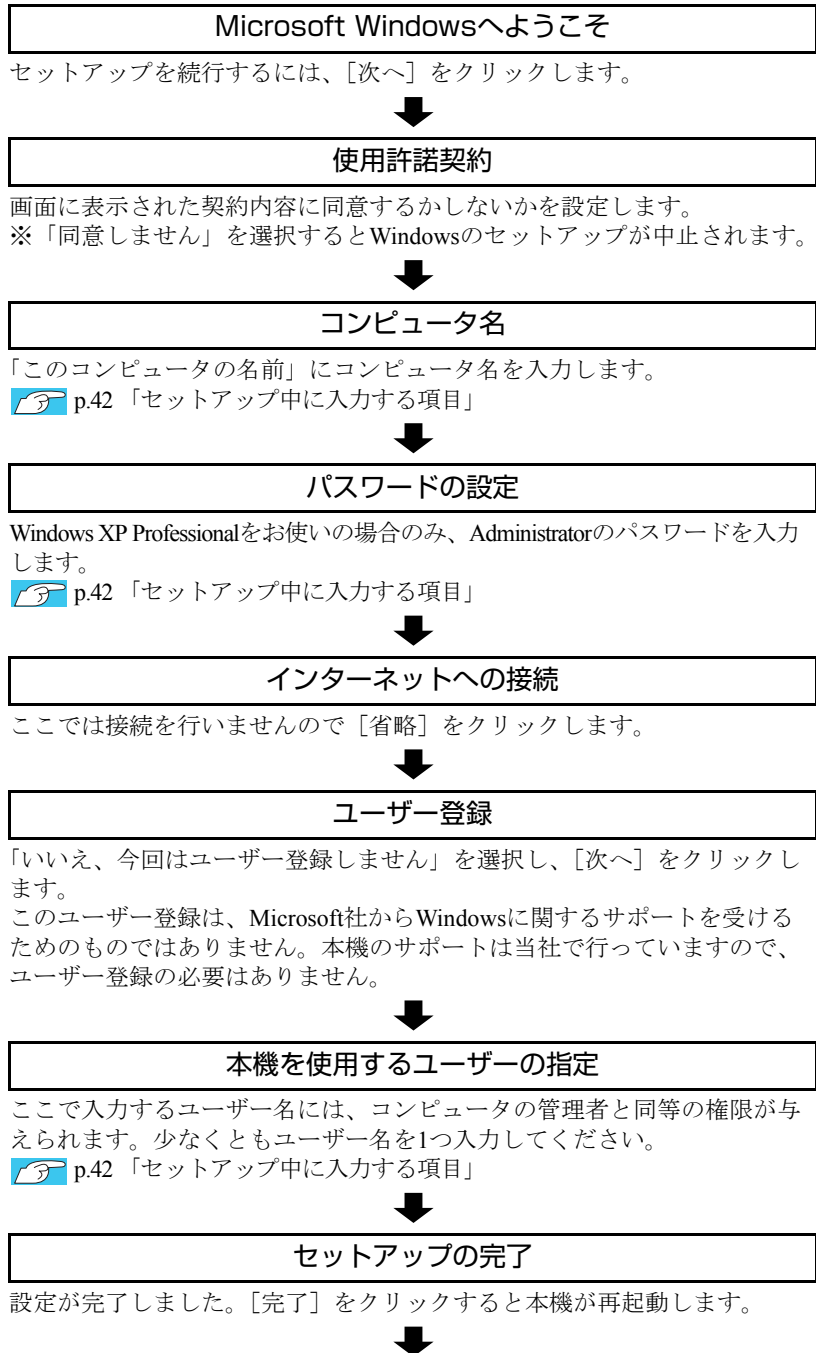


「Administrator」(アカウント)

「Administrator」(アカウント)とは、すべての機能にアクセスできるシステム管理用のユーザーアカウント権限のことです。

Windows XPのセットアップ

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って、セットアップを行ってください。セットアップの流れは、次のとおりです。



デスクトップ画面の表示


Windowsが再起動すると、Windowsのデスクトップ画面が表示されます。

セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windowsの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。使用するユーザー名をクリックすると、デスクトップ画面が表示されます。



<壁紙は予告なく変更する場合があります>

これでWindows XPのセットアップは完了です。

続けて、 p.45 「セットアップ完了後の作業」を行います。

参考

ユーザー登録とライセンス認証（アクティベーション）

- セットアップ中にスキップしたユーザー登録を行う場合は、[スタート] – 「ファイル名を指定して実行」 – 「REGWIZ □/R」（□はスペース）を実行します。ウィザード画面の指示に従ってください。
- 当社より提供されたWindows XP（購入時に本機にインストールされているもの、および「Windows XPリカバリCD」より再インストールを行ったもの）は、ライセンス認証を行う必要はありません。

▶セットアップ完了後の作業

Windows のセットアップが完了したら、次の作業を行います。

初期設定ツール

Windowsのセットアップが完了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。初期設定ツールは、本機を使用する前に必要な設定を行うためのツールです。画面に従って設定を行ってください。

セキュリティソフトウェアのインストール

購入時、本機にセキュリティソフトウェアはインストールされていません。初期設定ツールの「セキュリティ設定」画面の指示に従ってインストールしてください。

<通常の場合>

通常は、本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。インストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用前に』（別冊）をご覧ください。

<セキュリティソフトウェアをオプション購入された場合>

本機購入時にオプション選択でセキュリティソフトウェアの製品版を購入された場合は、「セキュリティ設定」画面で製品版を選択してインストールしてください。


セキュリティソフトウェアによっては、初期設定ツールからインストールできないものもあります。初期設定完了後にセキュリティソフトウェアに添付のCDからインストールしてください。

ネットワークに接続する

ネットワーク機能（有線LAN）を使用する場合は、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

Windows Updateを行う


はじめてインターネットに接続する場合は、はじめに手動で「Windows Update」を行います。

 p.92 「Windows Update」


Windows Updateを行うと、本機の状態を診断して、コンピュータウイルスに感染することを防ぐためのプログラムや最新の機能などがインストールされ、Windowsを快適に使用できるようになります。

マニュアルびゅうわのバックアップ

「マニュアルびゅうわ」とは、本機に添付されているマニュアルやお知らせをコンピュータ上で見ることができるソフトウェアです。「マニュアルびゅうわ」は、インフォメーションメニューから起動することができます。

 p.48 「インフォメーションメニューを使う」

「マニュアルびゅうわ」は、Windowsを再インストールすると消去されます。あらかじめバックアップを行ってください。

 p.218 「マニュアルびゅうわのバックアップ」

その他の設定

購入時にFAXモデムボードなどを選択している場合は、設定や接続を行います。詳しくは各機器に添付のマニュアルをご覧ください。


Windows使用時の確認事項

「セットアップ完了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用前に次の事項を確認してください。


Windowsの使用方法は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

▶2回目以降に電源を入れる

セットアップが完了した本機の電源を入れる際は、次の点に注意してください。

- 電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。
Windowsが省電力状態に移行すると、本機が動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうように注意してください。
 p.97 「省電力機能を使う」
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れる。
電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- 周辺機器の電源をいつ入れるか確認する。
本機よりも先に入れるか後に入れるかは、周辺機器によって異なります。周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。



- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
 p.151 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

▶音量の調節

スピーカを接続していて、Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合には、音量を調節します。


 p.83 「音量の調節」


▶インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

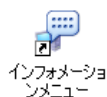
起動方法

インフォメーションメニューの起動方法は、次のとおりです。

- キーボードのインフォメーションボタン  を押す。

 p.54 「キーボードを使う」

- デスクトップ上の「インフォメーションメニュー」アイコンをダブルクリックする。



- スタートメニューから起動する。

「インフォメーションメニュー」が起動すると次の画面が表示されます。




インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューの各項目の内容は次のとおりです。

- マニュアルびゅーわ

本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブのPDFマニュアル、「Nero 7 Essentials」や「WinDVD」などのソフトウェアに添付されているマニュアルを見ることができます。

「マニュアルびゅーわ」はWindowsを再インストールすると削除されてしまいます。Windowsの再インストールをする際は、必ず「マニュアルびゅーわ」のバックアップを行ってください。

 p.218 「マニュアルびゅーわのバックアップ」



「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとする時、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう・・・」と警告が表示される場合があります。

この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

- PCお役立ち情報

コンピュータに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。


- とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

 p.182 「トラブルが発生したら」

- ユーザーサポートページ (Web)

技術的な情報やトラブルの解決方法、保証サービスなどについてご案内しています。マニュアルやドライバ、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。

 p.219 「電子マニュアルのダウンロード」

「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

- サポート情報検索 (Web)

「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。とらぶる解決ナビで本機の不具合が解決できなかった場合をご覧ください。

「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。


- トラブルが解決しなかったら

技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先、メールサポートの方法などを掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合をご覧ください。

▶ 復元ポイントを作成する

Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくことで、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた復元ポイントまでシステムの状態を戻すことができます。


復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

 p.212 「復元ポイントを手動で作成する」

▶ セキュリティ対策を行う


本機には、本機を外部と接続することで高まる危険から、本機を守るためのセキュリティ機能が搭載されています。

インターネットに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。

 p.92 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

▶ 画面表示が消えたときは (省電力機能)

本機は、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるよう、設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています (購入時の設定)。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。

 p.102 「省電力状態から復帰する」

▶ Windows CD-ROMを要求されたときは

本体ドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、添付の「Windows XPリカバリCD」をセットしてください。

電源の切り方

ここでは、電源の切り方について説明します。



- 電源を切って、もう一度入れなおす場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- アクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

1

▶ Windowsの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

- 1** [スタート] - [終了オプション] をクリックします。
- 2** 「コンピュータの電源を切る」画面で [電源を切る] をクリックします。
Windows XPが終了し、自動的に本機の電源が切れます。
- 3** ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてから、電源を切ってください。

▶再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」といいます。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は、次のとおりです。

1 [スタート] - 「終了オプション」 - 「再起動」をクリックします。

次のような場合には、Windowsを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから再度電源を入れなおしてみてください。

▶ハングアップしたときは

アプリケーションやWindowsがキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態をハングアップと言います。

ハングアップした場合は、アプリケーションの強制終了を行います。アプリケーションの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

アプリケーションの強制終了

アプリケーションの強制終了方法は、次のとおりです。

- 1 **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押し、「Windows タスクマネージャ」を起動します。
- 2 「アプリケーション」タブからハングアップしているアプリケーションを選択して「タスクの終了」をクリックします。
- 3 「プログラムの終了」画面が表示されたら、「すぐに終了」をクリックします。

強制的に電源を切る

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。


- 1 本機の電源スイッチ (⏻) を5秒以上押し続けます。
本機の電源が切れます。

第2章 コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

「キーボードを使う」	54
「マウスを使う」	60
「FDDを使う（オプション）」	61
「HDDを使う」	65
「光ディスクドライブを使う」	68
「USB機器を使う」	75
「画面表示機能を使う」	77
「サウンド機能を使う」	80
「ネットワーク機能を使う」	85
「インターネットに接続するには」	87
「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」	92
「省電力機能を使う」	97
「そのほかの機能」	103

キーボードを使う

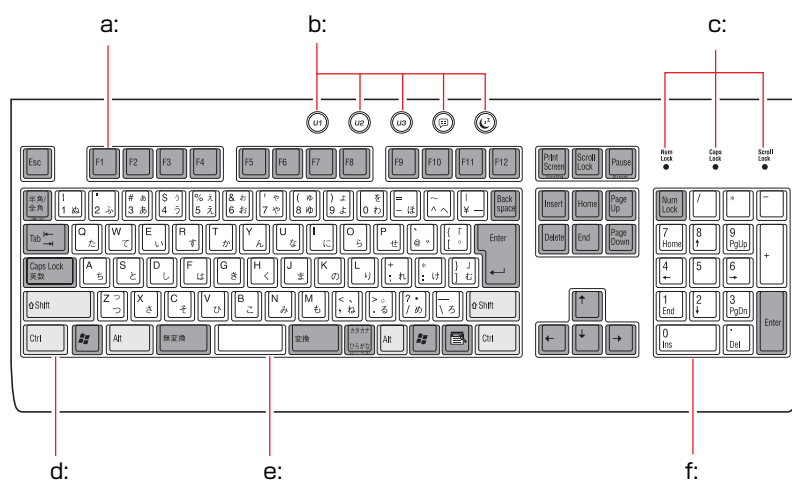
ここでは日本語対応109 USBキーボードについて説明します。キーボードの接続方法は、 p.30 「コンピュータの設置」をご覧ください。

購入時にこのほかのキーボードを選択し、キーボードにマニュアルが添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

▶キーの種類と役割

109個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。


入力キー




a: 機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割はソフトウェアによって異なります。

b: ホットキー

 p.57「ホットキーを使用する」

c: キーロック表示ランプ

 p.56「キーロック表示ランプ」

d: 制御キー


文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

e: 文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

f: 数値キー

数字、演算子などを入力します。


 の状態によりキーの機能が変わります。

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



a: 入力モード

入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ

MS-IMEの詳しい説明を見ることができます。

c: かなキーロック

日本語入力モードの切り替えを行います。








ボタンが押されていない状態：ローマ字入力

ボタンが押されている状態：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。


Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字/小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

▶ホットキーを使用する


USB109キーボードには、3種類のホットキーが搭載されています。


- Uボタン   

Uボタンには、お好きな機能を割り当てることができます。


 p.57 「Uボタンの設定」


Uボタンは、キーボードユーティリティが起動していないと使用できません。

 p.59 「キーボードユーティリティの起動」


- インフォメーションボタン 

押すと、インフォメーションメニューが開きます。

 p.48 「インフォメーションメニューを使う」

- スリープボタン 

押すと、本機がスタンバイモードになります。

 p.97 「省電力機能を使う」

Uボタンの設定


Uボタンに機能を割り当てる方法は次のとおりです。

ここでは、U1ボタンに機能を割り当てる方法を説明します。U2、U3ボタンの場合も、割り当て方法は同様です。

- 1 画面右下の通知領域に表示されている「Hotkey Setup」アイコンを右クリックします。



<Hotkey Setupアイコン>

「Hotkey Setup」アイコンが表示されていない場合は、 p.59 「キーボードユーティリティの起動」をご覧ください。

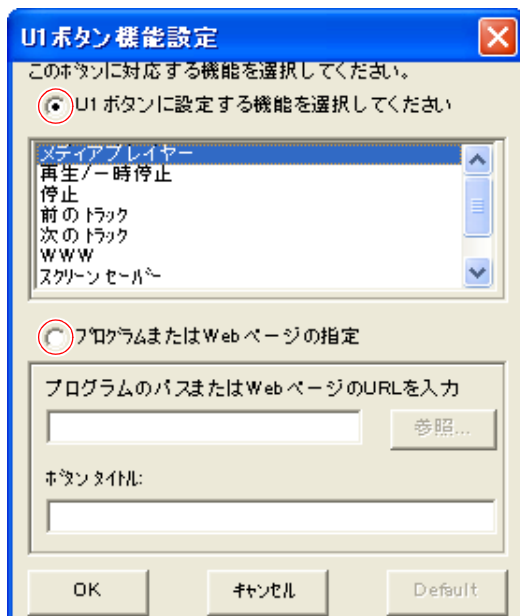
- 2 表示されたメニューから「Config」をクリックします。



- 3 「ホットキー設定ユーティリティ」画面が表示されたら、画面のU1ボタンをクリックします。



- 4** 「U1ボタン機能設定」画面が表示されたら、「U1ボタンに設定する機能を選択してください」か「プログラムまたはWebページの指定」を選択します。



< 「U1ボタンに設定する機能を選択してください」を選択した場合 >

「U1ボタン機能設定」画面に表示されている機能を選択します。

< 「プログラムまたはWebページの指定」を選択した場合 >

「プログラムのパスまたはWebページのURLを入力」欄に、直接パスまたはURLを入力するか、[参照] をクリックし、プログラムまたはURLのショートカットなどを選択します。

- 5** 設定が完了したら、[OK] をクリックします。

- 6** 「ホットキー設定ユーティリティ」画面を閉じます。

これで、ボタンの設定は完了です。ボタンを押すと、割り当てた機能を使用することができます。

キーボードユーティリティの起動

通知領域に「Hotkey Setup」アイコンが表示されていない場合は、キーボードユーティリティが起動していません。次の方法で、キーボードユーティリティを起動します。

1 「スタート」 - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

2 「名前」に「MHOTKEY」と入力し、[OK] をクリックします。

通知領域にHotkey Setupアイコンが表示されます。

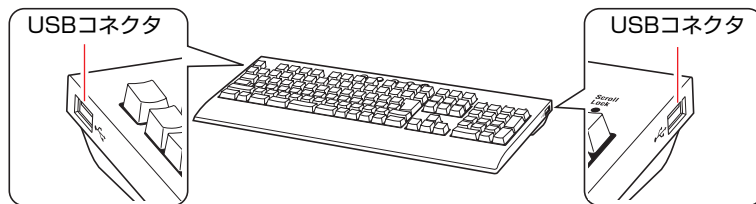


<Hotkey Setupアイコン>

以上の操作を行ってもアイコンが表示されない場合は、Windowsを再起動してみてください。

▶ USBハブ機能

USB109キーボードの側面には、USB1.1に対応した2個のUSBコネクタが搭載されています。キーボードをコンピュータに接続することにより、USBハブのようにキーボードのUSBコネクタを使用することができます。




片方のUSBコネクタには、マウスを接続します。もう一方には、USB機器を接続して使用することができます。



- キーボードのUSBコネクタは、USB 1.1対応のため、USB 2.0機器を接続した場合でも、USB 1.1の転送速度で動作します。
- キーボードのUSBコネクタは、100mA以上の電力を必要とするUSB機器を接続して使用することはできません。USB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

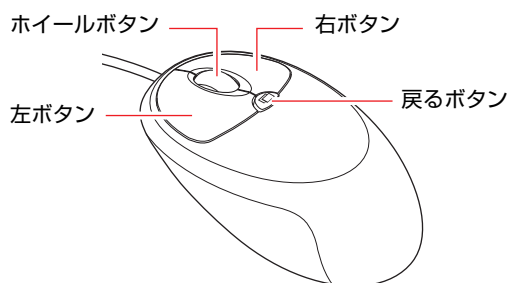
マウスを使う

ここでは、ホイール付USBオプティカルマウスについて説明します。マウスの接続方法は、 p.30 「コンピュータの設置」をご覧ください。
購入時にこのほかのマウスを選択し、マウスにマニュアルが添付されている場合は、マウスに添付のマニュアルで使用方法をご確認ください。

▶マウスの操作



- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピュータに伝わりません。
- アプリケーションソフトによっては、ホイールボタン、戻るボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを1回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。
戻る	戻るボタンを押すと、Internet Explorerやエクスペラなどで「戻る」の操作を行うことができます。

▶マウスの設定変更

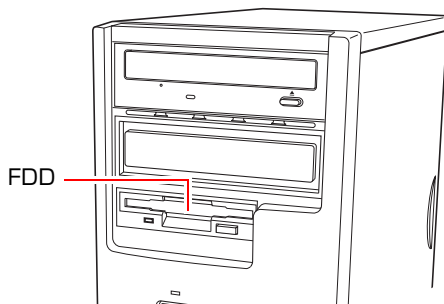
マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

【スタート】 - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとその他のハードウェア」 - 「マウス」

詳しくは、ヘルプをご覧ください。

FDDを使う（オプション）

FDD（フロッピーディスクドライブ）は、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機購入時にFDDをオプション選択された場合、本機にはあらかじめFDDが装着されています。



本機内蔵のFDDでは、次のFDが使用できます。

- 3.5型2HD
1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD
720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

▶FDのセットと取り出し

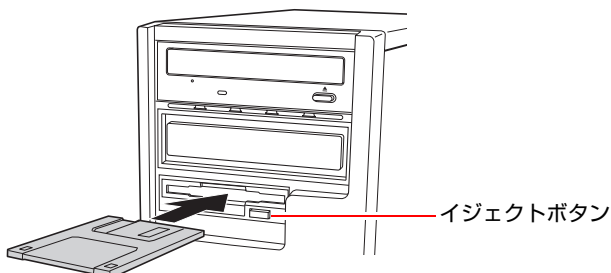


制限

- FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、再起動したりしないでください。FD内のデータが破損するおそれがあります。
- コンピュータの電源を切る場合やコンピュータを再起動する場合は、必ずFDを取り出してから行ってください。

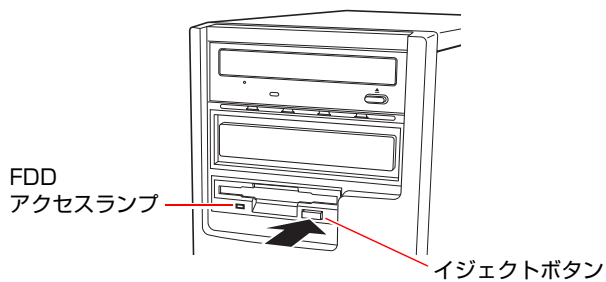
セット方法

- 1 ラベル面を上にして、FDをFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。

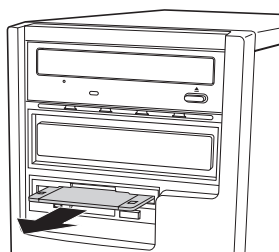


取り出し方法

- 1** アクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。



- 2** FDが飛び出したら、静かに引き抜きます。



▶FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することです。新しいFDを使用する場合や、収録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットを行います。



制限

- FDをフォーマットすると、FD内のデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが収録されていないことを確認してください。
- Windows XPでは、720KBのFDをフォーマットすることはできません。

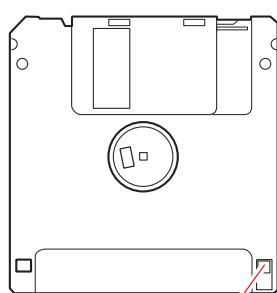
フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使った通常のFDのフォーマット方法は、次のとおりです。

- 1** FDDにFDをセットします。
- 2** [スタート] - 「マイコンピュータ」をクリックします。
- 3** 「3.5インチFD」を右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
- 4** [開始] をクリックします。「警告」が表示された場合は、[OK] をクリックします。
- 5** 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順4～5を繰り返します。
- 6** [閉じる] をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。これでFDのフォーマットは完了です。

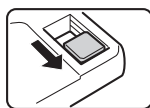
▶ライトプロテクト (書き込み禁止)

ライトプロテクトとは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDは、データの書き込み、削除、フォーマットをすることができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておく心安心です。ライトプロテクトは、FD裏面のライトプロテクトタブで行います。



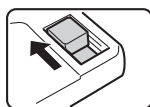
ライトプロテクトタブ

・書き込み禁止状態



窓が開いているとライトプロテクト状態です。

・書き込み可能状態



窓が閉じているとデータを書き込むことができる状態です。

HDDを使う

本機には、Serial ATA（以降S-ATA）II仕様のHDD（ハードディスクドライブ）が搭載されています。

HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。




- 誤った操作で重要なデータが破損しないように次の点に注意してください。
 - ・ HDDを分解しないでください。
 - ・ HDD アクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破損するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- 本機にIDE仕様のHDDは接続できません。

2

▶データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、CDメディアや外付けHDDなどにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップの方法は、 p.217 「データのバックアップ」をご覧ください。

▶購入時のHDD領域

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

<通常>

HDD	ドライブ（領域）	容量
1台目	Cドライブ	1台すべて
2台目 (装着されている場合)	Dドライブ	2台目のすべて
3台目 (装着されている場合)	Eドライブ	3台目のすべて

<HDD設定変更サービスを選択された場合>

HDD	ドライブ（領域）	容量
1台目	Cドライブ	購入時に選択された容量
	Dドライブ	残り
2台目 (装着されている場合)	Eドライブ	2台目のすべて
3台目 (装着されている場合)	Fドライブ	3台目のすべて

すべてのドライブはNTFSファイルシステムでフォーマットされています。



HDD設定変更サービス

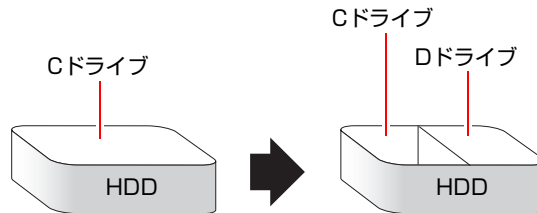
HDD設定変更サービスとは、購入時にあらかじめ1台目のHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピュータをお届けするサービスのことです。


▶HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。


<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。



Cドライブを分割する場合は、Windowsの再インストールが必要です。
詳しくは、 p.22 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

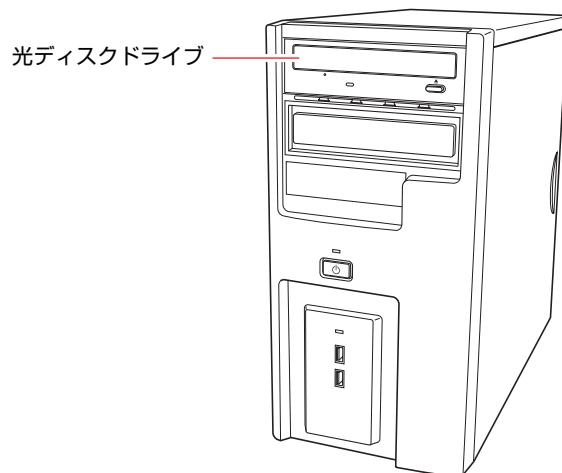
▶HDDを増設・交換したら

HDDを増設・交換した場合は、 p.225 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。ドライブの作成を行ってください。

光ディスクドライブを使う

本機には購入時に選択された光ディスクドライブが搭載されています。光ディスクドライブは、CD-ROMなどの光ディスクメディアを使用するための機器です。

ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



注意

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。



制限

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロールCD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みやDVDの再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅうわ」－「光ディスクドライブPDFマニュアル」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

▶光ディスクメディアのセットと取り出し

光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

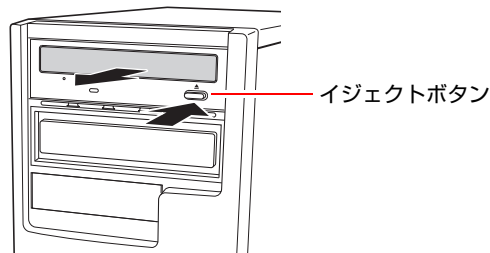


制限

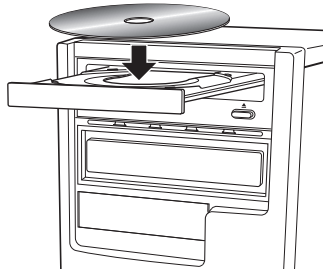
- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

セット方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



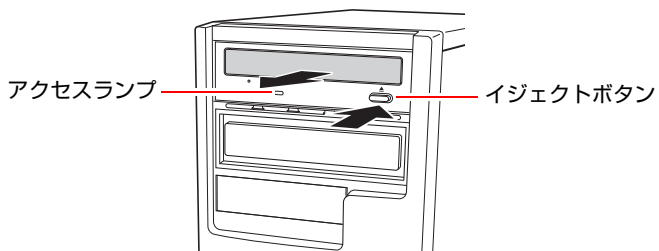
- 2 印刷面を上にして、光ディスクメディアをディスクトレイのくぼみにセットします。



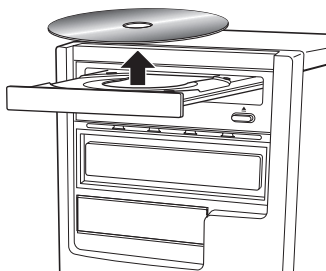
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1 アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2 光ディスクメディアをディスクトレイから取り出します。



- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。


▶強制的な光ディスクメディアの取り出し

次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合
- 光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は次のとおりです。

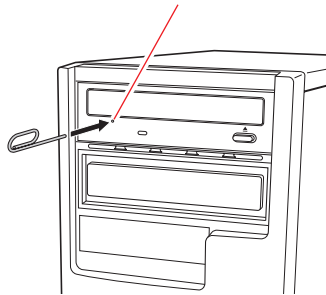
- 1 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。

 p.51 「電源の切り方」

- 2 イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。

お使いの光ディスクドライブによりイジェクトホールの位置は異なります。

イジェクトホール



- 3 ディスクトレイが少し飛び出したら、ディスクトレイを引き出し、光ディスクメディアを取り出します。

▶CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

▶DVDメディアの読み込み・再生

<DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時>

DVD再生機能のあるドライブでは、データが収録されたDVDメディアを読み込めるほかに、ビデオ編集ソフトで作成したDVDなどの再生ができます。再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD VIDEOの再生には「WinDVD」を使用します。

WinDVDはデスクトップ上の「WinDVD」アイコンをダブルクリックして起動します。



WinDVDの詳細な使用 방법은、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「WinDVD ユーザーズマニュアル」

DVD VIDEO再生時の制限

WinDVDでDVD VIDEOの再生をする場合、解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。

DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

 p.78 「解像度や表示色を変更するには」

 p.79 「リフレッシュレートの設定」

▶光ディスクメディアへの書き込み

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。書き込み可能なメディアについては、次をご覧ください。


「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「光ディスクドライブPDFマニュアル」



作成した DVD VIDEO は、市販の DVD プレイヤーで再生できますが、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。


 p.73 「Nero 7 Essentialsの使い方」

書き込み時の注意

- 省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.100 「時間経過で移行させない」

- 速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、光ディスクドライブのPDFマニュアルで確認できます。

▶ Nero 7 Essentialsの使い方

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

ライティングソフト「Nero 7 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

使い方

Nero 7 Essentialsの起動方法は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。



<Neroアイコン>

2 Nero 7 Essentials画面が表示されます。



Nero 7 Essentialsの詳細な使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅーわ」 - 「Neroユーザーガイド」

InCD

メディアをパケットライトソフト「InCD」でフォーマットすると、ドラッグアンドドロップするだけでデータの書き込みを行うことができます。

InCDの詳しい使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅーわ」 - 「InCDユーザーマニュアル」



- InCDで使用できる光ディスクメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
- InCDでフォーマットしたメディアはNero 7 Essentialsで書き込みを行うことはできません。書き込みを行う場合は、Nero 7 Essentialsで「ディスクの消去」を行ってください。

有償アップグレードについて

本機にインストールされているNero 7 Essentialsは、Nero製品版「Nero 7 Premium」に特別優待価格でアップグレードすることができます。アップグレードをご希望の方は、デスクトップ上の「Neroオンラインアップグレード」から申し込みを行ってください。




USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが、前面に2個、背面に4個、合計6個搭載されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。6個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。



- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。

 p.151 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

2

USB2.0の転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コネクタに接続するすべての周辺機器で共有します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

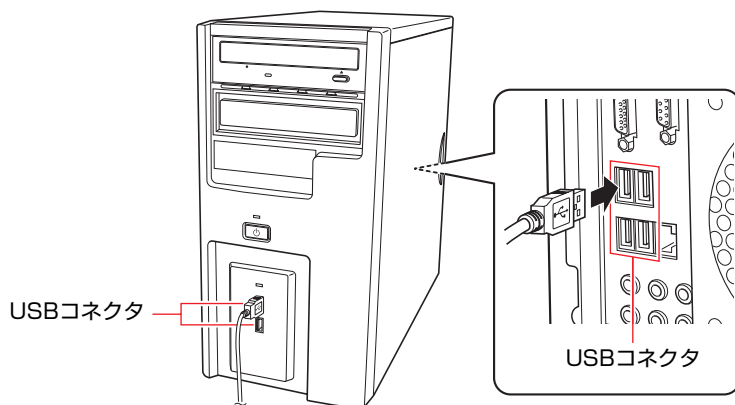
▶USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

接続

USB機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1 USB機器のUSBコネクタを、本機前面または背面のUSBコネクタ (⇄) に接続します。



- 2** USB 機器によっては、画面右下の通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。



<取り外しアイコン>

接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくはUSB機器に添付のマニュアルをご覧ください。



接続したUSB機器の確認

接続したUSB機器を確認するには、「取り外し」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で [プロパティ] をクリックします。

USB機器の取り外し

USB機器の取り外しは、コンピュータの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

● そのまま取り外す

「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。

● USB機器の終了処理をして取り外す

「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB機器の終了処理の方法は次のとおりです。

- 1** 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。
- 2** 表示されたメニューから「(取り外したいUSB機器) - - - を安全に取り外します」を選択します。
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E) を安全に取り外します



- 3** 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB機器を本機から取り外します。


画面表示機能を使う

本機のメインボード上には画面表示機能が搭載されています。
ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。
オプションでADD2ボードやビデオボードを購入された場合は、ボードに添付の
マニュアルをご覧ください。

参考

セーフモードでの起動

接続しているディスプレイの設定が正しくない場合や、本機の画面表示機能では表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで再起動して再設定を行ってください。

 p.211 「セーフモードでの起動」

2

▶表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は、「画面のプロパティ」の「設定」タブで行います。
設定画面は、次の場所から表示できます。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップの表示とテーマ」
- 「画面解像度を変更する」

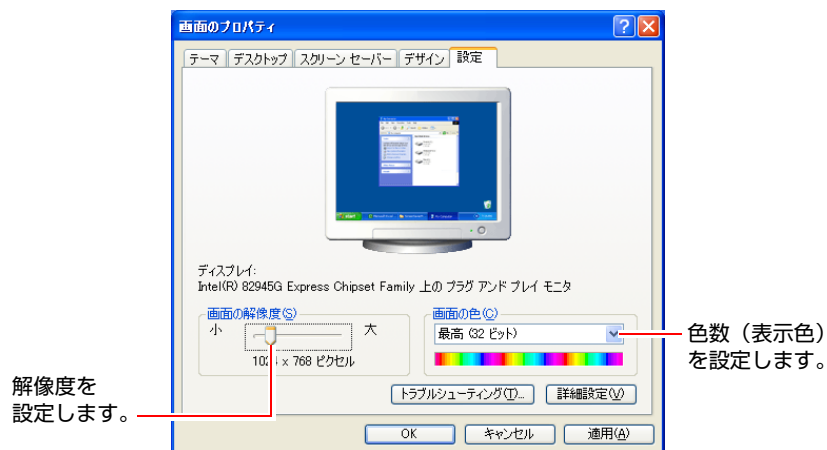


表示装置に関する設定を行います。

設定値変更後にクリックします。

▶解像度や表示色を変更するには

解像度と表示色は「設定」タブで変更します。



▶表示できる解像度と表示色



制限

解像度や表示色が高いと、「WinDVD」で DVD VIDEO を再生するときなどに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。実際に表示できる解像度は、接続しているディスプレイによって異なります。

- 解像度 ピクセル（横×縦）
 - 800×600
 - 1024×768
 - 1280×768（ワイドディスプレイ接続時のみ）
 - 1280×1024
 - 1600×1200
- 表示色
 - 中（16ビット） / 最高（32ビット）

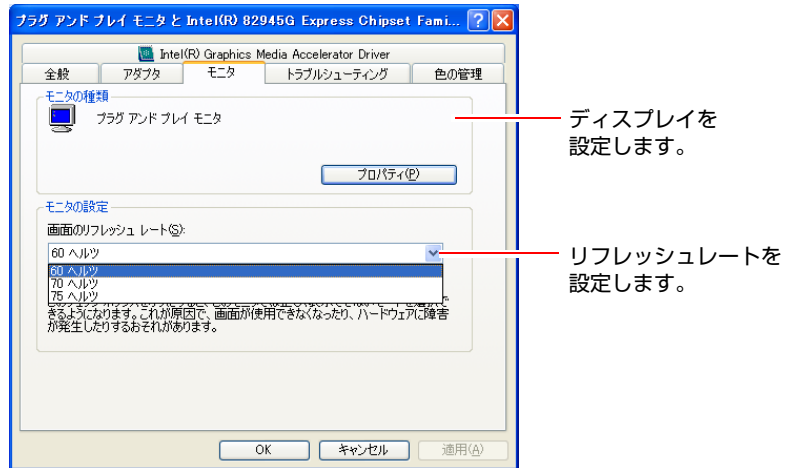
参考

表示できる解像度

実際に表示できる最大解像度はコンピュータ側の最大解像度と接続するディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。ディスプレイに添付のマニュアルで確認してください。

▶表示装置に関する設定

画面のプロパティの「設定」タブー [詳細設定] - 「モニタ」タブでは次の設定を行うことができます。



ディスプレイの設定

通常、接続しているディスプレイは自動的に検出されて設定されますが、接続しているディスプレイによっては正しく設定されない場合があります。その場合は [プロパティ] をクリックして設定を行ってください。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

リフレッシュレートの設定

画面がちらつく、文字がにじむといった現象が起こるときは、リフレッシュレートを変更すると問題が解決することがあります。

ディスプレイによっては、リフレッシュレートの変更ができない場合もあります。

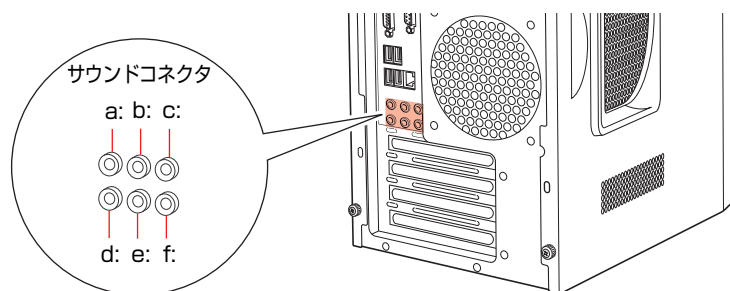
サウンド機能を使う

本機のメインボード上には、7.1chサラウンド対応のサウンド機能が搭載されています。7.1chに対応したスピーカを接続すると、臨場感のあるサウンドを楽しむことができます。

本機にスピーカは内蔵されていません。本機からの音声を出力するには、スピーカを接続する必要があります。

▶外部オーディオ機器などの接続


本機背面には、スピーカやマイクなどを接続するためのサウンドコネクタが装備されています。各コネクタの位置は、次のとおりです。



- | | |
|--|--|
| a: サイドスピーカ出力コネクタ (灰色)
サイドスピーカと接続して音声を出力します。 | d: マイク入力コネクタ (ピンク色)
マイクと接続して音声を入力します。 |
| b: リアスピーカ出力コネクタ (黒色)
リアスピーカと接続して音声を出力します。 | e: フロントスピーカ/ライン出力コネクタ (黄緑色)
フロントスピーカやヘッドフォンなどと接続して音声を出力します。通常、スピーカはこのコネクタに接続します。 |
| c: センタースピーカ / サブウーファ出力コネクタ (オレンジ色)
センタースピーカ、サブウーファと接続して音声を出力します。 | f: ライン入力コネクタ (水色)
オーディオ機器と接続して音声を入力します。 |

オーディオ機器の接続方法については、オーディオ機器に添付されているマニュアルをご覧ください。

オーディオ機器を接続したら、サウンドユーティリティでコネクタの機能を設定します。

 p.81 「サウンドコネクタの設定」

参考

使用できるマイク

マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、電源を必要とするコンデンサーマイクです。

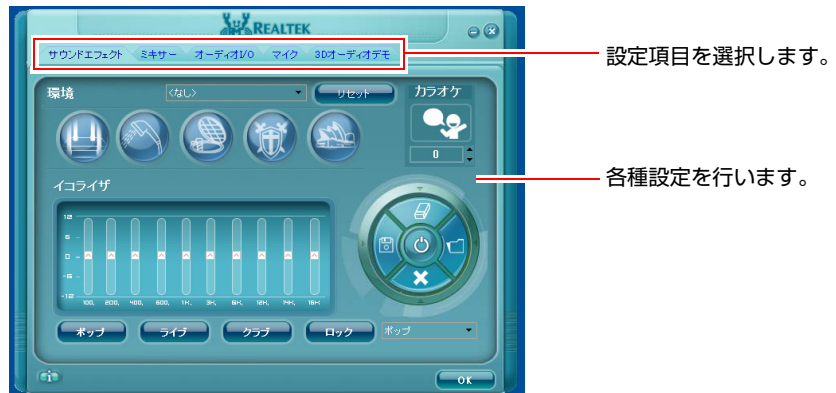
コンデンサーマイクには、次の2種類があります。

- コンセントなどから、電源供給するタイプ
- 乾電池やコンピュータから、電源供給するタイプ

▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、音響効果の設定ができます。
サウンドユーティリティの起動は、次の場所から行います。

【スタート】－「コントロールパネル」－「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」－「Realtek HDオーディオ設定」



2

サウンドコネクタの設定

サウンドコネクタに機器を接続した場合は、サウンドユーティリティでコネクタの機能を設定する必要があります。
設定方法は次のとおりです。

- 1 サウンドユーティリティを起動します。
- 2 「オーディオI/O」タブをクリックします。



3 コネクタの機能の設定をします。

(1) オーディオ機器を接続したコネクタのイラストをクリックします。

「デバイスタイプ」画面が表示されます。

(2) 「デバイスタイプ」画面で該当コネクタの機能を選択し、[OK] をクリックします。



(3) 複数のコネクタに機器を接続した場合は、それぞれ同様に設定を行います。

4 「スピーカーチャンネルボックス」で使用するチャンネルを選択します。



5 サウンドエフェクトやミキサーなどそのほかの設定を行う場合は、各タブを選択し、設定を行います。

6 すべての設定が完了したら、[OK] をクリックします。

これでサウンドコネクタの設定は完了です。

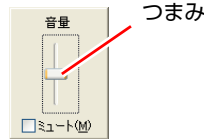
▶音量の調節

スピーカを接続していて、Windows使用時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



<スピーカアイコン>



<ボリュームコントロール>

▶音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は「Windows Media Player」を使用します。Windows Media Playerは次の場所から起動します。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【Windows Media Player】

音声の録音

音声の録音は「サウンドレコーダー」を使用します。サウンドレコーダーは次の場所から起動します。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【アクセサリ】 - 【エンターテイメント】 - 【サウンドレコーダー】



制限

サウンドレコーダーでは、最長 60 秒しか録音することができません。長時間の録音を行うには、別途アプリケーションが必要です。

▶サウンドボードを使う

サウンドボードを装着した場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Integrated Peripherals」
Onboard Audio : Disabled (無効)



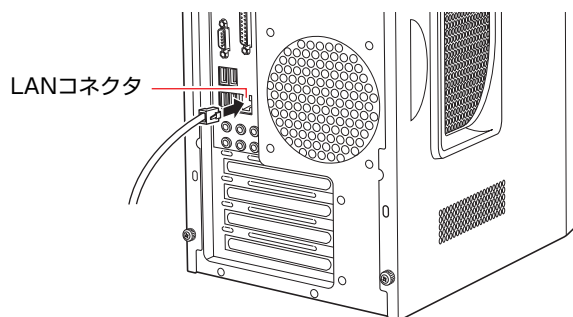
p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」

ネットワーク機能を使う

本機のメインボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面のLANコネクタに市販のLANケーブルを接続します。




2

▶ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。



制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する。
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する。
 p.100 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。

▶インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、 p.87 「インターネットに接続するには」をご覧ください。

▶そのほかの機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次のような機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANとは、電源切断時にネットワークからの信号により本機を起動させることができる機能です。電源切断時は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上からWindowsなどのOSをインストールすることができます。

▶ネットワークボードを使う

ネットワークボード（無線LANボードを除く）を装着した場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Integrated Peripherals」
Onboard LAN Controller : Disabled（無効）



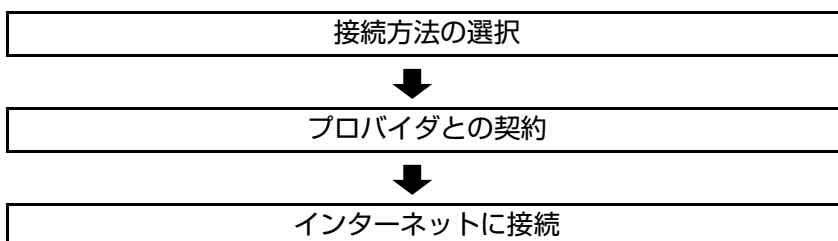
p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続の概要や、インターネットを利用するためのソフトウェアについて説明します。

▶接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。



▶接続方法の選択とプロバイダとの契約

インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。

接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダにお問い合わせください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと言い、光ファイバー、ADSL、CATVなどを利用した接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと言います。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		

遅い 速い

インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- **光ファイバー（FTTH）**

ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。

ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。

- **ADSL**

電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。

利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまいますので、事前に速さの確認をする必要があります。

- **CATV**

ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。

- **そのほかの接続方法（ナローバンド）**

アナログ電話回線やISDN回線などを使った低速な接続方法があります。



ダイヤルアップ接続

ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と言います。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

▶インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。



再インストール後のインターネット接続

Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書はなくさないように大切に保管してください。


▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気を付けてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、本機が障害を被る可能性があります。
- コンピュータウイルスに感染すると、本機が障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。

ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。

- ・ ウイルスが添付されたメールを受信する
- ・ 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

これらの危険から本機を守る方法は、 p.92 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
- 電子メールの利用：Outlook Express（アウトルックエクスプレス）

ここでは、これらのソフトウェアの使い方について簡単に記載しています。各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「PCお役立ち情報」

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際に「インターネット接続ウィザード」画面が表示された場合は、初期設定を行います。

初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

- 1** 「スタート」－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」をクリックします。
- 2** 「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して「次へ」をクリックします。
- 3** 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して「次へ」をクリックします。
- 4** 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して「次へ」をクリックします。
- 5** 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているメールアカウントとメールパスワードを入力して「次へ」をクリックします。
- 6** 「設定完了」と表示されたら、「完了」をクリックします。



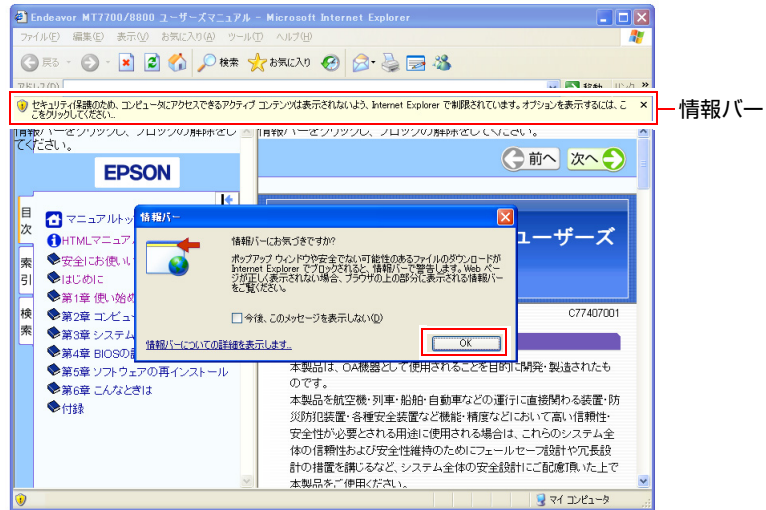
初期設定をあとから行う

「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。

「ツール」メニュー－「アカウント」－「追加」－「メール」

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」画面が表示されたら、[OK] をクリックして画面を閉じ、「情報バー」をクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



Internet Explorerの便利な追加機能

- JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。JWordの詳しい使い方は、デスクトップ上にある「JWord」アイコンからマニュアルを開いてご覧ください。



<JWordアイコン>

- gooスティック

Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されています。「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶ Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を診断し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

はじめてインターネットに接続したときは

はじめてインターネットに接続したときや、Windowsの再インストールをした場合は、手動でWindows Updateを行ってください。
手動でWindows Updateを行う方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Update」をクリックします。
- 2 Windows Updateのホームページが表示されたら、ホームページの記載に従って更新プログラムをダウンロード、インストールします。

自動更新の設定

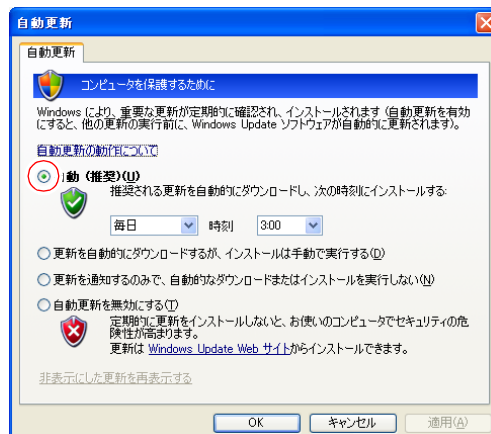
本機は、自動でWindows Updateが行われるよう、自動更新の設定がされています。そのままお使いください。

自動更新の設定がされていると、インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされ、設定時刻に自動でインストールされます。

設定時刻に本機が起動していない場合は、次回起動時に自動でインストールされます。

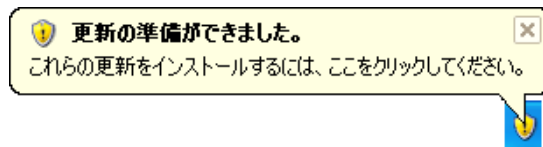
自動更新は次の場所で設定されています。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「セキュリティセンター」 - 「自動更新」



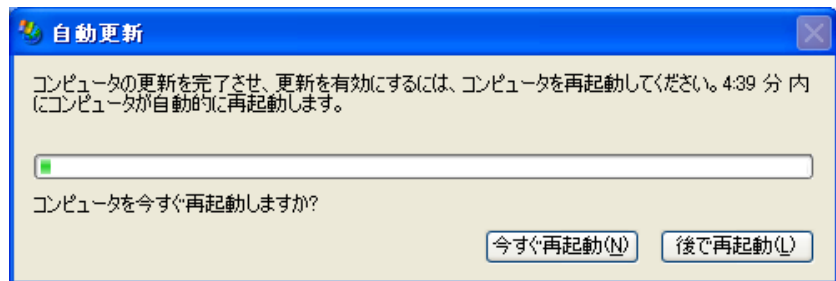
「更新の準備ができました。」と表示されたら

インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされると、画面右下に「更新の準備ができました。」と表示されます。インストールの設定時刻になる前に更新プログラムをインストールしたい場合は、通知アイコンをクリックし、インストールをしてください。



「自動更新」画面が表示されたら

インストールの設定時刻（または次回起動時）に更新プログラムの自動インストールが行われると、「自動更新」画面が表示されます。作業中の場合はデータを保存してください。本機が再起動したら、インストールは完了です。



▶セキュリティソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。

コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。

ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺検出機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時にNorton Internet Security 90日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。



更新サービスの有効期限

本機に添付のNorton Internet Security 90日版は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のウイルス対策ソフトウェア（セキュリティソフトウェア）を使う

市販のウイルス対策ソフトウェア（セキュリティソフトウェア）を使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90日版はインストールしないでください。

インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。

不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。Norton Internet Security 90日版のセットアップを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になりますので、そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合＞

ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合＞

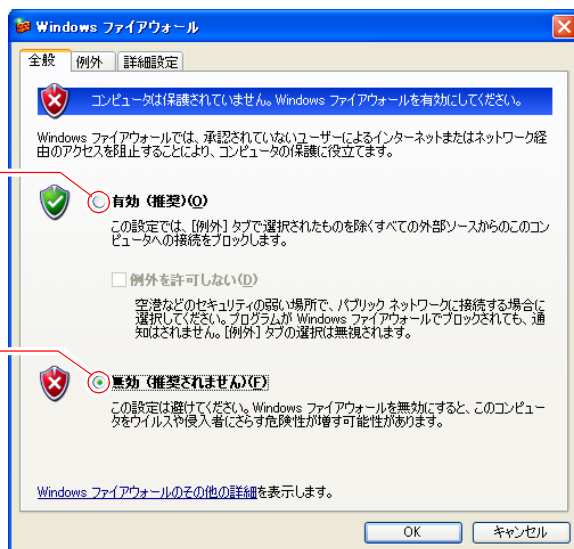
Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「セキュリティセンター」 - 「Windowsファイアウォール」

ファイアウォール
ソフトを使用しない
場合に選択

ファイアウォール
ソフトを使用する
場合に選択





省電力機能を使う

省電力機能を利用すると、本機を使用していない間、本機が省電力状態に移行して消費電力を抑えることができます。

▶ 省電力機能使用時の制限

省電力機能を使用する際には、次のような制限事項があります。使用する前に、必ず確認してください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・ 周辺機器を接続している
 - ・ アプリケーションを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.100 「時間経過で移行させない」
 - ・ 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・ サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・ ネットワーク機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・ 省電力状態で、周辺機器の抜き差しを行った場合。
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合。
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
- 動画再生時に、コマ落ちしたりアプリケーションの動作が遅くなるなどの現象が発生する場合は、省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.100 「時間経過で移行させない」

▶省電力状態の種類

省電力状態には、次の3つがあり、状況に応じて使い分けることができます。

- HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果はスタンバイより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

- スタンバイ

作業内容をメモリに保存した状態で本機の動作を中断します。メモリ以外の電源が切れるため、電力消費はほとんどありません。



参考

スタンバイが正常に動作しない場合

相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。その場合、「BIOS Setupユーティリティ」で次の項目の設定を変更してください。設定を変更した場合の電力消費は、通常より若干抑えられる程度になります。

「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」－「Disabled」



p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 休止状態

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。本機の電源を切った状態と同様に電力を消費しません。通常の状態への復帰には多少時間がかかります。休止状態を有効にするためには設定が必要です。



p.99 「休止状態を有効にする」



制限

スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れなおしてください。

電源ランプの表示

省電力状態は、電源ランプ (④) の点灯、点滅により確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常	点灯
HDD/ディスプレイの電源切断	点灯
スタンバイ*	点滅
休止状態	消灯
電源切断時	消灯

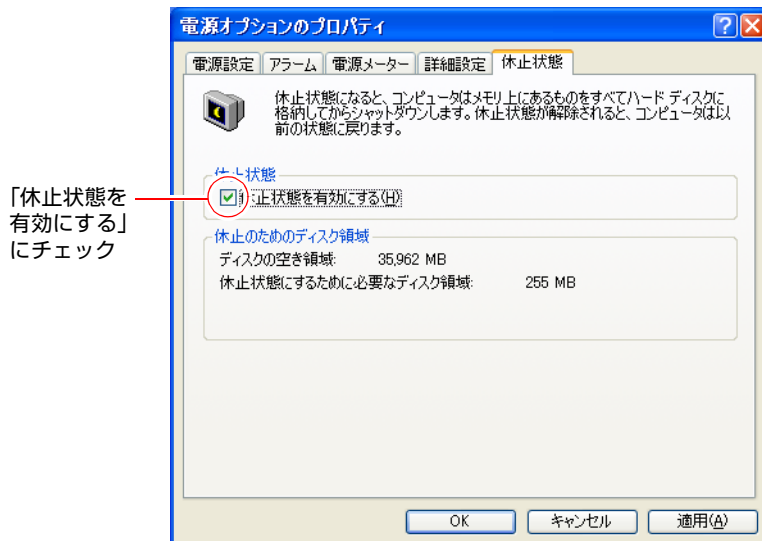
* : BIOS Setupユーティリティの「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」を「Disabled」に設定した場合、電源ランプの表示は「点灯」になります。

休止状態を有効にする

「休止状態」を有効にすると、本機の電源を切った状態と同様に、電力の消費を抑えることができます。

休止状態の設定は、次の場所から行います。

【スタート】－【コントロールパネル】－【パフォーマンスとメンテナンス】
－【電源オプション】－【休止状態】タブ－【休止状態を有効にする】



<イメージ>

▶省電力状態に移行する

省電力状態に移行する方法には、次の2つがあります。

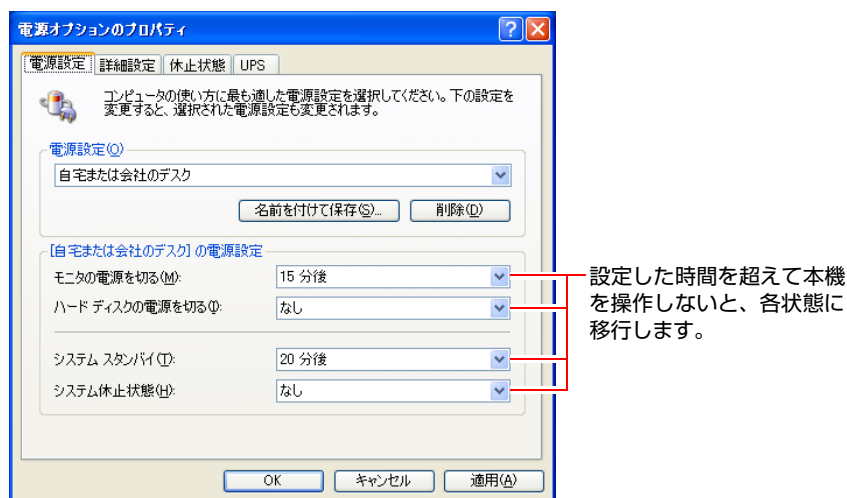
- 時間経過で移行
設定した時間を超えて本機を操作しないと、省電力状態に移行します。
- 直ちに移行
席を外すときなどに、手動で省電力状態に移行します。

省電力状態に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」
- 「電源オプション」

時間経過で移行する

省電力状態に移行する時間の設定は、「電源設定」タブの画面で行います。



時間経過で移行させない

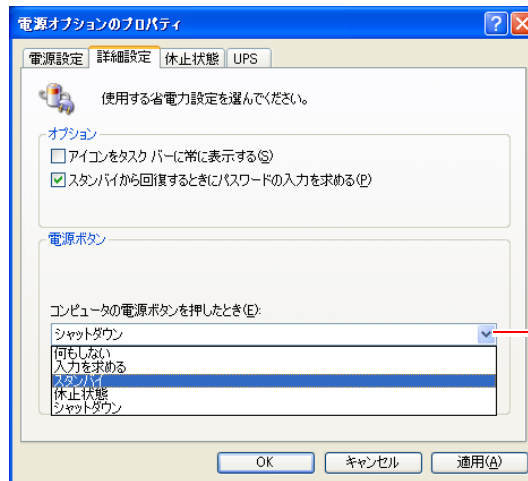
光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過による省電力状態への移行を無効に設定します。

時間経過による省電力状態への移行を無効にするには、すべての項目の時間設定を「なし」に設定します。

直ちに移行する

手動で「スタンバイ」または「休止状態」に移行する方法は、次のとおりです。

- キーボードのスリープボタン (Ⓢ) を押して移行する
スリープボタンを押すと、本機はスタンバイになります。
- [スタート] - 「終了オプション」から選択し、移行する
「コンピュータの電源を切る」画面で [Shift] を押すと、スタンバイではなく休止状態を選択できるようになります。
- 電源スイッチを押して移行する
電源スイッチを押したときにどの状態に入るかを、あらかじめ「詳細設定」タブの画面で設定しておきます。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

▶省電力状態から復帰する

本機を省電力状態から通常の状態に戻す方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	点灯	キーボードやマウスを操作します（誤って電源スイッチを押さないでください）。
スタンバイ*	点滅	電源スイッチを押します。
休止状態	消灯	電源スイッチを押します。

*：BIOS Setupユーティリティの「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」を「Disabled」に設定した場合、電源ランプの表示は「点灯」になります。復帰するときは、キーボードやマウスを操作します。

▶SpeedStep（スピードステップ）機能

<スピードステップ機能を持つプロセッサ搭載時>

本機では、スピードステップ機能を使用することができます。

スピードステップ機能とは、使用時のCPUの使用率にあわせて自動的にCPUの処理速度を調整し、本機を省電力で動作させる機能です。

スピードステップ機能を有効にする方法は次のとおりです。

- 1 [スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」をクリックします。
- 2 「電源オプションのプロパティ」画面が表示されたら、「電源設定」タブの「電源設定」を「最小の電源管理」に設定し、[OK]をクリックします。
これでスピードステップ機能が有効になります。


そのほかの機能

▶パラレルコネクタ

本機背面にはパラレルコネクタが1個搭載されています。パラレルコネクタには、パラレルコネクタに対応した機器（プリンタやスキャナなど）を接続します。

本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面 - 「Integrated Peripherals」 - 「Onboard Parallel Port」


 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」

▶シリアルコネクタ

本機背面にはシリアルコネクタが1個搭載されています。シリアルコネクタには、シリアルコネクタに対応した機器（マウスやFAXモデム、ターミナルアダプタなど）を接続します。

本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面 - 「Integrated Peripherals」 - 「Onboard Serial Port」

 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」


▶ハイパー・スレッディング機能

＜ハイパー・スレッディング機能を持つプロセッサ搭載時＞

本機では、Windowsに1つのコア（CPU）を仮想的に2つに見せかけることで、異なる2つの命令を同時に実行することができます。ハイパー・スレッディング機能に対応したアプリケーションでは、処理性能が向上します。

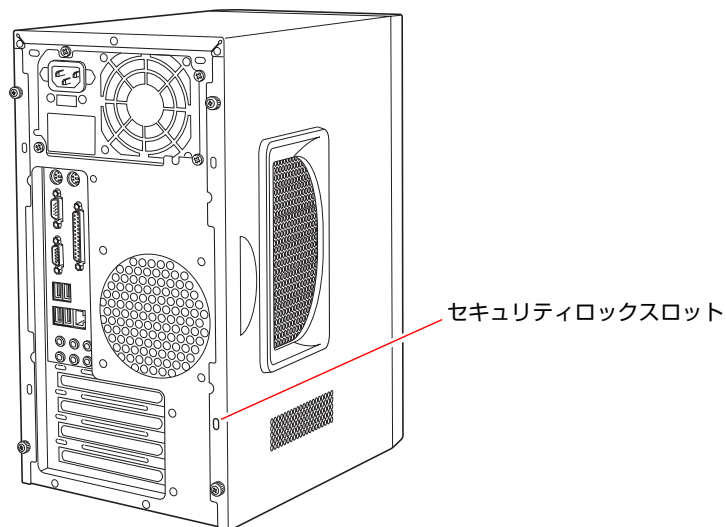
購入時、ハイパー・スレッディング機能は「Enabled」（有効）に設定されています。機能を無効にしたい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面 - 「CPU Configuration」
Hyper-Threading Technology : Disabled（無効）

 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」

▶セキュリティロックスロット

本機背面には、「セキュリティロックスロット」が搭載されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

ホームページのアドレスは次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

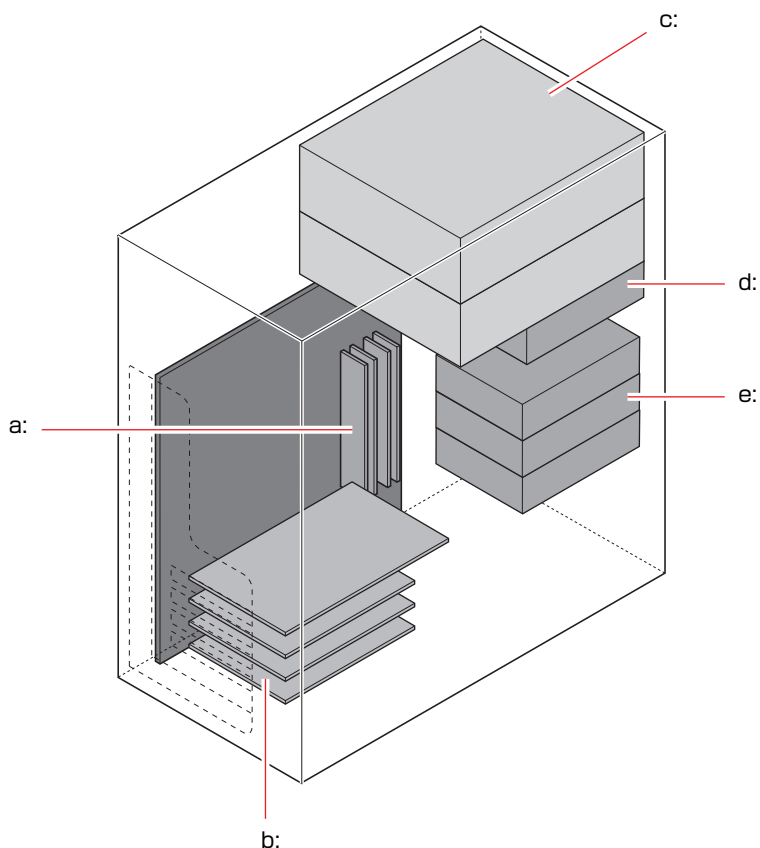
第3章 システムの拡張

装置の増設・交換方法について説明します。

「拡張できる装置」	106
「作業時の注意」	107
「拡張時の準備作業」	108
「メモリの装着」	114
「拡張ボードの装着」	120
「ドライブ装置とコネクタの接続（IDE装置の装着）」	125
「3.5型ドライブの装着」	129
「5.25型ドライブの装着」	133
「HDDの装着」	137

拡張できる装置

本機では、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。ただし、購入時にいくつかの装置がすでに装着されているため、実際に拡張できる装置の数は異なります。



a: メモリスロット


メモリを4枚（最大3GBまで）装着することができます。

 p.114 「メモリの装着」

b: 拡張スロット


次の拡張ボードを装着することができます。

- ・ PCI Express x16ボード 1枚
- ・ PCIボード 3枚

 p.121 「拡張ボードの取り付け・取り外し」


c: 5.25型ドライブベイ

5.25型の装置（光ディスクドライブなど）を2台装着することができます。

 p.133 「5.25型ドライブの装着」

d: 3.5型ドライブベイ

3.5型の装置（FDDなど）を1台装着することができます。

 p.129 「3.5型ドライブの装着」

e: HDDベイ

S-ATA仕様の3.5型HDDを3台装着することができます。

 p.137 「HDDの装着」

作業時の注意

コンピュータ内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- コンセントに電源プラグを接続したまま作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- 本機の電源を切っても電源プラグがコンセントに接続されていると微少な電流が流れています。作業を始める前に必ずコンセントから電源プラグを外してください。
- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリや拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリや拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

拡張時の準備作業

装置の拡張作業を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の拡張手順に従って、必要に応じて作業を行ってください。



コンセントに電源プラグを接続したまま作業をしないでください。
感電・火傷の原因となります。

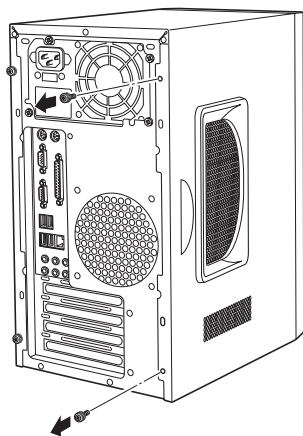
▶ 本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外してください。
ここでは左側のカバーの取り外し・取り付け手順を説明します。右側のカバーの場合も手順は同様です。

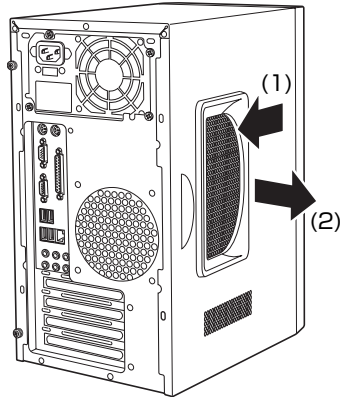
取り外し

本体カバーの取り外し方法は次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体左背面のネジ（2本）を外します。



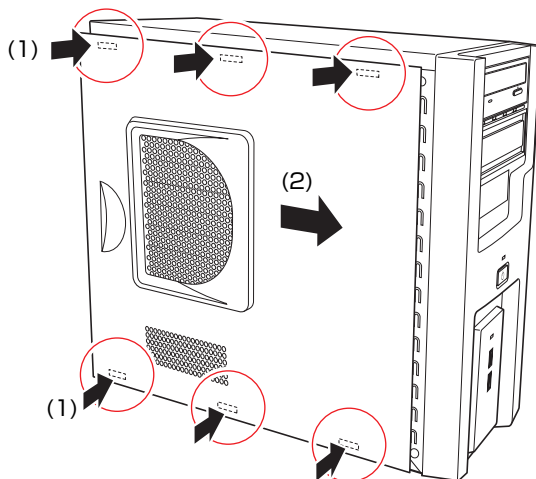
- 4** 本体カバーを取り外します。
- (1) 本体カバーを本体背面側にスライドさせます。
 - (2) 本体カバーを横へ外します。



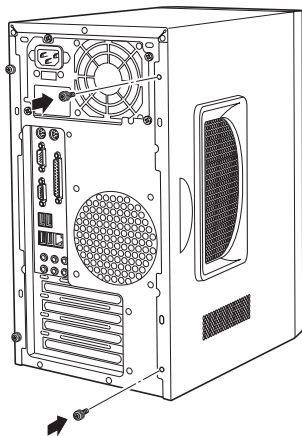
取り付け

本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

- 1 本体カバーを取り付けます。**
 - (1) 本体側面の穴（6個）とカバーの突起（6個）の位置を合わせて、本体カバーを横からかぶせます。
 - (2) 本体カバーを本体前面側にスライドさせます。



- 2 ネジ（2本）で本体カバーを固定します。**



- 3 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。**

これで本体カバーの取り付けは完了です。


▶フロントパネルの取り外し・取り付け

本機の内部に装着する装置によっては、フロントパネルを取り外す必要があります。

取り外し

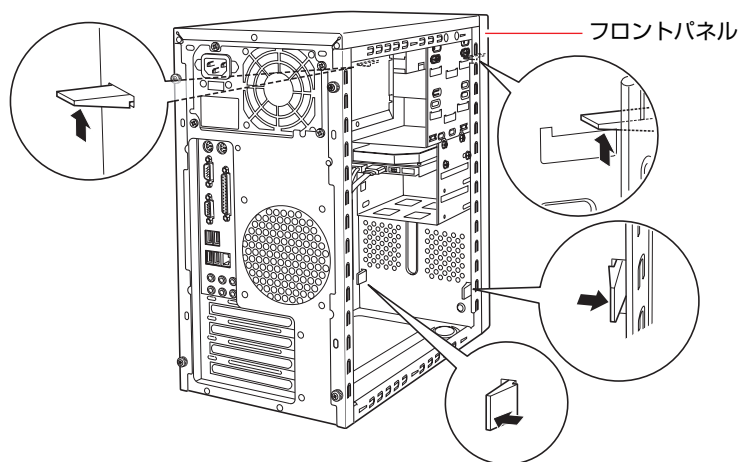
フロントパネルの取り外し方法は次のとおりです。

1 本体カバー（左右両側）を取り外します。

 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」

2 フロントパネルを取り外します。

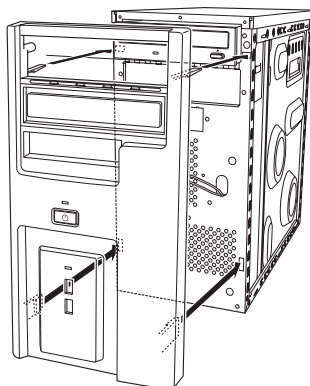
上部2つのフックを上へ、下部2つのフックを外側へ押しながら、前面からフロントパネルを引き抜きます。



取り付け

フロントパネルの取り付け方法は次のとおりです。

1 フロントパネルのフックを本体の穴に合わせて、フロントパネルを押し込みます。



▶3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け

3.5型のドライブ装置（FDDなど）を増設する場合は、3.5型フェイスプレートを取り外します。また、3.5型のドライブ装置を外した後、何も取り付けない場合は、コンピュータ内部にホコリが入らないようにフェイスプレートを取り付けます。

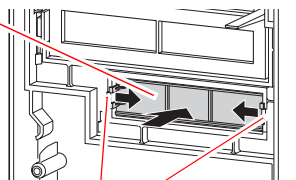
取り外し

3.5型フェイスプレートの取り外し方法は次のとおりです。

- 1 フロントパネルの裏側からフェイスプレート両側のフックを外し、フェイスプレートを押し出します。

外したフェイスプレートは大切に保管してください。

3.5型フェイス
プレート

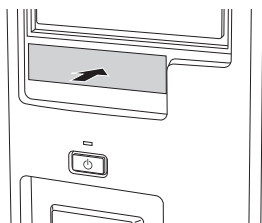


フック

取り付け

3.5型フェイスプレートの取り付け方法は次のとおりです。

- 1 フロントパネルの表側から、フェイスプレートを押し込みます。



▶5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け

5.25型のドライブ装置（光ディスクドライブなど）を増設する場合は、5.25型フェイスプレートを取り外します。また、5.25型のドライブ装置を外した後、何も取り付けない場合は、コンピュータ内部にホコリが入らないようにフェイスプレートを取り付けます。

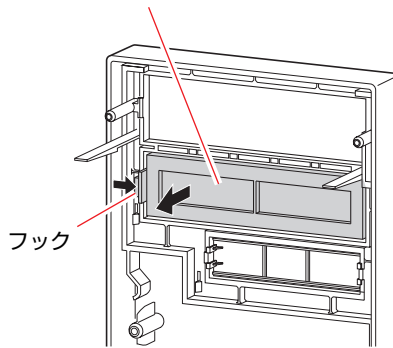
取り外し

5.25型フェイスプレートの取り外し方法は次のとおりです。

- 1 フロントパネルの裏側からフェイスプレートのフックを外し、表側からフェイスプレートを押し出します。

外したフェイスプレートは大切に保管してください。

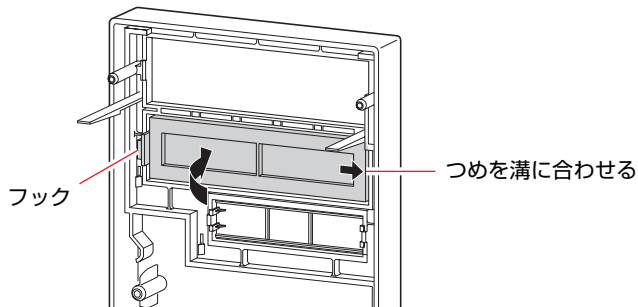
5.25型フェイスプレート



取り付け

5.25型フェイスプレートの取り付け方法は次のとおりです。

- 1 フェイスプレートのつめをフロントパネルの溝に合わせ、フック側をカチッと音がするまで押し込みます。



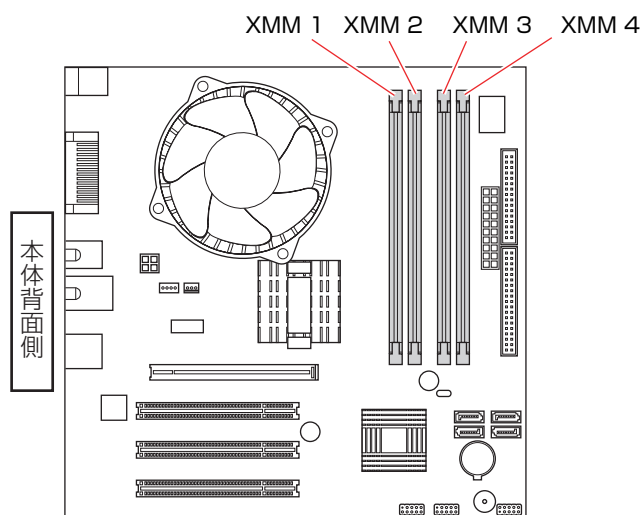
メモリの装着

本機で使用可能なメモリの仕様と、メモリの取り付け・取り外し方法について説明します。

▶メモリの仕様

本機にはメモリスロットが4つあり、メモリを増設・交換することにより最大3GB（1024MB×2+512MB×2）まで拡張できます。

メモリはXMM 4スロットから取り付けます。購入時、XMM 4スロットにはあらかじめメモリが取り付けられています（購入時の選択により、メモリの容量と枚数は異なります）。



本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-4200（DDR2-533 SDRAM使用）
- メモリ容量 256MB、512MB、1024MB
- Non ECC
- 240ピン
- CL=4

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページでご確認ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

▶メモリ装着の組み合わせと順番

本機のメモリスロットにメモリを装着する場合は、次の点に注意して装着してください。


- メモリはXMM 4スロットから取り付けます。
- メモリを2枚以上装着する場合は、同一容量のメモリを2枚1組で装着してください。本機は同一容量のメモリを2枚1組で使用することにより、高速なメモリ転送速度を実現しています。

なお、メモリを4枚装着する場合、1組目と2組目の容量が異なっていても問題はありません。

メモリを2枚以上装着する場合の組み合わせと順番は、次のとおりです。




メモリ装着順	メモリスロット
1組目	XMM 2スロット+XMM 4スロット
2組目	XMM 1スロット+XMM 3スロット

▶メモリの取り付け・取り外し

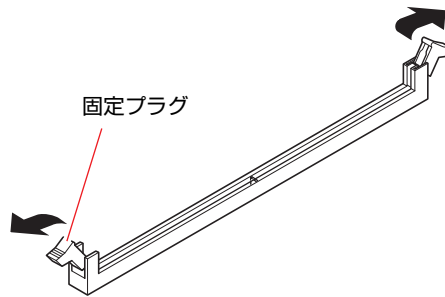
作業を始める前に  p.107 「作業時の注意」を必ずお読みください。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

取り付け

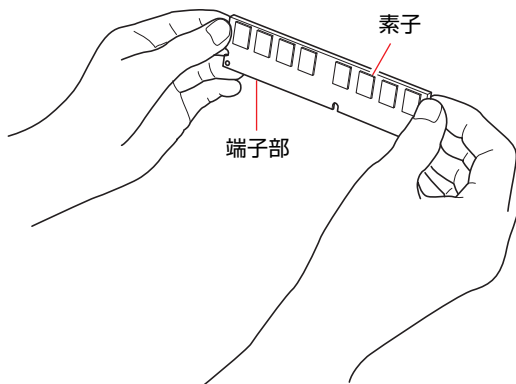
メモリの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバー（左側）を取り外します。
 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** PCI Express x16スロットに拡張ボードが装着されていて作業の妨げになる場合は、拡張ボードを外します。
 p.121 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 5** HDDキャリアを取り外します。
 p.137 「HDDの取り付け・取り外し」

6 メモリスロットの固定プラグを開きます。

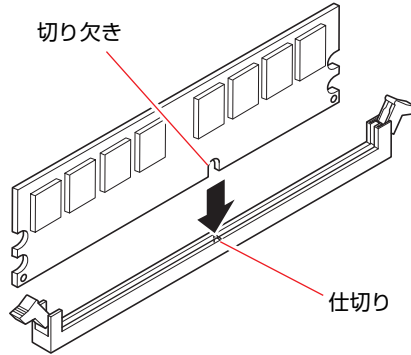


7 メモリを静電防止袋から取り出します。
メモリの端子部や素子に触れないように注意します。



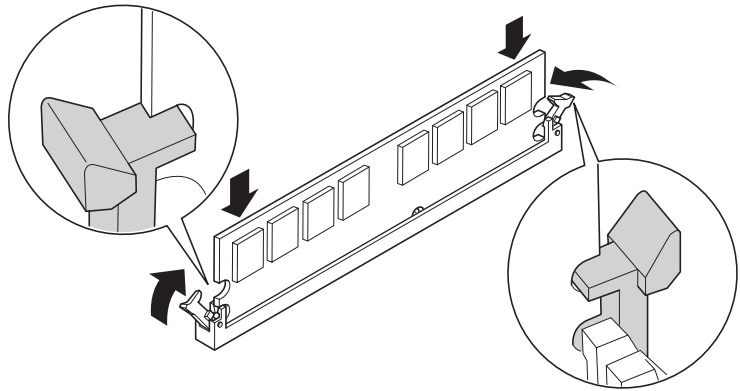
8 メモリスロットにメモリを差し込みます。


(1) メモリの切り欠きをメモリスロット内の仕切りに合わせます。




(2) メモリを押し込むと、カチッと自動的に固定プラグが閉じてメモリが固定されます。

必ずメモリが固定されたことを確認してください。


**9** HDDキャリアを取り付けます。

 p.137 「HDDの取り付け・取り外し」


10 手順4で拡張ボードを外した場合は、もとどおりに装着します。

 p.121 「拡張ボードの取り付け・取り外し」


11 本体カバーを取り付けます。

 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」

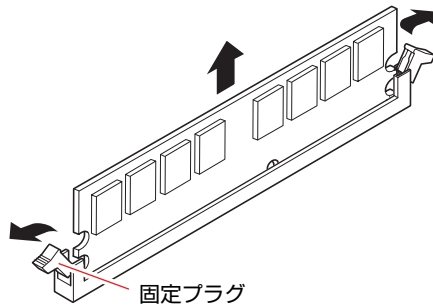
12 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。**13** コンピュータの電源を入れて、メモリの容量を確認します。

 p.119 「メモリの増設・交換後の作業」

取り外し

メモリの取り外しは、 p.115 「取り付け」の手順6～8を次の手順に読み替えて行ってください。

- 1** メモリの両端を固定している固定プラグを開きます。




- 2** メモリが外れたら静かに取り外します。
静電気防止袋に入れて保管してください。
- 3** 固定プラグを閉じておきます。

▶メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。

メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を入れたら、**Delete** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 2 「Main」メニュー画面－「System Information」－「Installed Memory」に表示されているメモリ容量を確認します。

メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付けなおしてください。



参考

メモリ容量の表示

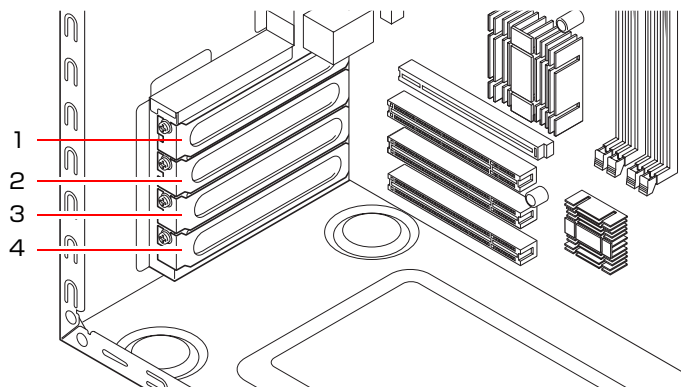
本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。そのため、メモリ容量は、メインメモリからビデオメモリ（約8MB）を引いた値が表示されます。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と、拡張ボードの取り付け・取り外し方法について説明します。

▶ 拡張スロットの仕様

本機には拡張スロットが4つあります。各スロットの仕様は次のとおりです。




スロット番号	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
1	PCI Express x16	ボード長230mmまで
2	PCI	ボード長190mmまで
3	PCI	ボード長312mm（フルサイズ）まで
4	PCI	ボード長312mm（フルサイズ）まで

▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し




拡張スロットには機器の性能を維持するため鋭いエッジがあります。手を傷つけないように作業してください。

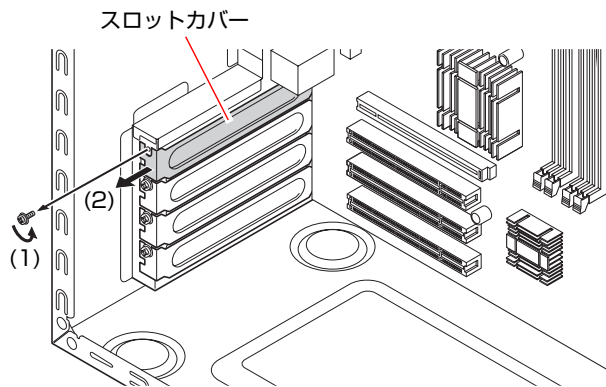
作業を始める前に  p.107 「作業時の注意」と拡張ボードに添付のマニュアルを必ずお読みください。

作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

取り付け

拡張ボードの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバー（左側）を取り外します。
 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 拡張ボードを装着するスロットのスロットカバーを外します。
(1) スロットカバーを固定しているネジを外します。
(2) スロットカバーを手前に引き抜きます。



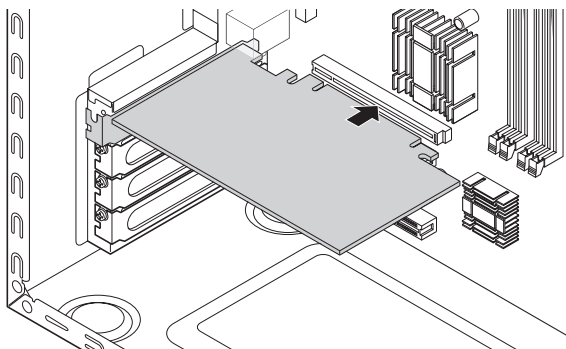
外したスロットカバーは、大切に保管してください。拡張ボードを外したあと、別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にホコリなどが入らないように、再びスロットカバーを装着します。

5 拡張ボードを取り付けます。

<通常のボードの場合>

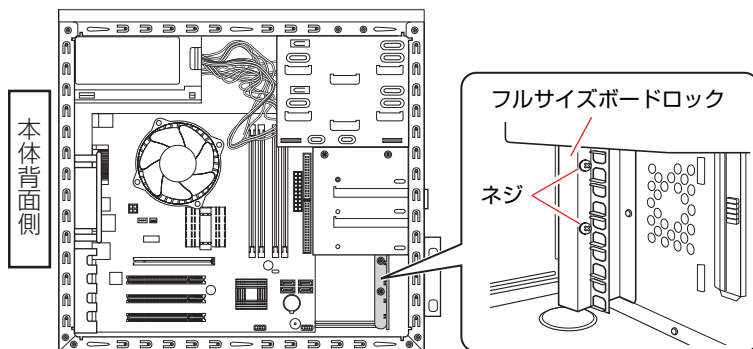
拡張ボードを差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認して、ゆっくり押し込みます。

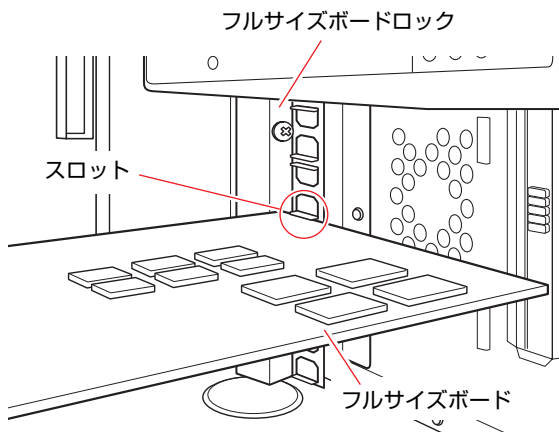


<フルサイズ (312mm) のボードの場合>

(1) フルサイズボードロックのネジ (2本) をゆるめます。



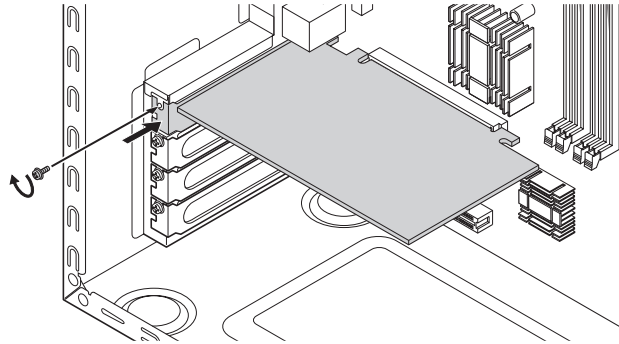
(2) フルサイズボードロックのスロットにボードを差し込み、<通常のボードの場合>と同じように、端子部をコネクタに差し込みます。




(3) ネジ (2本) を締めて固定します。


6 拡張ボードをネジで固定します。

拡張ボードによっては、コンピュータ内部のコネクタとのケーブル接続が必要な場合があります。拡張ボードに添付のマニュアルで確認してください。


**7** 本体カバーを取り付けます。

 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」

8 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続けて  p.124 「拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

拡張ボードの取り外しは、 p.121 「取り付け」の手順4～6を次の手順に読み替えて行ってください。

1 拡張ボードを固定しているネジを外します。

フルサイズのボードの場合は、フルサイズボードロックのネジをゆるめま
す。

2 拡張ボードを引き抜きます。**3** 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、ス
ロットカバーを取り付けておきます。

手順1でフルサイズボードロックのネジをゆるめた場合は、ネジを締めてお
きます。

▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

- **ビデオボードの場合**


ビデオボードの取り付け・取り外しをした場合、BIOSなどの設定は必要ありませんが、ボードによってはドライバのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

- **サウンドボードの場合**

サウンドボードの取り付け・取り外しを行った場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Interated Peripherals」－「Onboard Audio」

ボード	メインボード上のサウンド機能
取り付けた場合	Disabled（無効）
取り外した場合	Enabled（有効）

 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」


ボードによってはドライバのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

- **ネットワークボードの場合（無線LANボードを除く）**

ネットワークボードの取り付け・取り外しを行った場合は、BIOS Setupユーティリティの次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Interated Peripherals」－「Onboard LAN Controller」

ボード	メインボード上のネットワーク機能
取り付けた場合	Disabled（無効）
取り外した場合	Enabled（有効）

 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」

ボードによってはドライバのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

- **そのほかのボードの場合**

拡張ボードによっては作業が必要な場合があります。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

ドライブ装置とコネクタの接続 (IDE装置の装着)

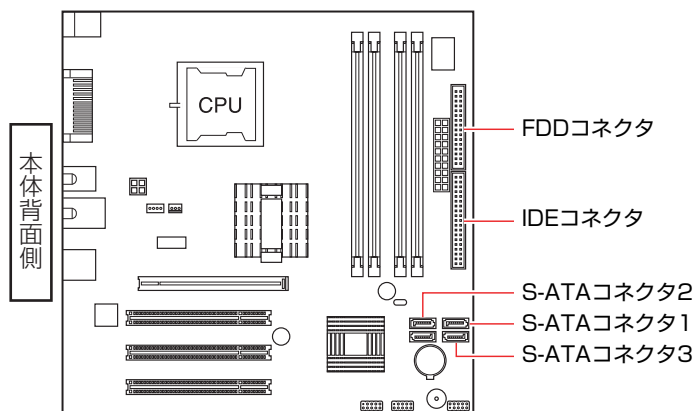
ここでは、メインボード上のコネクタの仕様とドライブ装置の接続方法について説明します。

本機のメインボード上で使用できるコネクタは次のとおりです。各コネクタには、それぞれの規格に対応したドライブ装置を接続することができます。

コネクタ	数量	接続できる装置
FDDコネクタ	1個	FDDを1台接続可能
IDEコネクタ	1個	光ディスクドライブなどを2台接続可能
S-ATAコネクタ	3個	HDDを3台接続可能

各コネクタの位置は次のとおりです。

メインボード



▶IDEコネクタ

本機のIDEコネクタには、光ディスクドライブなどIDE仕様のドライブ装置を2台接続することができます。

優先順位の設定

IDEコネクタに接続する2台の装置には優先順位 (マスタ・スレーブ) を設定してください。順位の設定を誤ると、装置がコンピュータに認識されない場合があります。

マスタ・スレイベの設定方法

マスタ・スレイベの設定方法には、次の2つがあります。

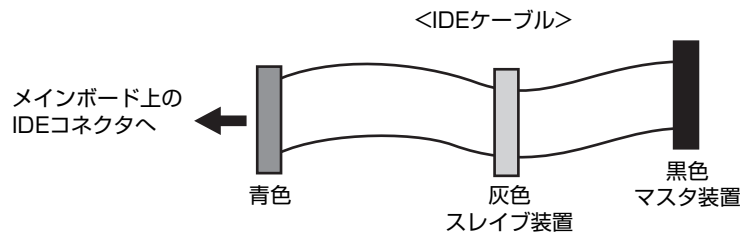
- 装置側のジャンプスイッチで、それぞれ「マスタ」「スレイベ」を設定する。
この場合、IDEケーブル側での設定は不要です。
- 装置側のジャンプスイッチで「ケーブルセレクト」を設定し、接続するIDEケーブル側で「マスタ」、「スレイベ」を決定する。

ジャンプスイッチの位置や設定方法は、ドライブ装置に添付のマニュアルを参照してください。

IDEケーブル

本機のIDEコネクタに接続しているケーブルは、「IDEケーブル」です。

IDEケーブルは、次のように接続します。



▶S-ATAコネクタ

S-ATAは、IDEに比べて、高速でデータ転送を行うことができます。それぞれのS-ATAコネクタには、S-ATA HDDを1台ずつ接続できます。コネクタの優先順位は、次のとおりです。

順位	コネクタ
1	S-ATAコネクタ1
2	S-ATAコネクタ2
3	S-ATAコネクタ3



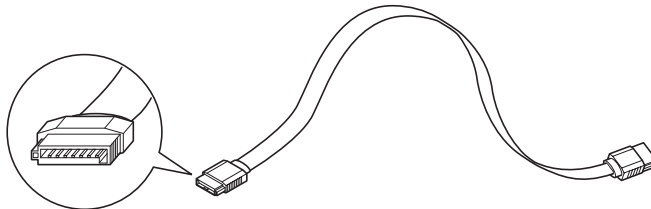
制限

Windows は、S-ATA コネクタ 1 に接続された HDD にインストールしてください。

3

S-ATAケーブル

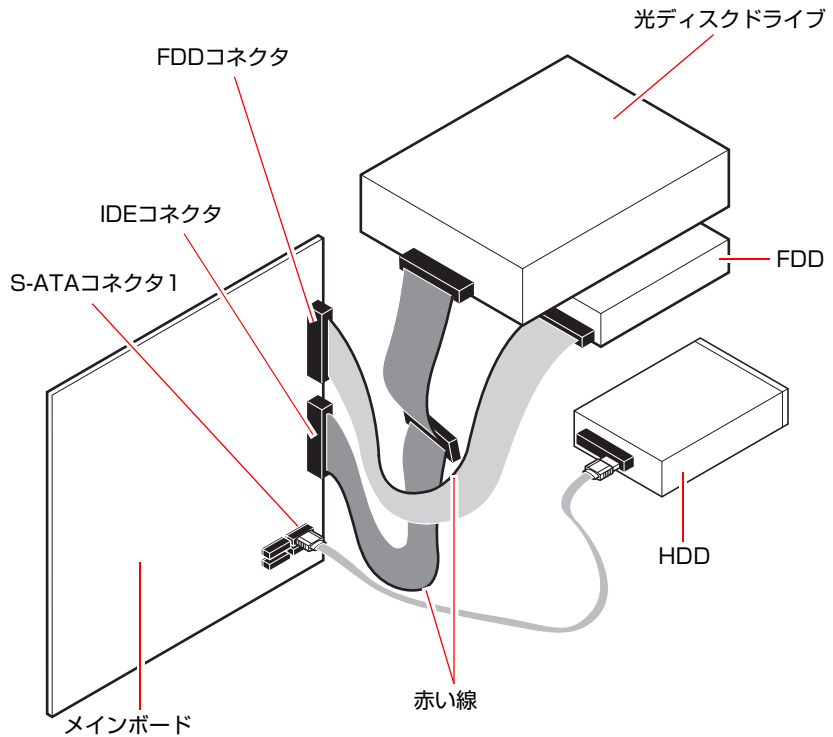
S-ATA HDDとメインボード上のS-ATAコネクタは、「S-ATAケーブル」で接続します。S-ATAケーブルは、コネクタの向きに合わせて接続してください。S-ATAケーブルの両端のコネクタの形状は同じです。



▶ ドライブ装置の接続例

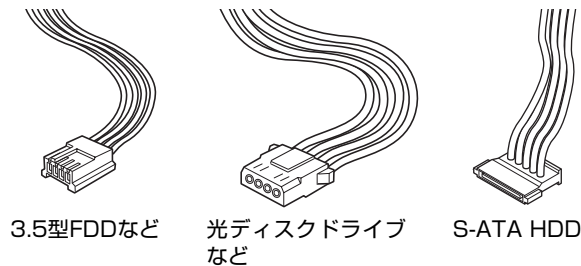
メインボードとの接続

ドライブ装置とメインボードを接続する一般的な方法は、次のとおりです。ドライブ装置を増設または交換する際には、ドライブ装置に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。



周辺機器用電源ケーブル


電源ユニットには、ドライブベイに装着する装置に電源を供給するための周辺機器用電源ケーブルがついています。周辺機器用電源ケーブルの各コネクタの形状と、接続するドライブ装置は次のとおりです。



3.5型ドライブの装着

3.5型ドライブ（FDDなど）の取り付け・取り外し方法について説明します。





▶3.5型ドライブの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.107 「作業時の注意」と、機器に添付のマニュアルを必ずお読みください。

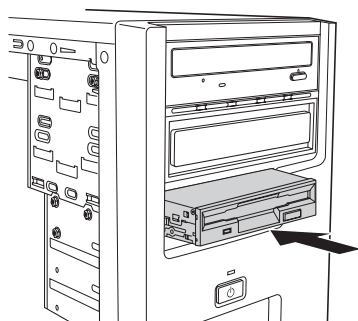
作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

取り付け

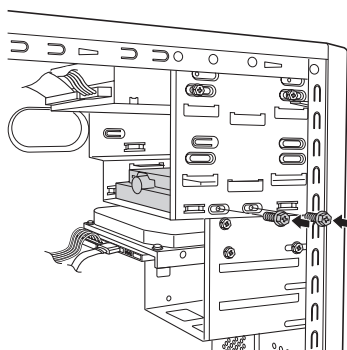
3.5型ドライブの取り付け方法は次のとおりです。ここでは3.5型のFDDを取り付ける方法を説明します。

- 1** 装着する装置に添付のマニュアルを参照して、装置に対して必要な作業（ジャンプスイッチやディップスイッチの設定など）を行います。
- 2** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 4** 本体カバー（左側）を取り外します。
 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 5** 3.5型フェイスプレートを取り外します。
すでに装着されている装置を交換する場合は、この作業は必要ありません。
 - (1) フロントパネルを取り外します。
 p.111 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
 - (2) 3.5型フェイスプレートを取り外します。
 p.112 「3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け」
 - (3) フロントパネルを取り付けます。
 p.111 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

- 6** 装置を3.5型ドライブベイに押し込みます。

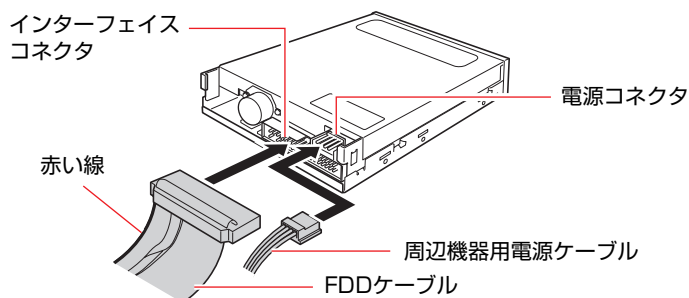


- 7** 装置のネジ穴をドライブキャリアのネジ穴に合わせて、ネジ（2本）で固定します。




- 8** FDDケーブルを装置のインターフェイスコネクタとメインボード上のFDDコネクタに接続し、周辺機器用電源ケーブルを装置の電源コネクタに接続します。


メインボード上のコネクタ位置は、 p.125 「ドライブ装置とコネクタの接続（IDE装置の装着）」で確認してください。




- 9** 本体カバーを取り付けます。

 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」

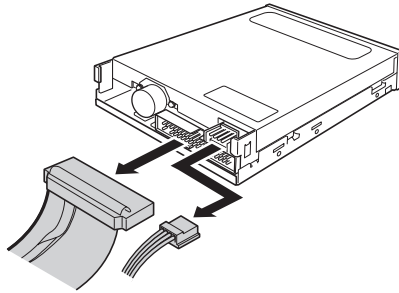
- 10** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続けて  p.132 「3.5型ドライブの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

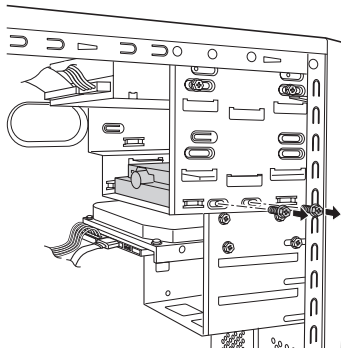
取り外し

3.5型ドライブの取り外しは、 p.129 「取り付け」の手順5～8を、次の手順に読み替えて行ってください。

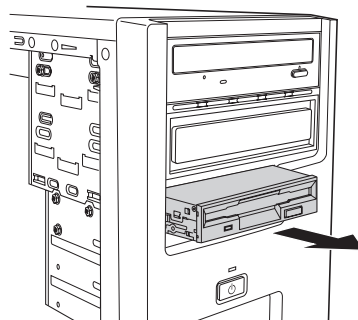
- 1 装置に接続されているケーブル類を外します。




- 2 装置を固定しているネジ（2本）を外します。



- 3 装置を引き抜きます。



- 4 3.5型フェイスプレートを取り付けます。

 p.112 「3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け」
ほかの装置を取り付ける場合は、この作業は必要ありません。

▶3.5型ドライブの取り付け・取り外し後の作業


3.5型ドライブ（FDDやマルチカードリーダーなど）の取り付け・取り外しを行った場合は、次の作業を行ってください。

- FDDの場合

FDDの取り付け・取り外しを行った場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」

状 態	設 定
取り付けた場合	1.44M,3.5in
取り外した場合	Disabled

 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- マルチカードリーダーの場合

マルチカードリーダーの取り付け・取り外しを行った場合は、ドライブのインストール・アンインストールが必要な場合があります。詳しくは、マルチカードリーダーに添付のマニュアルをご覧ください。また、FDD付マルチカードリーダーの取り付け・取り外しを行った場合は、FDDの場合と同様にBIOSの設定を行ってください。


- そのほかの3.5型ドライブの場合

上記以外の3.5型ドライブの取り付け・取り外しを行った場合は、3.5型ドライブに添付のマニュアルをご覧になり、必要な作業を行ってください。

5.25型ドライブの装着

5.25型ドライブ（光ディスクドライブなど）の取り付け・取り外し方法について説明します。






▶5.25型ドライブの取り付け・取り外し

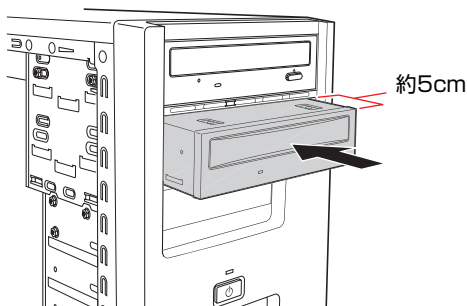
作業を始める前に  p.107 「作業時の注意」と、「機器に添付のマニュアル」を必ずお読みください。

作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

取り付け

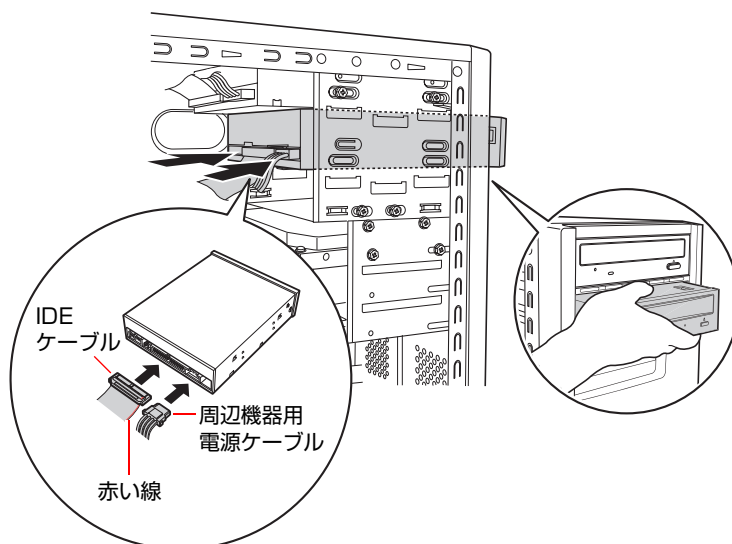
5.25型ドライブの取り付け方法は次のとおりです。ここでは2台目の光ディスクドライブを取り付ける方法を説明します。

- 1 装着する装置に添付のマニュアルを参照して、装置に対して必要な作業（ジャンプスイッチの設定など）を行います。**
 p.125 「IDEコネクタ」
- 2 コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3 コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。**
- 4 本体カバー（左側）を取り外します。**
 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 5 5.25型フェイスプレートを取り外します。**
すでに装着されている装置を交換する場合は、この作業は必要ありません。
 - (1) フロントパネルを取り外します。**
 p.111 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
 - (2) 5.25型フェイスプレートを取り外します。**
 p.113 「5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け」
 - (3) フロントパネルを取り付けます。**
 p.111 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 6 装置を5.25型ドライブベイに押し込みます。**
このとき、装置を前面側に5cm程出しておきます。



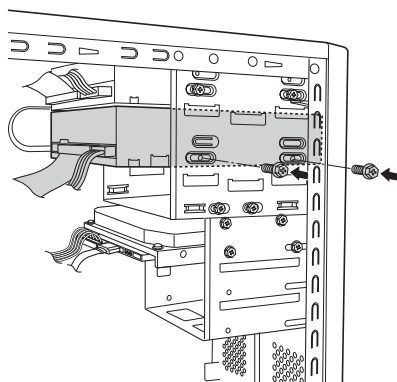
7 右手で装置を固定し、装置にIDEケーブルと周辺機器用電源ケーブルを接続します。

すでに装着されている1台目の装置が作業の妨げになる場合は、装置のネジ（2本）を外し、前面側に移動させて空間を作ります。




8 さらに装置を押し込み、装置のネジ穴をドライブキャリアのネジ穴に合わせて、ネジ（2本）で固定します。


手順7で、すでに装着されている1台目の装置を前面側に移動させた場合は、元の位置に戻し、ネジ（2本）で固定します。




9 本体カバーを取り付けます。

 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」

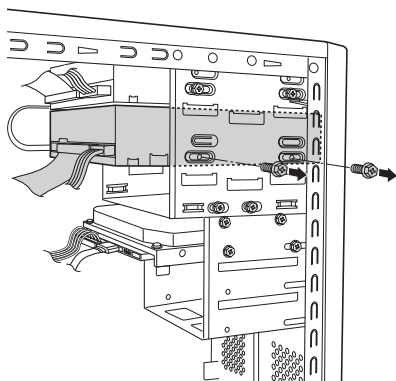
10 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続けて  p.136 「5.25型ドライブの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

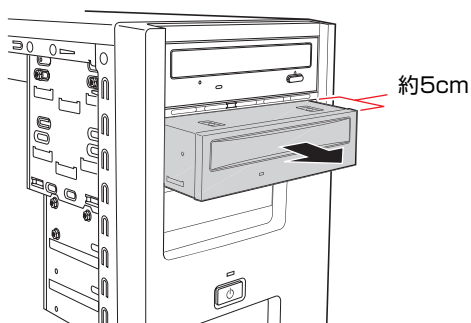
取り外し

5.25型ドライブの取り外しは、 p.133 「取り付け」の手順5～8を、次の手順に読み替えて行ってください。

- 1 装置を固定しているネジ（2本）を外します。

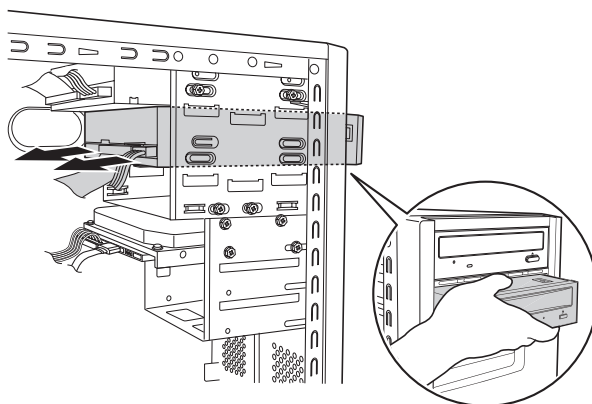


- 2 装置を前面側に5cm程移動させます。



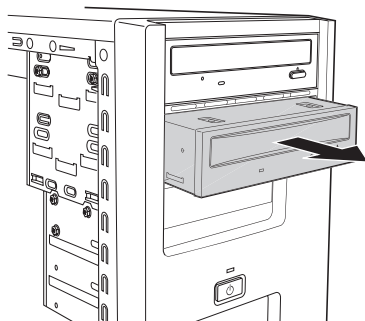
- 3 右手で装置を固定し、装置に接続されているケーブル類を外します。

1台目の装置が作業の妨げになる場合は、装置のネジ（2本）を外し、前面側に移動させて空間を作ります。



4 装置を引き抜きます。


手順3で、1台目の装置を前面側に移動させた場合は、元の位置に戻し、ネジ(2本)で固定します。



5 5.25型フェイスプレートを取り付けます。

ほかの装置を取り付ける場合は、この作業は必要ありません。

(1) フロントパネルを取り外します。

 p.111 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

(2) 5.25型フェイスプレートを取り付けます。

 p.113 「5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

(3) フロントパネルを取り付けます。

 p.111 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

▶5.25型ドライブの取り付け・取り外し後の作業

5.25型ドライブの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

● 光ディスクドライブを取り付けた場合


光ディスクドライブによっては、ライティングソフトなどのソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、光ディスクドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

このほか、5.25型ドライブによっては作業が必要な場合があります。詳しくは、ドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

HDDの装着

HDDの取り付け・取り外し方法について説明します。


▶HDDの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.107 「作業時の注意」と、「機器に添付のマニュアル」を必ずお読みください。

作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。




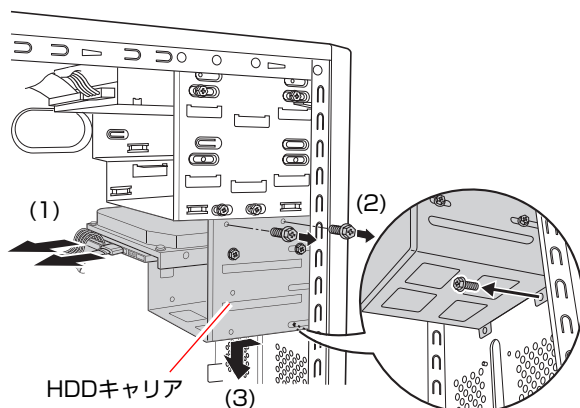
制限

- 本機にIDE仕様のHDDは接続できません。
- HDDへのアクセス制限を設定している場合は、次の項目でアクセス制限を解除してからHDDの増設を行ってください。
「Bootメニュー画面」－「Security」－「Hard Disk Protection」
 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」

取り付け

HDDの取り付け方法は次のとおりです。ここでは2台目のHDDを取り付ける方法を説明します。

- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバー（左側）を取り外します。
 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** HDDキャリアを本体から取り外します。
 - (1) 装着されている1台目のHDDに接続されているケーブル類を外します。
 - (2) 本体ケースとHDDキャリアを固定しているネジ（3本）を外します。
 - (3) HDDキャリアを矢印のとおりはずらして取り外します。



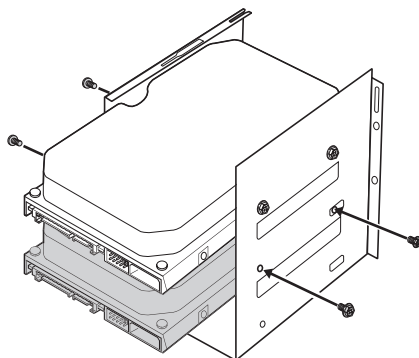
5 HDDキャリアにHDDを取り付けます。

(1) 取り付けるHDDを装着されている1台目のHDDと同じ向きにし、HDDキャリアに差し込みます。

うまく挿入できない場合は、装着されている1台目のHDDの片側のネジをゆるめてください。

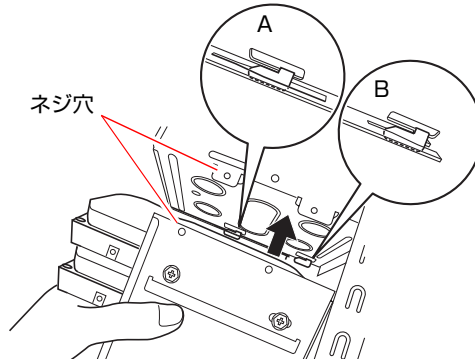
(2) HDDのネジ穴をHDDキャリアのネジ穴に合わせて、ネジ（4本）で固定します。

(1) で1台目のHDDのネジをゆるめた場合は、ネジを締めます。

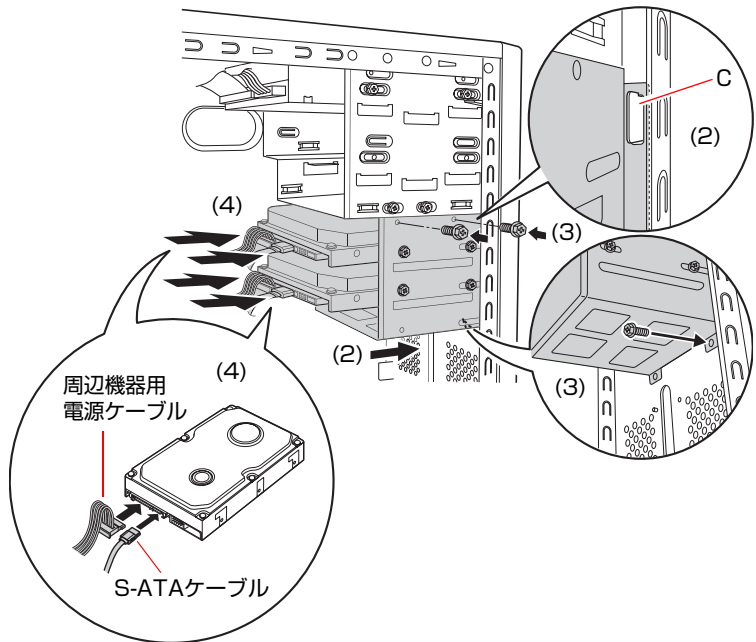



6 HDDキャリアを本体に取り付けます。

- (1) 奥はHDDキャリア側の切込みを本体側のツメA、Bに合わせ、手前はHDDキャリアのネジ穴部分を本体のネジ穴部分にかぶせます。




- (2) HDDキャリアを本体前面側にスライドさせ、HDDキャリアの穴を本体側のツメCに差し込みます。




- (3) HDD キャリアのネジ穴に本体のネジ穴を合わせて、ネジ（3本）で固定します。
- (4) S-ATAケーブルを、HDDのコネクタとメインボード上のS-ATAコネクタに接続し、周辺機器用電源ケーブルを、HDDの電源コネクタに接続します。メインボード上のコネクタ位置は、 p.125 「ドライブ装置とコネクタの接続（IDE装置の装着）」で確認してください。


7 本体カバーを取り付けます。

-  p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 8 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

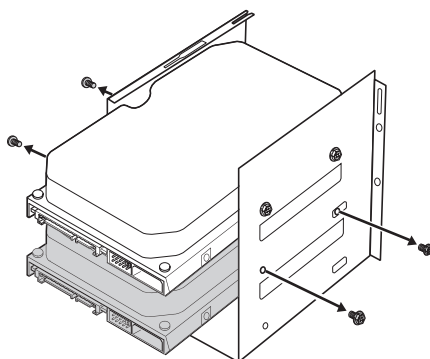
続けて  p.140 「HDDの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

HDDの取り外しは、 p.137 「取り付け」の手順5を次の手順に読み替えて行ってください。


- 1 HDDキャリアからHDDを取り外します。

HDDキャリアとHDDを固定しているネジ（4本）を外し、HDDキャリアからHDDを外します。



▶HDDの取り付け・取り外し後の作業

HDDの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

- HDDを取り付けた場合
HDDを取り付けた場合は、 p.225 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧になり、ドライブの作成を行ってください。
- HDDを取り外した場合
HDDを取り外し、ほかのHDDを取り付けない場合は、S-ATAケーブルをメインボードから取り外し、大切に保管してください。

第4章 BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

「BIOSの設定を始める前に」	142
「BIOS Setupユーティリティの操作」	143
「BIOS Setupユーティリティの設定項目」	153

BIOSの設定を始める前に



制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合


BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。


 p.230 「リチウム電池の交換」

動作が不安定になったら


設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。

万一来に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.153 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」

- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。

 p.147 「設定値をもとに戻す」

BIOS Setupユーティリティの操作

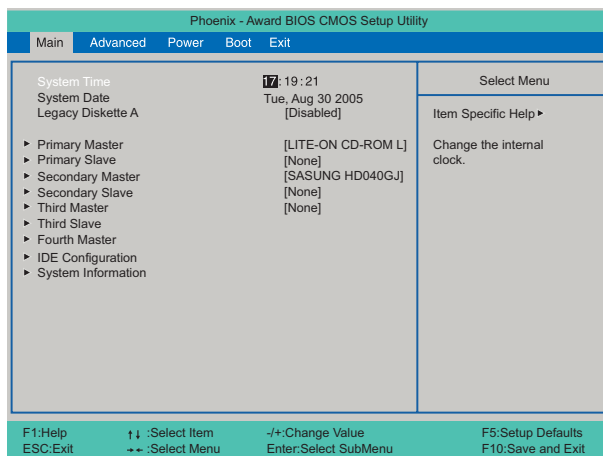
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値をもとに戻す
- Passwordを設定する
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

▶ BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。
手順2ではすばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1 本機の電源を入れます。**
すでにWindowsが起動している場合は再起動します。
- 2 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を押します。**
Windowsが起動してしまった場合は、再起動し、手順2をもう1度実行してください。
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**




< BIOS Setupユーティリティ画面（イメージ） >

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **[Delete]** を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Save & Exit Setup」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

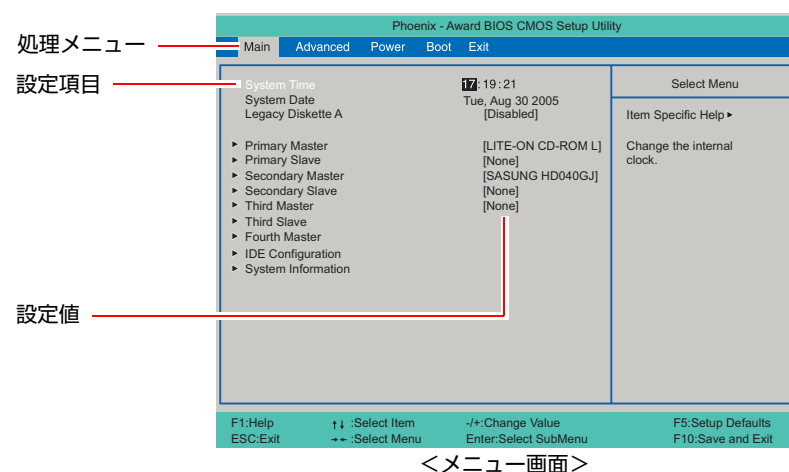
 p.146 「BIOS Setupユーティリティの終了」


▶ BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOS Setupユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.153 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

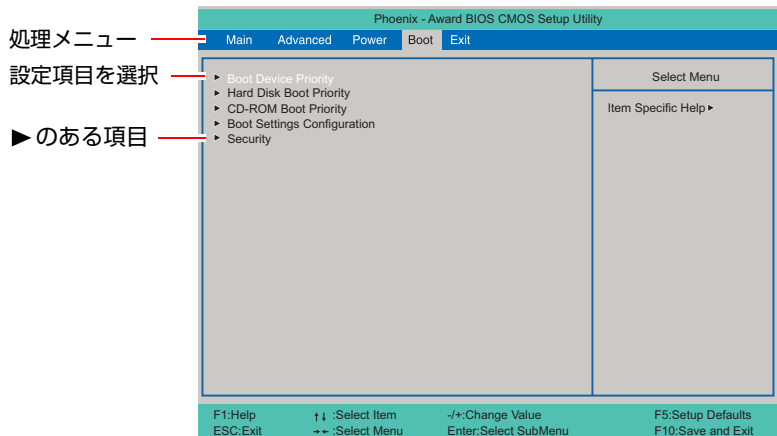
操作方法

BIOS Setupユーティリティの設定値を変更する方法は次のとおりです。

- 1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



<▶のある項目の場合>

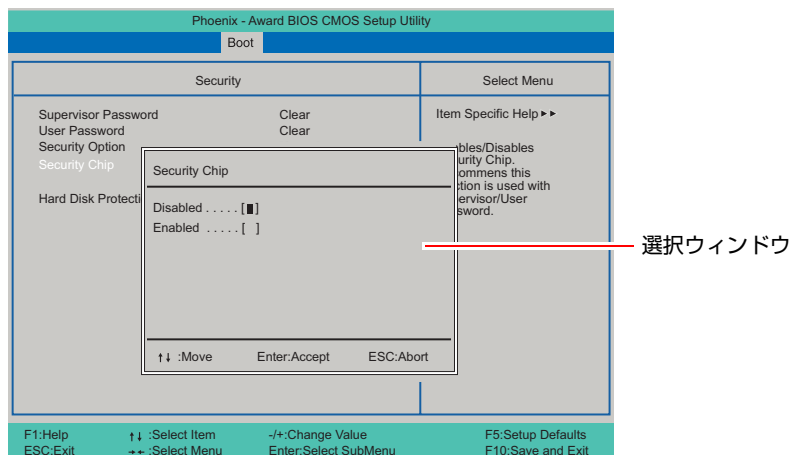
▶のある項目の場合、←]を押すとサブメニュー画面が表示されます。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

サブメニュー画面から戻るには [Esc] を押します。

- 2 設定値を変更します。

←]を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ←] で決定します。



キー操作

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
[Esc]	<ul style="list-style-type: none"> ● 変更した内容を破棄し、終了します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
[↑], [↓]	設定を変更する項目を選択します。
[←], [→]	処理メニューを選択します。
[-], [+]	項目の値を変更します。
[↵]	<ul style="list-style-type: none"> ● メニュー画面中の▶のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
[F5]	全設定項目の値を、初期値に変更します。
[F10]	変更した設定値を保存して終了します。

▶BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Save & Exit Setup（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 [F10] を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save & Exit Setup」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

```
Save configuration changes and exit now?
[YES] [NO]
```

- 2 [YES] を選択し、[↵] を押します。

Exit Without Saving（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 [Esc] を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit Without Saving」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

```
Quit Without Saving (Y/N) ?
[YES] [NO]
```


- 2 [YES] を選択し、[↵] を押します。

▶設定値をもとに戻す

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、ワーコンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimized Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を初期値に戻す手順は、次のとおりです。

- 1  を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimized Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Optimized Defaults (Y/N) ?	
[YES]	[NO]

- 2 [YES] を選択して、 を押します。

Load Optimized Defaults実行後の作業

次のような場合は、Load Optimized Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

<セキュリティチップのセキュリティ機能をお使いの場合>

「Boot」メニュー画面－「Security」－「Security Chip」を「Enabled」に設定します。メインボード上のセキュリティチップの機能を有効にします。

<サウンドボードをお使いの場合>

「Advanced」メニュー画面－「Integrated Peripherals」－「Onboard Audio」を「Disabled」に設定します。

メインボード上のサウンド機能を無効にします。

<ネットワークボードをお使いの場合（無線LANボードの場合は不要です）>


「Advanced」メニュー画面－「Integrated Peripherals」－「Onboard LAN Controller」を「Disabled」に設定します。

メインボード上のネットワーク機能を無効にします。

<FDD、マルチカードリーダー付FDD搭載モデルをお使いの場合>

「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」を「1.44M, 3.5in.」に設定します。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

 p.146 「Save & Exit Setup（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Previous Values (Y/N) ?	
[YES]	[NO]

- 2 [YES] を選択して  を押します。

▶ Passwordを設定する

パスワードを設定することで、本機を使用するユーザーを限定することができます。Windows起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないと本機を使用することができません。

パスワードの設定は、「Boot」メニュー画面にあるPasswordに関する設定項目で行います。

 p.158 「Bootメニュー画面」

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。


- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピュータの管理者用のパスワードです。このパスワードでBIOSにログインした場合、BIOSのすべての項目を変更することができます。
- User Password (ユーザーパスワード)
そのほかのユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードには、BIOSにログインした際の制限を設定することができます。

アクセス制限の設定

管理者パスワードでBIOSにログインすると、アクセス制限の種類やHDDへのアクセス制限を設定することができます。


アクセス制限の種類

アクセス制限には次の2種類があります。

- Setup
BIOSへのアクセスを制限します。BIOS起動時にパスワード入力が必要されます。
- System
BIOS、Windowsへのアクセスを制限します。BIOS起動時とWindows起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力が必要されます。
アクセス制限の選択は、 p.158 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Security Option」で行います。

HDDへのアクセス制限

管理者パスワードを設定すると、HDDへのアクセス制限を設定することができます。HDDへのアクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。HDDにアクセスするには、BIOS起動時、Windows起動時や休止状態からの復帰時にパスワードの入力が必要です。

HDDへのアクセス制限の設定は、 p.158 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Security Option」で行います。



制限


パスワードを忘れると、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

パスワード入力時の注意

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

パスワードの設定・変更


管理者パスワードやユーザーパスワードの設定・変更方法は次のとおりです。ユーザーパスワードは、管理者パスワードを設定すると、設定できるようになります。

- 1 「Boot」メニュー画面－「Security」で「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

- 2 パスワードを入力し、 を押します。

「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。


Confirm Password:

パスワード入力を間違えた場合は、手順1からやり直してください。


- 4 パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Set」に変わります。

パスワードの削除

管理者パスワードおよびユーザーパスワードの削除方法は次のとおりです。
管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。
管理者パスワードを削除する場合は、BIOS Setupユーティリティ起動時に管理者パスワードを入力してください。

- 1 「Supervisor Password」または「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

- 2 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

PASSWORD DISABLED!!!

Press any key to continue...

- 3 どれかキーを押すと、パスワードが削除され、「Supervisor Password」または「User Password」項目の表示が「Clear」に変わります。
これでパスワードが削除されました。

▶起動（Boot）デバイスの順番を変更する

本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク（USBフラッシュメモリやUSB HDDなど）を接続していたり、USB FDDにFDがセットされていると、Windowsが起動しないことがあります。

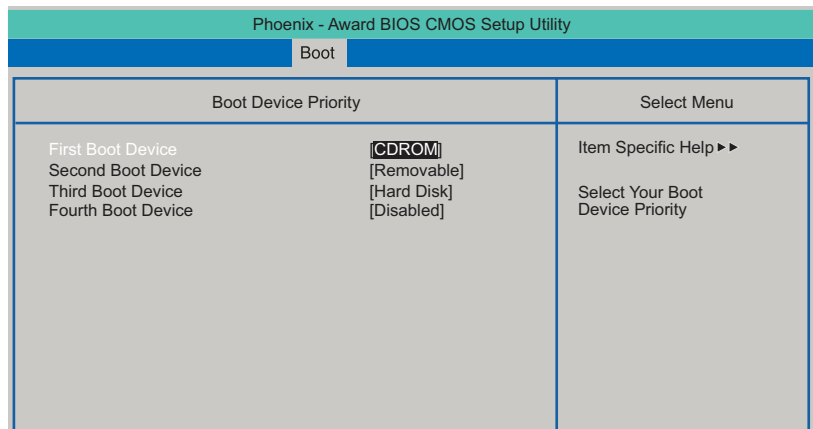
このような場合、「BIOS Setupユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番の変更方法

起動（Boot）デバイスの順番の変更は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で行います。

起動（Boot）デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは、リムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できるよう、設定を変更する方法を説明します。

- 1 「Boot」メニュー画面の「Boot Device Priority」を選択して \leftarrow を押し、サブメニュー画面を表示します。



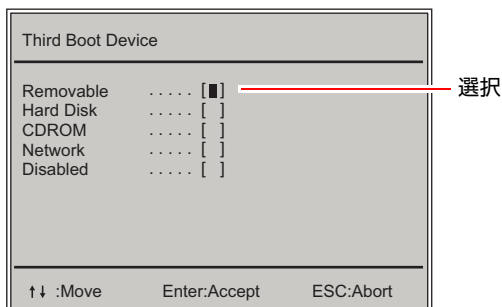
<サブメニュー画面>

「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。

- Removable（USB FDDやUSBフラッシュメモリ、USB HDDなど）
- Hard Disk（接続されているHDD）
- CDROM（接続されている光ディスクドライブ）
- Network（ネットワーク）
- Disabled（検出するデバイスを割り当てないときに設定します）

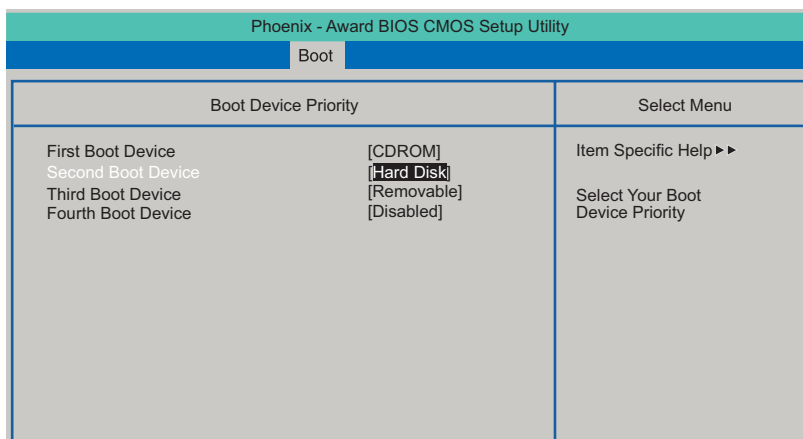
- 2 \uparrow \downarrow で「Third Boot Device」を選択し、 \leftarrow を押します。選択ウィンドウが表示されます。

- 3**   で「Removable」を選択し、 を押します。
「Removable」の順番が3番目になります。



<選択ウィンドウ>

- 4** 同様の方法で「Second Boot Device」(2番目)を「Hard Disk」に変更します。



これで、起動（Boot）デバイスの変更は完了です。
リムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できます。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setupユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
日付、時間、HDDなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面
CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- Power メニュー画面
省電力機能に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面
システムを起動するドライブの設定や本機の動作状態、パスワードの設定などを行います。
- Exitメニュー画面
BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

▶Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDDなどの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ

System Time (hh:mm:ss)		時刻を設定します。(時間：分：秒)の順で表示されます。
System Date (mm:dd:yy)		日付を設定します。(曜日 月/日/年)の順で表示されます。
Legacy Diskette A		接続しているFDDのタイプを選択します。 Disabled : FDD未接続の場合 1.44M, 3.5in. : 3.5型1.44MB対応FDD搭載の場合
Primary Master Primary Slave Secondary Master Secondary Slave Third Master Third Slave Fourth Master Fourth Slave	LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) Modeの設定をします。 初期値 [Auto] のまま使用します。
	*Device	IDE 装置の機器の名称を表示します。
	*Vendor	IDE 装置の型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*Ultra DMA	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*PIO Mode	IDE 装置の転送モードを表示します。
	*SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) をサポートしているかどうかを表示します。
IDE装置の仕様を設定します。	SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のまま使用します。
※表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。		
IDE Configuration IDE 装置の仕様を設定します。	On-Chip Primary PCI IDE	初期値 [Enabled] のまま使用します。
	*** On-Chip Serial ATA Setting ***	S-ATAの設定をします。
	On-Chip Serial ATA	初期値 [Enhanced Mode] のまま使用します。
	*PATA IDE Mode	PATA IDE Modeの設定を表示します。
System Information 本機の仕様を表示します。	*BIOS Version	BIOSの情報を表示します。
	*Installed Memory	本機に搭載されているメモリ容量の情報を表示します。

▶ Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

*は項目表示のみ

CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。	*Manufacturer	メーカーを表示します。
	*Brand String	型番を表示します。
	*Frequency	周波数を表示します。
	*FSB Speed	バススピードを表示します。
	*Cache L1	CPUのL1キャッシュ容量を表示します。
	*Cache L2	CPUのL2キャッシュ容量を表示します。
	*Cache L3	CPUのL3キャッシュ容量を表示します。
	*Ratio Status	CPUクロックの設定を表示します。
	*Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
	Hyper-Threading Technology	ハイパー・スレディング機能の有効/無効を設定します。 ハイパー・スレディング機能を持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。
	Virtualization Technology	Intel Virtualization Technologyの有効/無効を設定します。 Virtualization Technologyを持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。

Integrated Peripherals メインボード上のデバイスに関する設定をします。	Onboard Audio	メインボード上のサウンド機能を使用するかを設定します。 <u>Enabled</u> : 使用します。 Disabled : 使用しません。
	Onboard LAN Controller	メインボード上のネットワーク機能を使用するかを設定します。 <u>Enabled</u> : 使用します。 Disabled : 使用しません。
	Onboard LAN Boot ROM	「Onboard LAN」で「Enabled」を選択すると表示されます。 リモートブート機能の有効/無効を設定します。 <u>Disabled</u> : リモートブート機能を無効にします。 Enabled : リモートブート機能を有効にします。
	Onboard Serial Port	シリアルポートのアドレスとIRQ信号を設定します。 Disabled : シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, <u>2F8/IRQ3</u> , 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3, Auto
	Onboard Parallel Port	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 <u>378/IRQ7</u> , 278/IRQ5, 3BC/IRQ7
	Parallel Port Mode	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 <u>Standard</u> : 標準の設定です。 SPP : SPPモードに設定します。 EPP 1.7 : EPP 1.7モードに設定します。 EPP 1.9 : EPP 1.9モードに設定します。 ECP : ECPモードに設定します。 ECP+EPP : ECP+EPPモードに設定します。
PnP/PCI Configurations PCIPnPに関する設定をします。	PNP OS Installed	OSインストールのための設定です。初期値 [No] のまま使用します。
USB Configuration USBコントローラの設定をします。	USB Controller	初期値 [Enabled] のままで使用します。
	USB2.0 Controller	USBの転送速度を設定します。 <u>Enabled</u> : USB2.0の転送速度で使用します。 Disabled : USB1.1の転送速度で使用します。

▶ Power メニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。


___は初期値

*は項目表示のみ

Suspend to RAM		スタンバイの設定をします。 Enabled : メモリ以外の電源が切れるため、消費電力はほとんどありません。 Disabled : 不必要な電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますので、ご注意ください。 Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 On : 電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 Former-Sts : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後に電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 コンピュータを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピュータは起動しません。
	Power On by PCI device	PCI接続のネットワークボードから起動するかどうかを設定します。 Disabled : 起動しない Enabled : 起動する
	Power On by PCI-Ex device	メインボードのネットワークから起動するかどうかを設定します。 Disabled : 起動しない Enabled : 起動する
	Power On by Alarm	タイマーで起動するかどうかを設定します。 Disabled : 起動しない Enabled : 起動する
	Date (of Month) Alarm	タイマーを起動する日を設定します。
	Time (hh:mm:ss) Alarm	タイマーを起動する時間を設定します。

▶ Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定とSecurityの設定を行います。

Bootの順番の変更方法については、 p.151 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。

Security項目のパスワードの設定方法については、 p.148 「Passwordを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

*は項目表示のみ

システムを起動するドライブの順番を設定します。	First Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。 初期値は「CDROM」（光ディスクドライブ）です。
	Second Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。 初期値は「Removable」（FDD）です。
	Third Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。 初期値は「Hard Disk」（HDD）です。
	Fourth Boot Device	ネットワークから起動する場合は、「Advanced」メニュー画面－「Integrated Peripherals」－「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」（有効）に設定し、「Network」を選択します。初期値は「Disabled」になっています。
Hard Disk Boot Priority		HDDの優先順位を設定します。初期値のまま使用します。
CD-ROM Boot Priority		光ディスクドライブの優先順位を設定します。初期値のまま使用します。
Removable Device Priority		リムーバブルデバイスの優先順位を設定します。リムーバブルデバイス接続時のみ表示されます。
Network Boot Priority		ネットワークの優先順位を設定します。ネットワーク起動設定時のみ表示されます。
Boot Settings Configuration	Boot Up NumLock Status	DOS起動時のNum Lockの状態を設定します。 Off：Num Lockオフの状態にします。 <u>On</u> ：Num Lockオンの状態にします。
	Full Screen LOGO Show	起動時にロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled：表示しません。 <u>Enabled</u> ：表示します。

Security セキュリティ機能 の設定を行います。	Supervisor Password	<p>管理者パスワードを設定します。</p> <p> p.148 「Passwordを設定する」</p> <p><u>Clear</u> : パスワードが設定されていません。</p> <p><u>Set</u> : パスワードが設定されています。</p>
	User Password	<p>管理者パスワードを設定すると、設定可能になります。</p> <p>ユーザーパスワードを設定します。</p> <p> p.148 「Passwordを設定する」</p> <p><u>Clear</u> : パスワードが設定されていません。</p> <p><u>Set</u> : パスワードが設定されています。</p>
	Security Option	<p>管理者パスワードを設定すると設定が有効になります。</p> <p>アクセス制限の種類を選択します。</p> <p><u>Setup</u> : BIOS起動時にパスワード入力が必要されます。</p> <p><u>System</u> : BIOS起動時とWindows起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力が必要されます。</p> <p>※「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定した場合は、自動的に「System」に設定されます。</p>
	Hard Disk Protection	<p>管理者パスワードを設定すると設定が有効になります。</p> <p>HDDへのアクセス制限の設定をします。アクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。</p> <p>※オプションのRaidボードでRAIDを構成している場合、Hard Disk Protectionは設定できません。</p> <p>HDDにアクセスするには、BIOS起動時、Windows起動時や休止状態からの復帰時にパスワードの入力が必要です。</p> <p><u>Disabled</u> : HDDへのアクセスを制限しません。</p> <p><u>Enabled</u> : HDDへのアクセスを制限します。</p>
	Security Chip	<p>セキュリティチップ（TPM）の機能を使用するかを設定します。</p> <p><u>Disabled</u> : 使用しません。</p> <p><u>Enabled</u> : 使用します。</p>
	Clear Security Chip	<p>「Security Chip」を「Enabled」に設定すると表示されます。</p> <p>セキュリティチップ（TPM）に保存されている情報を初期化します。初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。セキュリティチップ（TPM）の初期化は、十分に注意し、お客様の責任において行ってください。</p> <p>セキュリティチップ（TPM）の情報を初期化する場合は、[Enter] を選択し、「Setup Warning」画面が表示されたら、[YES] を選択します。「Setup Confirmation」画面が表示されたら、[YES] を選択すると、情報が初期化され、コンピュータが再起動します。</p>

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。設定項目は、次のとおりです。

Save & Exit Setup	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Without Saving	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Optimized Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶BIOSの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Legacy Diskette A	Disabled	1.44M, 3.5in.	Disabled	1.44M, 3.5in.

Advanced メニュー画面

項目		購入時の設定				変更内容						
CPU Configuration	Hyper-Threading Technology	Disabled	Enabled			Disabled	Enabled					
	Virtualization Technology	Disabled	Enabled			Disabled	Enabled					
Integrated Peripherals	Onboard Audio	Disabled	Auto			Disabled	Auto					
	OnBoard LAN Controller	Disabled	Enabled			Disabled	Enabled					
	OnBoard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled			Disabled	Enabled					
	Onboard Serial Port	Disabled	3F8/IRQ4	2F8/IRQ3	3E8/IRQ4	2E8/IRQ3	Disabled	3F8/IRQ4	2F8/IRQ3	3E8/IRQ4	2E8/IRQ3	Auto
	Onboard Parallel Port	Disabled				Disabled						
		378/IRQ7	278/IRQ5	3BC/IRQ7	378/IRQ7	278/IRQ5	3BC/IRQ7					
	Parallel Port Mode	Standard	SPP	EPP 1.7	EPP 1.9	Standard	SPP	EPP 1.7	EPP 1.9			
			ECP	ECP+EPP			ECP	ECP+EPP				
PnP/PCI Configuration	Plug And Play O/S	No	Yes			No	Yes					

項目		購入時の設定		変更内容	
USB Configuration	USB2.0 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Suspend to RAM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	Former-Sts	On Off	Former-Sts	On Off
	Power On by PCI device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On by PCI-Ex device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On by Alarm	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	First Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	Second Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	Third Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	Fourth Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
Boot Settings Configuration	BootUp NumLock Status	Off	On	Off	On
	Full Screen LOGO Show	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Security	Supervisor password	Clear	Set	Clear	Set
	User password	Clear	Set	Clear	Set
	Security Option	Setup	System	Setup	System
	Hard Disk Protection	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Security Chip	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

第5章 ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

「再インストールする前に必ずお読みください」	164
「ソフトウェアの再インストールを行う」	165

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。

再インストールは「リカバリ」とも言います。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

▶重要事項


再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

 『セキュリティソフトウェアをご使用前に』（別冊）

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

マニュアルびゅうわのバックアップ

電子マニュアル閲覧ツール「マニュアルびゅうわ」は、再インストールをすると消えてしまいます。

再インストールの前に、必ずバックアップをとってください。

 p.218 「マニュアルびゅうわのバックアップ」

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。


▶必要なメディア

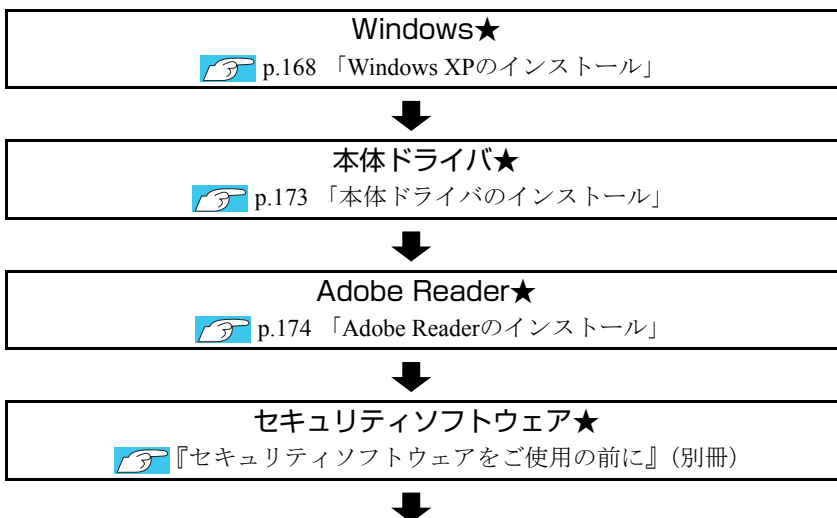
再インストールには、次のメディアが必要です。

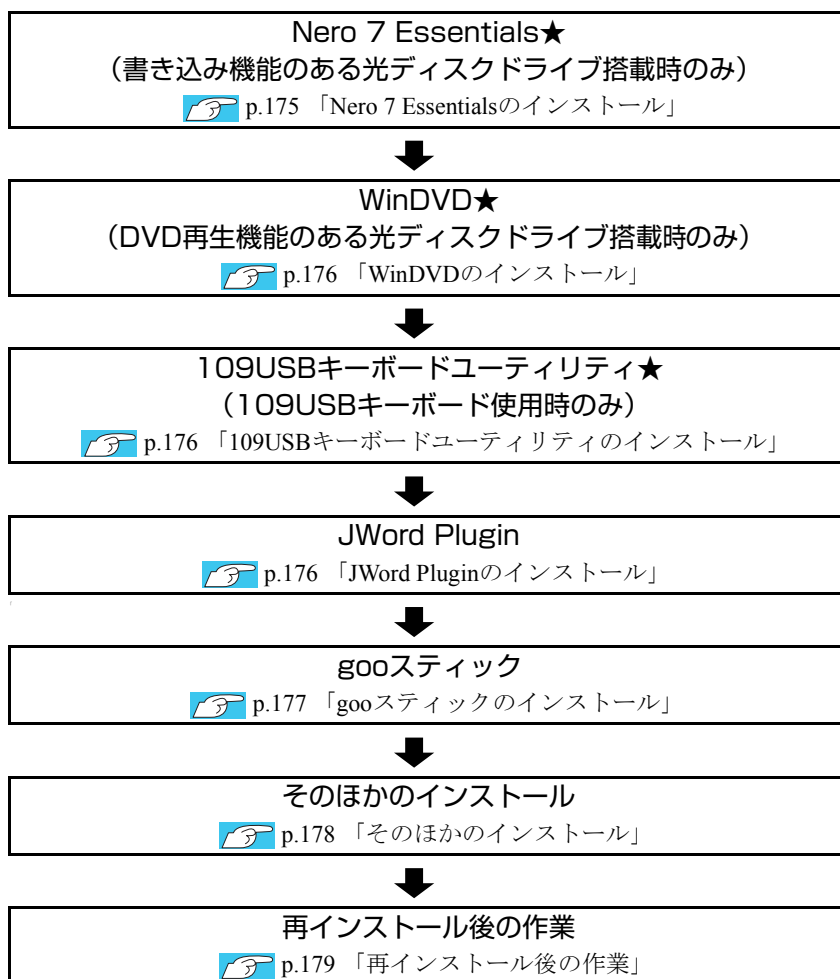
- Windows XPリカバリCD
Windows XPが収録されているCD-ROMです。
- ドライバCD
各種デバイスドライバ、Adobe Reader、セキュリティソフトウェアなどが収録されているCD-ROMです。
- Nero 7 Essentials CD-ROM (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ)
光ディスクドライブのライティングソフトウェアが収録されているCD-ROMです。
- WinDVD CD-ROM (DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ)
DVD VIDEOを再生するソフトウェアが収録されているCD-ROMです。
- 109USBキーボードユーティリティ CD (109USBキーボード使用時のみ)
109USBキーボードのホットキーを使用するためのユーティリティが収録されているCD-ROMです。
- そのほか必要なメディア
お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。★が付いているソフトウェアは必ずインストールしてください。

購入時のインストール状態は、 p.24 「添付されているソフトウェア」で確認してください。





▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

コンピュータの管理者 (Administrator) 権限でログオン

インストール作業は、「コンピュータの管理者」権限（または同等の権限を持つユーザーアカウント）でログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールでパーティションをフォーマットする際は、必ずNTFSファイルシステムを使用してください。


ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ : FDD (オプション)
Cドライブ : HDD
Dドライブ : 光ディスクドライブ

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと設定した事項が元に戻ってしまったり、データが消去されたりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。


 p.169 「バックアップを取る」

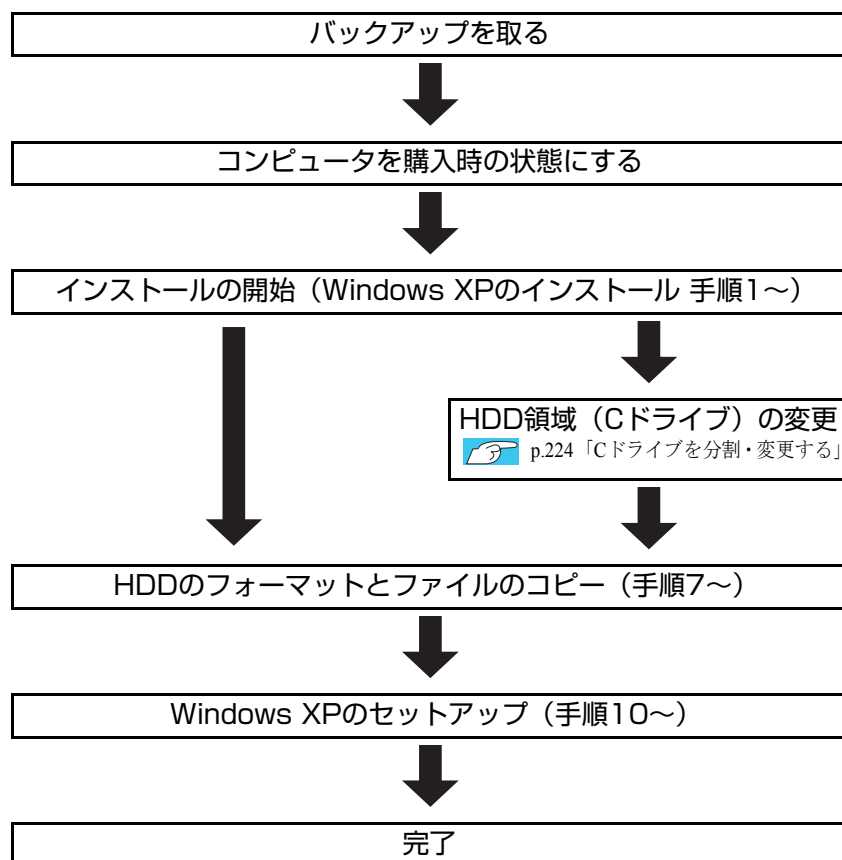
光ディスクドライブ2台装着時

本機に、光ディスクドライブを2台装着している場合、Windowsのインストールは、マスタ設定されたドライブから行ってください。スレイブ設定されたドライブからは、インストールすることができません。

▶Windows XPのインストール


インストールの流れ

Windows XPのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、 p.169 「Windows XPをインストールする」以降の手順に従って行ってください。



HDD領域 (Cドライブ) を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ (Windowsがインストールされている領域) のサイズを変更したり、分割したりすることができます。


HDD領域の変更や、分割についての詳しい説明は、 p.221 「HDD領域 (ドライブ) の分割・変更・作成」をご覧ください。

▶ Windows XPをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。必要に応じてバックアップを行ってください。


- マニュアルびゅうわ

 p.218 「マニュアルびゅうわのバックアップ」

- ネットワークやモデムの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。


- Internet Explorerの「お気に入り」・ Outlook Expressの「アドレス帳」「メールデータ」

 p.217 「データのバックアップ」

このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- セキュリティチップユーティリティの設定


セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。

 『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）－「Windowsを再インストールする前に」

- 重要なデータ

ほかのメディアなどにコピーしておいてください。

HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータのバックアップを念のため行うことをおすすめします。

 p.217 「データのバックアップ」

コンピュータを購入時の状態にする

周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows XPのインストール

Windows XPのインストール方法は、次のとおりです。

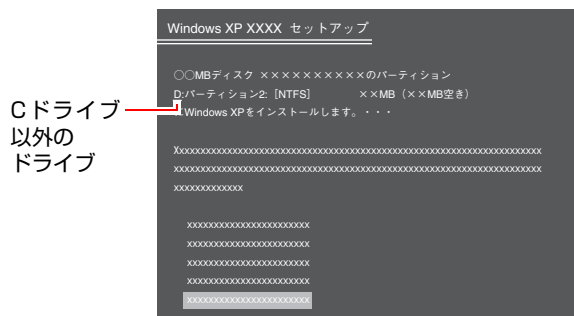
- 1** Windowsが起動した状態で「Windows XPリカバリCD」を光ディスクドライブにセットします。
「実行する操作の選択」画面が表示されたら、画面左下の「終了」をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。
- 2** 「スタート」－「終了オプション」－「再起動」をクリックし、コンピュータを再起動します。

3 「EPSON」と表示後、黒い画面の左下に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。手順4の画面が表示されるまでしばらく時間がかかります。

4 HDDの領域が複数ある場合は、次の画面が表示されます。この場合は、必ず「Esc」を押します。

HDD領域が1つ（Cドライブのみ）の場合、この画面は表示されません。手順5へ進みます。




上の画面では必ず「Esc」を押して、CドライブにWindowsをインストールしてください。「↓」を押してしまうと、Cドライブ以外のドライブにWindowsがインストールされ、そのドライブに収録されているデータはすべて消えてしまいます。注意してください。

5 「次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

<領域変更を行わない場合（通常）>

Cドライブが選択されていることを確認し、「↓」を押します。

<領域変更を行う場合>

 p.224 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。




6 HDDの領域が複数ある場合、「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示されたら、「C」を押します。


HDDの領域が1つの場合は、上記は表示されませんので、手順7に進みます。

7 「…にWindows（XP）をインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択し、「↓」を押します。


「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択すると、CドライブにWindowsが追加登録されてしまいます（Windowsが複数になります）ので注意してください。

8 「警告：このドライブをフォーマットすると…」と表示されたら、「F」を押します。


- 9** フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。
再起動してから「ライセンス契約」が表示されるまでしばらく時間がかかります。
- 10** 「ライセンス契約」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを選択し、[次へ] をクリックします。
「同意しません」を選択すると、Windows XPのインストールが中止されます。
- 11** 「ソフトウェアの個人用設定」と表示されたら、「名前」と「組織名」を入力し、[次へ] をクリックします。
「名前」は必ず入力してください。
- 12** 「コンピュータ名・・・」と表示されたら、必要な項目を入力し、[次へ] をクリックします。
 p.42 「セットアップ中に入力する項目」
- 13** 「日付と時刻の設定」と表示されたら、表示内容を確認し、[次へ] をクリックします。
本機設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- 14** 「ワークグループまたはドメイン名」と表示されたら、必要な項目を入力し、[次へ] をクリックします。
- ネットワークに接続する場合
企業内LANや家庭内LANなどに接続するときは、「ワークグループ」または「ドメイン名」を入力します。
 - ネットワークに接続しない場合
「このコンピュータはネットワーク上にはないか…」に任意の英数字（例：「WORKGROUP」など）を入力する必要があります。
- 購入時の構成によっては表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順へ進みます。
- 15** 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 16** 「モニタの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 17** 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の (次へ) をクリックします。
- 18** 「コンピュータを保護してください」と表示されたら、自動更新を有効にするかどうかを選択し、画面右下の (次へ) をクリックします。
インターネットに接続している環境の場合は、自動更新を有効にすることをおすすめします。

- 19** 「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下の (省略) をクリックします。


購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

- 20** 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けて、画面右下の (次へ) をクリックします。

購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

- 21** 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力し、画面右下の (次へ) をクリックします。

ユーザー名を少なくとも1つ入力してください。

- 22** 「設定が完了しました」と表示されたら、画面右下の (完了) をクリックします。

- 23** Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、「Windows XPリカバリCD」を取り出します。

これでWindows XPのインストールは完了です。

- 24** 手順5でHDD領域 (Cドライブ) を変更した場合は、「未使用の領域」に領域 (パーティション) の作成を行います。

領域 (パーティション) の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが完了してから行っても構いません。



p.225 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

▶本体ドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載されているデバイスのドライバ類を、一括してインストールします。

本体ドライバのインストールで、インストールするドライバ類は次のとおりです。

- チップセットドライバ
- ネットワークドライバ
- ビデオドライバ
- サウンドドライバ
- セキュリティチップドライバ
- Windows Media Player 10
- Java2 Runtime Environment
- インフォメーションメニュー
- Microsoft .NET Framework
- システム診断ツール

インストール

インストールの手順は、次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。**

正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「インストール」をクリックします。**
- 3 「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、[OK]をクリックします。**

各ドライバが自動的にインストールされます。
インストールには十数分かかります。
- 4 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。**
- 5 「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認し、[PC再起動]をクリックします。**

Windows が再起動したら、本体ドライバのインストールは完了です。

▶ Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。**

正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「Adobe Reader」をクリックします。**
- 3 「Adobe Reader…セットアップ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。**
- 4 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール]をクリックします。**

インストールにはしばらく時間がかかります。
- 5 「セットアップ完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。**
- 6 「使用許諾契約書」が表示されたら、「…言語を選択してください。」が「日本語」になっていることを確認します。**
- 7 「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。**

同意する場合は、[同意する]をクリックします。[同意しない]を選択すると、Adobe Readerは使用できません。
- 8 「Adobe Reader操作ガイド」が表示されます。**

内容を確認してください。
以上で、Adobe Readerのインストールは完了です。

▶ セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶ Nero 7 Essentialsのインストール

＜書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時＞

「Nero 7 Essentials」は、光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。

Nero 7 Essentialsのインストール手順は次のとおりです。

Nero 7 Essentialsをインストールすると、InCDもインストールされます。

- 1 「Nero 7 Essentials CD-ROM」を光ディスクドライブにセットします。**
正しくセットされると、自動的に「Neroマルチインストーラ」画面が表示されます。
表示されない場合は、「マイコンピュータ」－「CD-ROM」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 7 Essentials]をクリックします。**
- 3 「Nero 7 Essentialsインストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

▶ WinDVDのインストール

<DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時>

「WinDVD」は、DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。

WinDVDのインストール手順は、次のとおりです。

- 1 「WinDVD CD-ROM」を光ディスクドライブにセットします。**

正しくセットされると自動的に「WinDVD セットアップへようこそ」画面が表示されます。


表示されない場合は、「マイコンピュータ」－「CD-ROMアイコン」をダブルクリックします。
- 2 「WinDVD セットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

▶ 109USBキーボードユーティリティのインストール

<109USBキーボード使用時>

「109USBキーボードユーティリティ」は、109USBキーボードのホットキーを使用するためのユーティリティです。

本機に添付の「109USBキーボードユーティリティ CD」を光ディスクドライブにセットし、画面の指示に従ってインストールを行ってください。ホットキーの設定は、すべてのインストール作業が完了してから行います。

 p.57 「ホットキーを使用する」

▶ JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。

JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。**

正しくセットされると自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。

表示されない場合は、[スタート]－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から、「JWord Plugin」をクリックします。**
- 3 「JWord プラグイン…へようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

▶ gooスティックのインストール

「gooスティック」は、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。

gooスティックのインストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。**

正しくセットされると自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から、「gooスティック」をクリックします。**
- 3 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。**

これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

セキュリティチップユーティリティのインストール

「セキュリティチップユーティリティ」は、セキュリティチップの設定を行うためのユーティリティです。詳しくは、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。



インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバ
 - プリンタを使用する場合：プリンタに添付のドライバ
-


そのほかのソフトウェアのインストール

「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶再インストール後の作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。


 p.225 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

ネットワークやモデムの設定

再インストールを行う前に書き写しておいた設定を元に、ネットワークやモデムの設定を行います。

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

 p.217 「データのバックアップ」


- マニュアルびゅうわ
- Internet Explorer、Outlook Expressの設定
- 重要なデータ

バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

Windows Update

再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。

Windowsの再インストール後にはじめてインターネットに接続する際は、必ず手動で「Windows Update」を行ってください。

 p.45 「Windows Updateを行う」

第6章 こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。


「トラブルが発生したら」	182
「困ったときに」	183
「システム診断ツールを使う」	209
「トラブル時に役立つ機能」	211
「警告メッセージが表示されたら」	213

トラブルが発生したら

本機ご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法をご確認ください。

- 困ったときに

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

 p.183 「困ったときに」

- とらぶる解決ナビ

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。



「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリックします。



トラブルが起きた場合の対処の流れを確認します。

起こったトラブルに関する項目をクリックします。
トラブルの詳細が表示されたら、詳細項目をクリックし、対処方法を確認します。

参考

サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』（別冊）には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。



不具合が解消しない場合は

対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

不具合一覧

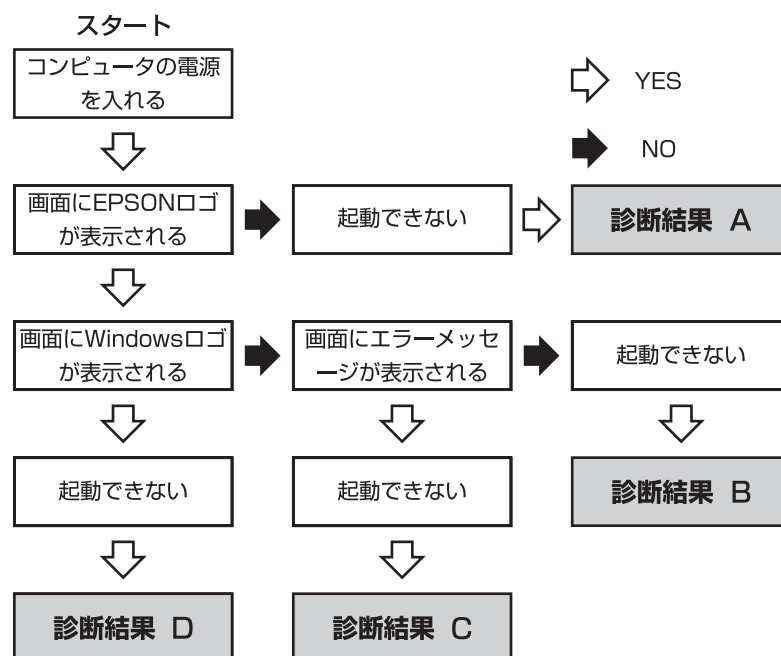
◆ コンピュータ本体（起動時）	p.184
● 起動	p.184
● そのほか	p.191
◆ コンピュータ本体	p.192
● 省電力機能	p.192
● セキュリティチップ（TPM）	p.193
● 装置の増設・交換	p.193
● そのほか	p.194
◆ メモリ	p.195
● メモリ	p.195
◆ 記憶装置	p.196
● FDD（オプション）	p.196
● HDD	p.197
● 光ディスクドライブ	p.198
◆ 入力装置	p.201
● キーボード	p.201
● マウス	p.202
◆ 表示装置	p.203
● ディスプレイ	p.203
◆ サウンド	p.204
● スピーカ	p.204
◆ ソフトウェア	p.205
● ソフトウェア	p.205
● インストール	p.207
◆ ネットワーク、インターネット	p.208

▶ コンピュータ本体の不具合（起動時）

コンピュータが起動できない不具合に対する対処方法を説明します。

起動時の不具合

コンピュータが起動できない場合は、次の診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってみてください。



診断結果 A

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピュータ本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

(2) ディスプレイの電源ランプを確認する

ディスプレイの取扱説明書をご覧になり、ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。

(3) ディスプレイケーブルを接続しなおす

コンピュータ本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決するかどうか確認してください。

(4) ディスプレイの電源コードを接続しなおす

ディスプレイの電源コードの接続に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイの電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(5) コンピュータ本体の電源コードを接続しなおす

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピュータ本体の電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(6) 周辺機器および増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(7) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。



p.233 「CMOS RAMの初期化」

(8) 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器/増設機器類（キーボード、マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

診断結果 B


次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器および増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.211 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

 p.211 「システムの復元」


(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に **[F5]** を押し、そのまま離さずしばらく押し続けます。
3. 「Windows 拡張オプションメニュー」と表示されたら、**[↑]** または **[↓]** を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、**[↵]** を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して、**[↵]** を押します。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.147 「Load Optimized Defaults (初期値に戻す)」


(5) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。


 p.233 「CMOS RAMの初期化」

(6) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.165 「ソフトウェアの再インストールを行う」

診断結果 C

まず、 p.213 「警告メッセージが表示されたら」をご覧ください、メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、下記をご覧ください、対処を行ってください。

● 「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(1) カスタマーサービスセンターへ連絡する

HDDに問題がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧ください、カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

● 「Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details」というメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピュータ本体の電源を入れなおす

コンピュータの電源を切ってから、電源コードを抜き、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてみてください。

(2) 壁のコンセントに直接接続する

電源タップなどにコンピュータの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピュータの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。

(3) 消費電力の大きい機器を停止する

大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピュータの電源を入れてみてください。


● 「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」などのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

FDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動

して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面で起動に使用するドライブの優先順位の設定でHDDを最優先に設定しておくことで、FDDやUSB機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

 p.151 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」


(2) しばらく放置する

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露してしまっている可能性があります。乾くまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れてみてください。

(3) HDDの認識と接続を確認する

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. 「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

 p.143 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Main」メニュー画面で「Third Master」の表示を確認します。

HDDの型番が表示される場合、HDDは正常な状態です。続けて、下記(4) (5)の作業を行ってみてください。

「Not Detected」、「None」などと表示される場合は、HDDが正常に認識されていません。HDDに接続されているケーブル類を差しなおしてみてください。

 p.137 「HDDの装着」

解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.147 「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。


 p.168 「Windows XPのインストール」

● そのほかのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

FDがセットされていたり、USB接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB機器からOSを読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をFDDやUSB機器よりも上に設定しておくことで、FDDやUSB機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。


 p.151 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

(2) 周辺機器および増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(3) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.147 「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」

(4) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.233 「CMOS RAMの初期化」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.168 「Windows XPのインストール」

診断結果 D

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器および増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。



p.211 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼働中、常に稼働しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. 「ファイル名を指定して実行」画面が表示されたら、「名前」に「msconfig」と入力して、[OK] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動する必要があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
5. Windows 起動時に、「開始方法を変更しました」というメッセージが表示されたら、「このメッセージを表示しない」にチェックを入れて、[OK] をクリックします。

※常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。



p.211 「システムの復元」


(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F5** を押し、そのまま離さずしばらく押し続けます。
3. 「Windows 拡張オプションメニュー」と表示されたら、**↑** または **↓** を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、**↵** を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して、**↵** を押します。

(4) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。


 p.165 「ソフトウェアの再インストールを行う」

起動時の不具合（そのほか）**現象**

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter Password:


確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。
 p.148 「Passwordを設定する」
- パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。
 p.54 「キーロック表示ランプ」
- パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。
 p.233 「CMOS RAMの初期化」
ただし、HDDへのアクセス制限を設定している場合、パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。
- 強制的に解除した場合、BIOSの設定が初期化されてしまい、BIOSを再度設定する必要があります。「BIOSの設定値」に変更内容を記入している場合は、「BIOSの設定値」をご覧になり、設定してください。
 p.160 「BIOSの設定値」
- パスワード入力後に次のようなメッセージが表示された場合は、間違ったパスワードを入力しています。
Invalid Password! Press Any Key to Continue.
 を押して、再度パスワード入力画面を表示させて、正しいパスワードを入力してください。

現象

起動時にWindowsを選択する画面が表示される（Windowsが2つになってしまっている）。

確認と対処

- Windowsの再インストールの際に手順を間違ったと考えられます。再度、手順どおりにWindowsの再インストールを行ってください。ポイントとなる手順は、次のとおりです。
 - p.169 「Windows XPのインストール」の手順4では必ず  を押す。
 - p.169 「Windows XPのインストール」の手順5、p.224 「Cドライブを分割・変更する」の手順1では必ずCドライブを選択する（Cドライブ以外にWindowsが入ってしまっている場合は、そのドライブをフォーマットする）。
 - p.169 「Windows XPのインストール」の手順7、p.224 「Cドライブを分割・変更する」の手順7では必ず「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択する。

▶コンピュータ本体の不具合



コンピュータ本体の不具合に対する対処方法を説明します。

省電力機能に関する不具合


現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- 相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。設定を変更した場合の電力消費は、通常より若干抑えられる程度になります。
 - 「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」－「Disabled」（無効）
 -  p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」
 -  p.98 「省電力状態の種類」

- スタンバイを実行しているときや、休止状態のときは、キーボードやマウスの操作では、省電力状態から復帰しません。電源スイッチを押して本機を復帰させてください。

 p.102 「省電力状態から復帰する」

- 省電力状態から復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合

現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対策

- セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目で行います。
「Boot」メニュー画面－「Security」－「Clear Security Chip」で **[Enter]** を選択します。「Setup Warning」画面が表示されたら、**[YES]** を選択します。「Setup Confirmation」画面が表示されたら **[YES]** を選択すると、情報が初期化され、コンピュータが再起動します。
初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。セキュリティチップの初期化は十分に注意し、お客様の責任において行ってください。

装置の増設・交換に関する不具合

現象

拡張ボード、周辺機器を増設したら、コンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処

- 増設した機器が、対応する拡張スロットおよびコネクタに、正しく装着されているか、確認してください。
- 周辺機器を追加するために拡張ボードを装着した場合、周辺機器と拡張ボードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。
- 拡張ボードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要な場合があります。拡張ボードのマニュアルを確認してください。


- 拡張ボード、周辺機器のドライバがインストールされているか、確認してください。詳しくは拡張ボード、周辺機器のマニュアルを確認してください。
- 拡張ボード、周辺機器を取り外して問題が解決されるかどうか、確認してください。
- 上記の処置を行っても改善が見られない場合は、拡張ボード、周辺機器の販売元にお問い合わせください。

そのほかの不具合

現象

ハングアップしてしまい何も反応しない。


確認と対処

- 応答のないプログラムを強制終了してからコンピュータを再起動してください。
 p.52 「ハングアップしたときは」
- 応答のないプログラムを終了させることができない場合には、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。その後、20秒程待つてから、電源を入れなおします。電源を入れても起動しない場合は、電源コードを抜いて、1分程待つてから差しなおし、再度電源を入れてください。

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。
 p.230 「リチウム電池の交換」

▶メモリの不具合

メモリの不具合に対する対処方法を説明します。

メモリの不具合

現象

表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

- 本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メインメモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量（最大128MB）を差し引いて表示されます。
- メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、スロットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。



p.114 「メモリの装着」

▶記憶装置の不具合

記憶装置の不具合に対する対処方法を説明します。

FDD（オプション）の不具合

現象

FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FD が正しくセットされていない可能性があります。正しくセットしなおしてください。


A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

ディスクの挿入
A:ドライブにディスクを挿入してください。
[キャンセル]

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FD がフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性が
あります。


ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

- 使用しているFDが、本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。

 p.61 「FDDを使う（オプション）」

- 別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

- 「BIOS Setupユーティリティ」－「Mainメニュー画面」－「Legacy Diskette A」の設定値が「1.44M, 3.5in.」になっているか確認してください。


 p.154 「Mainメニュー画面」

現象

FDに書き込みできない。

確認と対処

- ライトプロテクトされていないか確認します。

 p.64 「ライトプロテクト（書き込み禁止）」

HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、マニュアルに記載されている容量と異なって表示される。

確認と対処


- 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、マニュアルに記載されているHDD容量より少なく表示されます。
これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」（0と1の2つの数字を用いる表記法）を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」（0～9の数字を用いる表記法）を使用していることによる違いです。
2進法で表記した1KB（キロバイト）は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処



- BIOSの「Boot」メニュー画面で起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。

 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」

現象

増設したHDDが使用できない。

確認と対処

- HDDに接続しているS-ATAコネクタ、電源ケーブルを確認します。
 p.125 「ドライブ装置とコネクタの接続（IDE装置の装着）」
- HDDを増設・交換した場合は、 p.225 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

光ディスクドライブの不具合

現象

光ディスクドライブがコンピュータに認識されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブにIDEケーブル、電源ケーブルが正しく接続されているか、またケーブルに損傷はないか確認してください。
- 光ディスクドライブやそのほかの装置のジャンプスイッチの設定が正しいか確認してください。



「マニュアルびゅーわ」－『光ディスクドライブPDFマニュアル』

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- 本機にスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、アンプ内蔵スピーカを本機背面のサウンドコネクタ（サウンドボードを装着している場合はサウンドボードのコネクタ）に接続してください。



p.36 「スピーカの接続」



p.80 「サウンド機能を使う」

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。


現象

セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか、確認してください。
- メディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は、読み込み準備のためアクセスできません。この場合は、アクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面にキズなどがないか、確認してください。
- 本機に添付されていたCD-ROM（データが収録されているCDなど）にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。

- 特殊なフォーマット形式のメディアの場合、アクセスできない可能性があります。お使いの光ディスクドライブで使えるフォーマット形式を確認してください。

 「マニュアルびゅーわ」 – 『光ディスクドライブPDFマニュアル』

- セットしたメディアが書き込み済みのメディアの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

セットしたメディアが取り出せない。


確認と対処

- コンピュータの電源が入っているか、確認してください。
- ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

現象

メディアをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処

- セットしたCD-ROMなどのメディアに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。メディアに収録されている内容を見たい場合は、[キャンセル] や、 をクリックして、画面を閉じます。その後、[スタート] – 「マイコンピュータ」のCD-ROMアイコンを右クリックして、「開く」を選択します。


現象

メディアへの書き込みができない。


確認と対処

- CD-ROMドライブ、DVD-ROMドライブの場合、メディアへの書き込みはできません。


- 書き込みソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされていない場合は、インストールをしてください。





 p.175 「Nero 7 Essentialsのインストール」

- メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『Neroユーザーズガイド』を参照してください。

 「マニュアルびゅーわ」 – 『Neroユーザーズガイド』

- お使いの光ディスクドライブ対応のメディアを使用しているかどうか確認してください。




 「マニュアルびゅーわ」 – 『光ディスクドライブPDFマニュアル』

- データの書き込みをドラッグアンドドロップで行うには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。
 p.73 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- InCDで使用できるメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
 p.73 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- InCDでフォーマットしたメディアは、「Nero 7 Essentials」での書き込みができません。Nero 7 Essentialsで「ディスクの消去」を行ってください。
 p.73 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- Windowsが省電力状態に切り替わると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.100 「時間経過で移行させない」
- メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。
- メディアの表面に汚れやキズなどがないか、確認してください。
- メディアの残量があるか、確認してください。
- ヘッドレンズの汚れによって、書き込みができない場合があります。
- 光ディスクドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。

現象

DVDの再生ができない。

確認と対処

- CD-ROMドライブでは、DVDの再生はできません。
- DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。本機には、「WinDVD」が購入時にインストールされています。DVD VIDEO再生に関する不具合については、『WinDVDユーザーズマニュアル』を参照してください。
 「マニュアルびゅーわ」 - 『WinDVDユーザーズマニュアル』
- 解像度や色数、リフレッシュレートを変更してみてください。
 p.78 「解像度や表示色を変更するには」
 p.79 「リフレッシュレートの設定」

▶入力装置の不具合



入力装置の不具合に対する対処方法を説明します。


キーボードの不具合

現象

数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処

- 数値キーは  の状態により機能が変わります。 を押して、オンの状態にします。


 p.56 「キーロック表示ランプ」

現象


どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- キーボードが正しく接続されているか確認します。PS/2 キーボードの場合、接続は、本機の電源を入れる前に行ってください。

 p.34 「キーボードの接続」

- マウスを操作してみてください。マウスで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。


 p.52 「再起動」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。日本語入力モードに切り替えてください。


 p.54 「キーボードを使う」

現象


Uボタンが使用できない。

確認と対処

- 画面右下の通知領域に「Hotkey Setup」アイコンが表示されていない場合は、キーボードユーティリティが起動していないため、Uボタンを使用することができません。キーボードユーティリティを起動してください。

 p.59 「キーボードユーティリティの起動」

- キーボードユーティリティがインストールされていない場合は、インストールを行います。

 p.176 「109USBキーボードユーティリティのインストール」


マウスの不具合

現象


マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。PS/2 マウスの場合、接続は、本機の電源を入れる前に行ってください。

 p.35 「マウスの接続」

- キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。

 p.52 「再起動」

 p.52 「ハングアップしたときは」

- オプティカルマウスの場合、表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用すると、マウスの動きがコンピュータに伝わりません。

▶表示装置の不具合



表示装置の不具合に対する対処方法を説明します。

ディスプレイの不具合

現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。


確認と対処

- ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- 本機背面の VGA コネクタにディスプレイのケーブルが接続されているか確認します。
 p.32 「ディスプレイの接続」
- ビデオボード装着時はビデオボードのコネクタにディスプレイのケーブルが接続されているか確認します。
 p.32 「ディスプレイの接続」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 警告音（ビープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。


現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

- 省電力状態になっている可能性があります。キーボードやマウスを操作してみてください。電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています。この場合は、電源スイッチを押すと、元に戻ります。
 p.97 「省電力機能を使う」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイのケーブルが正しく接続されているか確認してください。本機で使用できるディスプレイの接続ケーブルは次をご覧ください。

 p.32 「ディスプレイの接続」

- ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売元にご確認ください。

現象

画面がちらつく、文字がにじむ。

確認と対処

- リフレッシュレートを変更してみてください。


 p.79 「リフレッシュレートの設定」

現象

画面の解像度などを変更した後、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

- ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。
- 使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動して、解像度を変更してみてください。

 p.211 「セーフモードでの起動」

▶ サウンドの不具合

サウンドの不具合に対する対処方法を説明します。


スピーカの不具合

現象


音が鳴らない。

確認と対処

- 本機にスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、アンプ内蔵スピーカを本機背面のサウンドコネクタに接続してください。スピーカを接続したら、サウンドコネクタの設定を行ってください。

 p.81 「サウンドコネクタの設定」

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認してください。

 p.80 「サウンド機能を使う」

▶ソフトウェアの不具合

ソフトウェアの不具合に対する対処方法を説明します。

ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、Windowsの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。
- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、または、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、Windowsがハングアップする場合があります。
- 応答のないプログラムを強制終了してからコンピュータを再起動してください。



p.52 「ハングアップしたときは」

現象

アプリケーションやプログラムの実行が停止され、「データ実行防止」画面が表示された。

確認と対処

- セキュリティソフトウェアで、ウイルスの検索・駆除を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース（メモリ容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度ソフトウェアを起動してみてください。

- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。
- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

Internet Explorerの使用時に「警告」（情報バー）画面が表示される。

確認と対処

- Internet Explorerは、購入時、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう、設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」（情報バー）画面が表示されたら、[OK]をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

Outlook ExpressでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処

- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。Outlook Expressの [ツール] - 「オプション」 - 「セキュリティ」 タブ - 「ウイルスの可能性のある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

- ファイアウォールが有効に設定されていると、ネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。
詳細についてはソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

- Windowsの再インストール前にバックアップした「マニュアルびゅーわ」を復元してください。



p.218 「マニュアルびゅーわのバックアップ」

- 「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合、当社のユーザーサポートページから当社作成の電子マニュアルをダウンロードすることができます。
ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。




p.219 「電子マニュアルのダウンロード」

インストール時の不具合

現象

Windowsの再インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書の手順は、 p.19 「本製品の仕様とカスタマイズ」で記載している製品仕様でインストールすることを前提に説明しています。周辺機器を増設している場合は、手順が異なることがあります。各機器に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。
- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows XPRリカバリCDを光ディスクドライブにセットして再起動し、どれかキーを押してもWindowsの再インストールが開始されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブの起動順位を HDD よりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、起動順位を変更してください。

 p.151 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

▶ネットワーク、インターネットの不具合

ネットワーク、インターネットの不具合に対する対処方法は、「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。

システム診断ツールを使う

ここでは、「システム診断ツール」について説明します。システム診断ツールとは、本機の調子が悪いときに、不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを診断するためのツールです。

▶システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2つの種類があります。

- Windows上で起動するシステム診断ツール

Windows上でシステム診断を行うことができます。
購入時は、本機にあらかじめインストールされています。

- CDから起動するシステム診断ツール

Windowsが起動できない場合に、ドライバCDから起動してシステム診断を行います。
本機廃棄時にHDD内のデータを消去することもできます。

▶システム診断を実行する

本機の調子が悪いときに、システム診断を実行して原因を確認します。
Windowsを起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。

Windowsを起動できる場合

Windows上で起動するシステム診断ツールを使用します。実行方法は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「システム診断ツール」アイコンをダブルクリックします。**
- 2 「システム診断ツール」画面が表示されたら、診断したい項目名をクリックします。**

該当項目の診断が開始します。
[診断項目を選択する] を選択した場合は、診断項目を選ぶことができます。
実行方法の詳細は、システム診断ツールのヘルプをご覧ください。
- 3 診断が終了したら、診断結果を確認します。**

「異常が検出されました」の画面が表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。画面で対処方法を確認してください。
問題が解決されない場合は、ヘルプまたは『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

Windowsを起動できない場合

CDから起動するシステム診断ツールを使用します。実行方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、ドライバCDを光ディスクドライブにセットします。
- 2** **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面の左下に「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST.」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4** 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、テクニカルセンターまでご連絡ください。
- 5** 光ディスクドライブからドライバCDを取り出し、電源を切ります。
これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここではトラブルが発生した場合に役立つWindowsが持つ機能について説明します。

▶セーフモードでの起動

本機が起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。

セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 本機の電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 EPSONと表示され、消えた直後に **F5** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
F5 を押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**←** を押します。

セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

▶システムの復元

Windows XPでは、本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行って本機を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。

復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2 「システムの復元」が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」を選択し、[次へ] をクリックします。

- 3** 「復元ポイントの選択」と表示されたら、復元ポイントを選択します。
復元ポイントのある日が、カレンダーに太字で表示されるので、まず日付を選択し、次に画面右側の復元ポイントの一覧より、復元ポイントを選択し、[次へ] をクリックします。
- 4** 「復元ポイントの選択の確認」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
Windowsが再起動します。
- 5** 再起動後、「復元は完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] – 「すべてのプログラム」 – 「アクセサリ」 – 「システムツール」 – 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「システムの復元」画面が表示されたら、「復元ポイントの作成」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3** 「復元ポイントの作成」と表示されたら、「復元ポイントの説明」に説明を入力し、[作成] をクリックします。
- 4** 「新しい復元ポイント」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
以上で復元ポイントの作成は完了です。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。

処置を行ってもなおらない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
Floppy disk(s) fail	FDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER	HDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU temperature too high	CPUが高温になっています。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。
CPU FAN rotating lower than 500rpm!!!	CPUファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU over voltage error	CPUの電源電圧が異常です。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。
Chassis FAN rotating lower than 400 rpm !!!	シャーシファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。

付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

「お手入れ」	216
「データのバックアップ」	217
「電子マニュアルのダウンロード」	219
「セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化」	220
「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」	221
「リチウム電池の交換」	230
「CMOS RAMの初期化」	233
「コンピュータ内部のケーブル接続」	235
「コンピュータを廃棄するときは」	236
「機能仕様一覧」	238

お手入れ

▶本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

Cドライブ内の「マイドキュメント」やInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」と「とらぶる解決ナビ」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」の見方

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「安全に安心して使おう！」項目の「バックアップ」

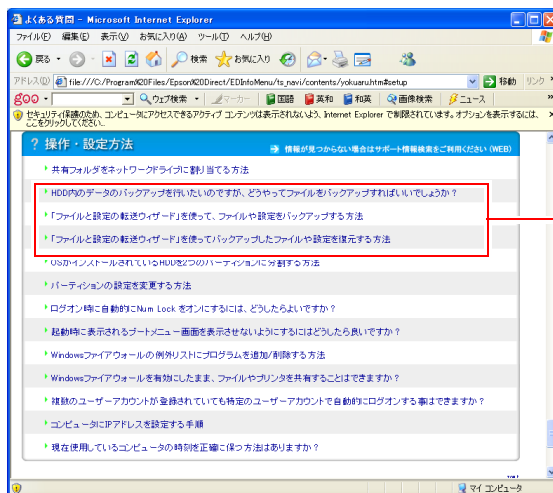


※画面は予告なく変更される場合があります

「とらぶる解決ナビ」の見方

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」－「よくある質問」
項目の「よくある質問を見る」－「操作・設定方法」



見たい情報を
クリック

※画面は予告なく変更される場合があります

マニュアルびゅうわのバックアップ

マニュアルびゅうわのデータは、Cドライブの「お知らせ」フォルダにあり、Windowsを再インストールすると削除されます。Windowsを再インストールする前に、Cドライブの「お知らせ」フォルダをほかのメディアなどに必ずコピーして保存してください。

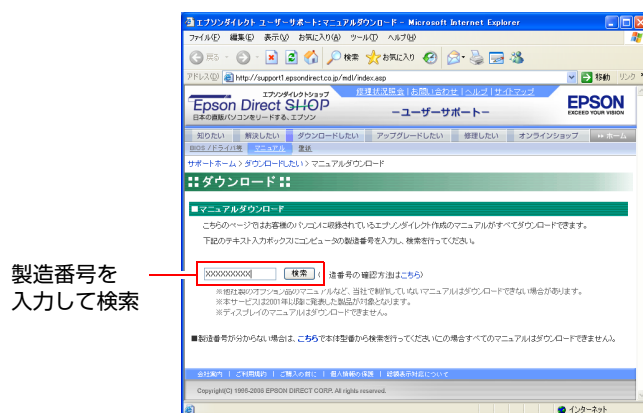
ほかのメディアなどに保存した「お知らせ」フォルダは、Windowsを再インストールした後にCドライブにコピーして元に戻します。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。紙マニュアルをなくしてしまった場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを消してしまった場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロードしたい」タブ－「マニュアル」



製造番号を
入力して検索

※ 画面は予告なく変更する場合があります。



制限

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見ることができません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロードしたい」タブからは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- 壁紙

セキュリティチップ (TPM) によるデータの暗号化

本機では、セキュリティチップ (TPM) のセキュリティ機能を使用することにより、本機に保存されているデータや電子メールに対し、高度な暗号化をすることができます。

セキュリティ機能を使用する際は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

セキュリティ機能の使用方法については、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』(別冊) をご覧ください。



セキュリティ機能を使用するには、いくつかのパスワードの設定を行ってください。パスワードを忘れてしまった場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

セキュリティ機能を使い始めるまでの準備

セキュリティ機能を使用するための準備の前に、必ず、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』をご覧ください。

セキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定を変更後、「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。


● BIOSの設定

セキュリティ機能を使用するには、「BIOS Setupユーティリティ」で次の項目の設定を変更します。

「Boot」メニュー画面 - 「Security」 - 「Security Chip」

セキュリティ機能	Security Chip
使用しない場合	Disabled (無効)
使用する場合	Enabled (有効)

購入時は、「Disabled」に設定されています。

 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」

● セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機にセキュリティチップの設定を行うための「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。セキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行います。

インストール方法は、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』をご覧ください。

HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

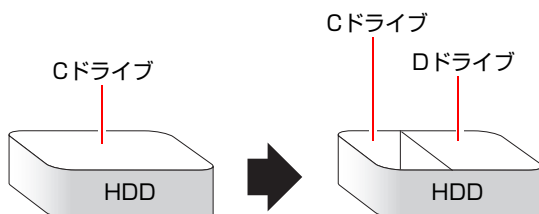
HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分けて、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

HDDを分割した1つ1つを「HDD領域」または「パーティション」とも言います。また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。

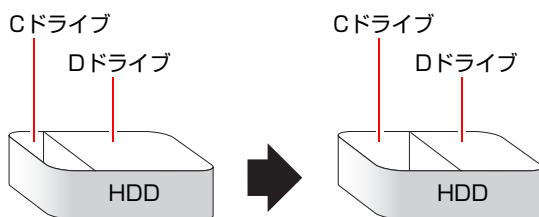


HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

<ドライブのサイズを変更する>

例：Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

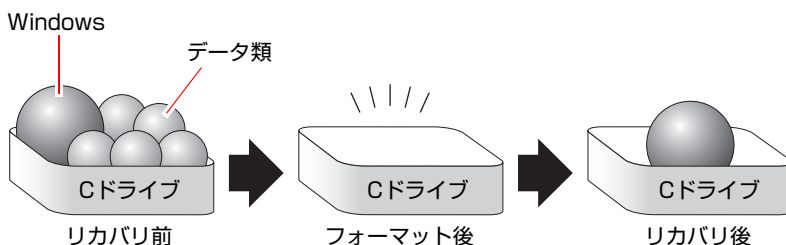
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

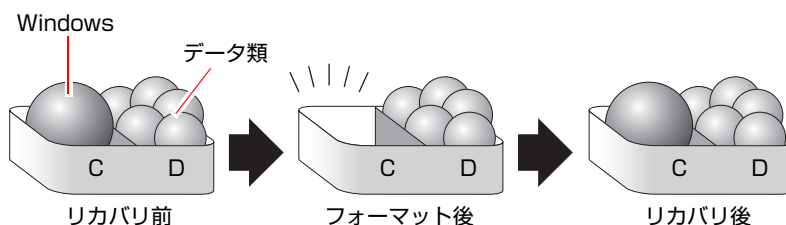
●メリット

HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

<HDD領域が1つの場合>



<HDD領域を分割した場合>



たとえば、WindowsやアプリケーションはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。




HDD領域を分割したHDDのリカバリをする場合は、万一に備えてCドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

●デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

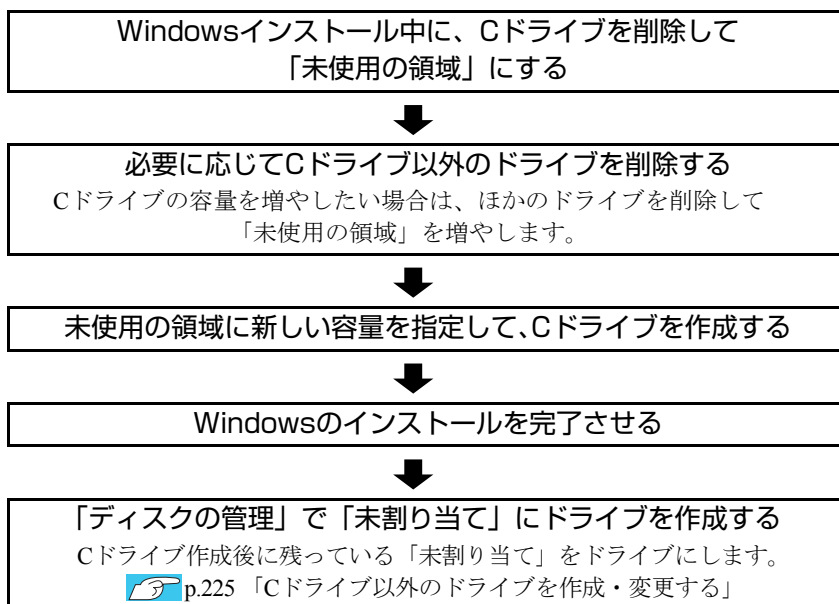
Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。

Cドライブ以外のドライブの変更方法は、 p.225 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。




ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。

Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。




Cドライブを分割・変更する


Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsのインストールが必要です。

 p.169 「Windows XPをインストールする」の手順5～8を、次の手順に読み替えてWindowsのインストールを行ってください。

<p.169 「Windows XPのインストール」の手順5～8の読み替え>

- 1 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、Cドライブを選択し、**[D]**（削除）を押します。
- 2 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、**[←]**を押します。
- 3 「○○MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら、**[L]**を押します。
ドライブが未使用の領域になります。
- 4 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。
<Cドライブを分割したい場合>
(1) 「未使用の領域」を選択して、**[C]**を押します。
手順5に進みます。
<Cドライブの容量を増やしたい場合>
(1) Cドライブ以外のパーティション（ドライブ）を選択して、**[D]**（削除）を押します。
(2) 手順2、3を実行します。
選択したパーティションが「未使用の領域」になります。
(3) 「未使用の領域」を選択して、**[C]**を押します。
手順5に進みます。
- 5 Cドライブの容量を決めます。「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ (MB)」に表示されている数字を **[Back space]** で削除し、任意の数値を入力して **[←]** を押します。
Cドライブには、最低でも3GB（3000MB）を割り当てることをおすすめします。
- 6 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、「C：パーティション1（未フォーマット）」を選択して、**[←]**を押します。
未使用の領域はここではフォーマットできません。インストール後、「ディスクの管理」で行います。

- 7 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して、を押します。

 p.169 「Windows XPのインストール」の手順9に進みます。


▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。

次のような場合にご覧ください。

- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合。
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成された「未割り当て」をドライブにして使用する場合。
- HDDを増設・交換した場合。

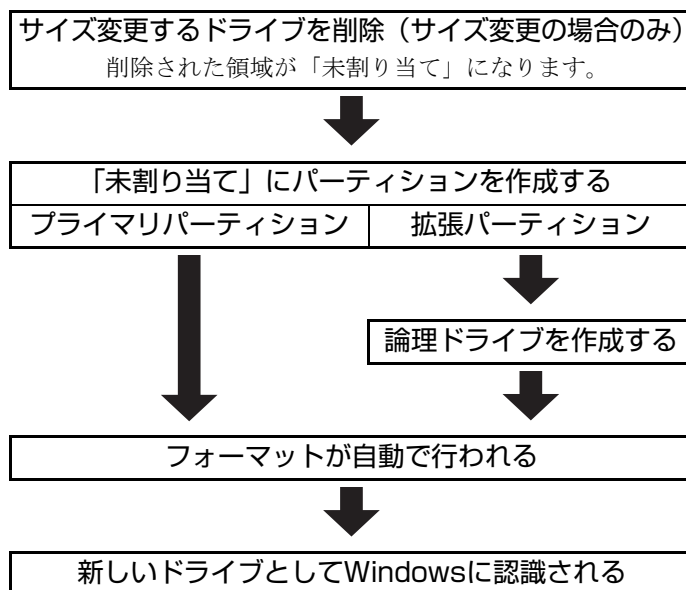
Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、

 p.222 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ


ドライブの作成・変更は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。

ドライブの作成の流れは次のとおりです。



HDD内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

ドライブの作成方法は、 p.227 「HDD領域（パーティション）の作成手順」をご覧ください。

ドライブの削除方法は、 p.229 「Cドライブ以外のドライブを削除する」をご覧ください。

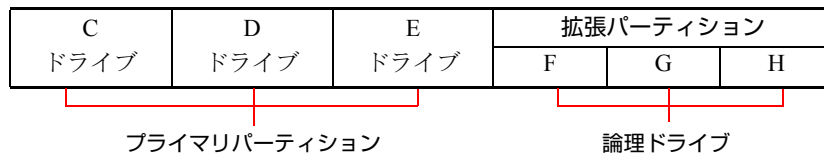


パーティションとは

- Windowsの「ディスクの管理」では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。そのうち拡張パーティションは、最大で1つです。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

プライマリパーティション、拡張パーティションを組み合わせると、1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

<パーティションの組み合わせの例>

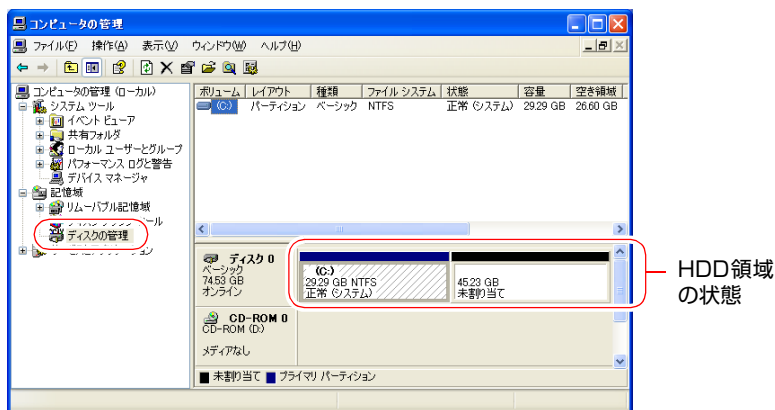


HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。

- 1 「スタート」－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。

画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

<増設・交換したHDDが「不明」と表示されている場合>



ディスク1を右クリックして、表示されたメニューから「初期化」をクリックします。

- 3 パーティションを設定したい「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション」をクリックします。
- 4 「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「プライマリパーティション」または「拡張パーティション」を選択して [次へ] をクリックします。通常はプライマリパーティションを選択します。
- 6 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して [次へ] をクリックします。

手順5でプライマリパーティションを選択した場合は、手順12へ進みます。

- 7** 「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。

拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。続いて「空き領域」に論理ドライブを作成します。
- 8** 「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」をクリックします。
- 9** 「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 10** 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ] をクリックします。
- 11** 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ」に任意の値を入力して [次へ] をクリックします。

複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。
- 12** 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「次のドライブ文字を割り当てる」で任意のドライブレターを選択して、[次へ] をクリックします。

「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。
- 13** 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ] をクリックします。

表示されている設定値を変更する必要はありません。
- 14** 「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

自動的にフォーマットが行われます。

フォーマットが終了したら、HDD領域の作成は完了です。

複数の論理ドライブを作成する場合は、手順8～14の作業を繰り返します。

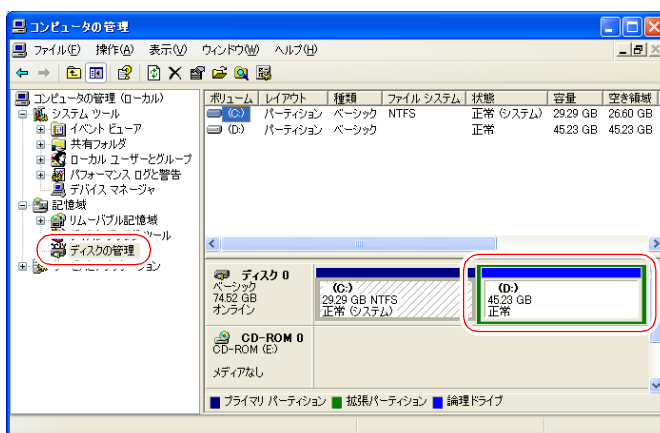
▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除してから、作成しなおします。

ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。

ドライブを削除する手順は、次のとおりです。


- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」 をダブルクリックします。
- 2 「コンピュータの管理」 画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」 をクリックします。



<イメージ>

- 3 削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「論理ドライブの削除」または「パーティションの削除」をクリックします。
- 4 「・・・続行しますか？」と表示されたら【はい】 をクリックします。

プライマリパーティションを削除すると、「未割り当て」、論理ドライブを削除すると、「空き領域」になります。「未割り当て」や「空き領域」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

 p.227 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、メインボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032（または同等品）

リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況により異なりますが、寿命は約3年です。

リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、BIOS Setupユーティリティで設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したままで作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



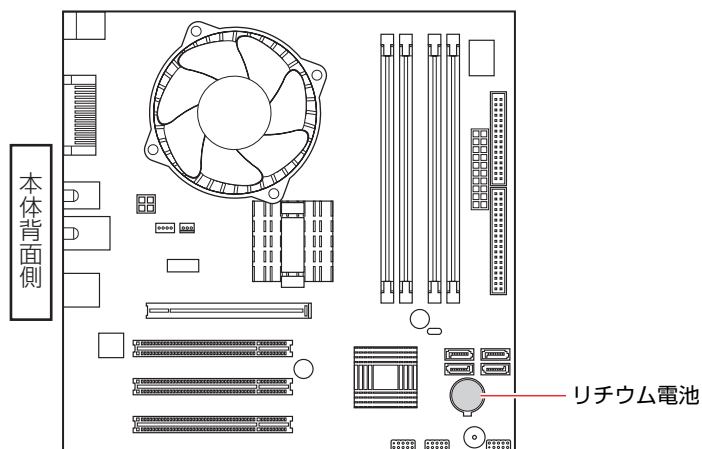
- リチウム電池の交換を行うと、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
- 本機の電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電気が流れています。作業を始める前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。


- 1** コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 本体カバー（左側）を取り外します。

4 リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。



5 作業の妨げになる拡張ボードがあれば、取り外します。

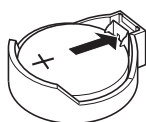
 p.121 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

6 リチウム電池を抜きます。

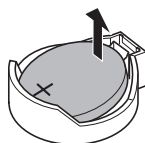
(1) 電池ホルダの留め金を押します。

(2) リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。

(1)

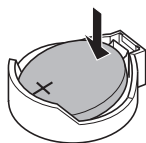


(2)




7 新しいリチウム電池を取り付けます。


刻印面 (+側) が表側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。取り付けると「カチッ」と音が鳴ります。





8 手順5で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。

 p.121 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

9 本体カバー（左側）を取り付けます。

 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」

10 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

- 11** コンピュータの電源を入れます。
- 12** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS checksum error - Defaults loaded」と表示されたら、**Delete**を押して、BIOS Setupユーティリティを実行します。
 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 13** 「Exit」メニュー画面－「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.147 「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」
- 14** 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 15** 「Exit」メニュー画面－「Save & Exit Setup」を選択してBIOS Setupユーティリティを終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。BIOS Setupユーティリティで設定したパスワードを忘れていたり、BIOSの設定を誤ったりして本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。





- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したまま作業しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。












- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.160 「BIOSの設定値」
- BIOSで管理者パスワードを設定し、HDDのアクセスを制限していた場合、CMOS RAMの初期化を行っても、HDDへのアクセス制限を解除することはできません。HDDへのアクセス制限を設定したHDDは、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。
 p.148 「パスワードを設定する」 - 「アクセス制限の設定」 - 「HDDへのアクセス制限」
- 本機の電源を切っているにもかかわらず、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電気が流れています。作業を始める前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

- 1 コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。**

- 3** 本体カバー（左側）を取り外します。
 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 拡張の妨げになる拡張ボードがあれば、取り外します。
 p.121 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 5** リチウム電池を取り外します。
 p.230 「リチウム電池の交換」手順6
- 6** 約1分間放置します。
- 7** リチウム電池を取り付けます。
 p.230 「リチウム電池の交換」手順7
- 8** 手順4で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。
 p.121 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 9** 本体カバー（左側）を取り付けます。
 p.108 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 10** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
- 11** コンピュータの電源を入れます。
- 12** 「EPSON」と表示後、「CMOS checksum error - Defaults loaded」と表示されたら、 を押して、BIOS Setupユーティリティを実行します。
 p.144 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 13** 「Exit」メニュー画面－「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.147 「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」
- 14** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 15** 「Exit」メニュー画面－「Save & Exit Setup」を選択してBIOS Setupユーティリティを終了します。

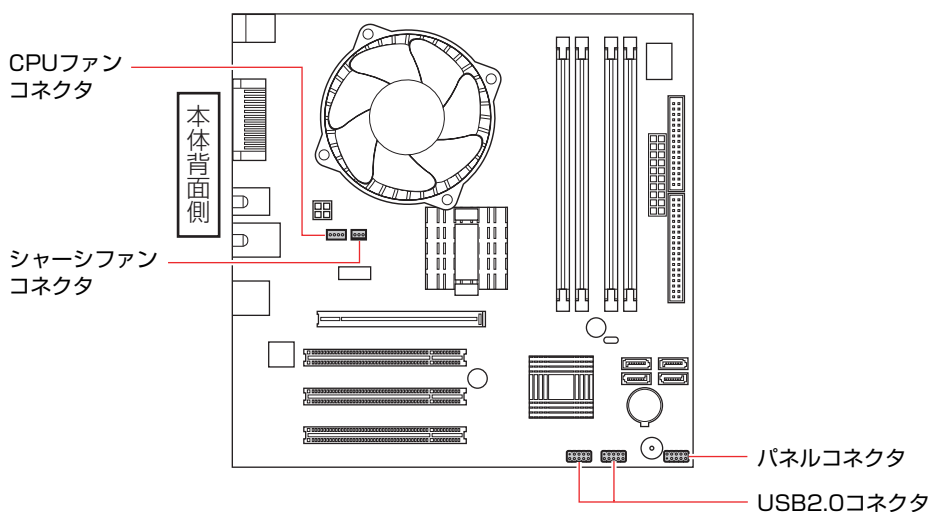
コンピュータ内部のケーブル接続

本機の内部には何本かのケーブルがあり、メインボードに接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って外してしまった場合には、次の図を参照して、正しく接続してください。



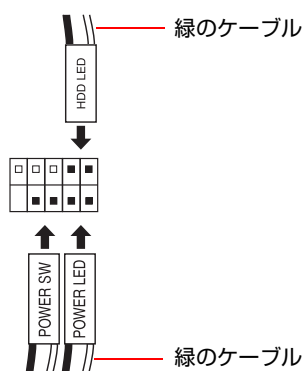
各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

コネクタ位置 (メインボード上)



パネルコネクタ

パネルコネクタには、次のようにケーブルを接続します。



コンピュータを廃棄するときは

本機を廃棄するときは『サポート・サービスのご案内』（別冊）の「コンピュータの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

▶HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。

ドライバCDに収録されている「システム診断ツール」では、HDD内のデータをすべて消去することができます。

消去を開始すると、HDDのデータはもとには戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。










データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDDのデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

消去されるデータ

この機能で消去できるデータは、S-ATA1コネクタに接続されているHDDのデータのみです。複数のHDDを接続している場合、2台目以降のHDDのデータを削除したいときは、HDDをS-ATA1コネクタに接続してからデータの消去を行ってください。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、ドライバCDを光ディスクドライブにセットします。
インストール画面が表示されたら、をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [終了オプション] - [再起動] をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面の左下に「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して  を押します。

- 7** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して **[←]** を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。消去を中止する場合は、**[Esc]** を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。
- 8** キーボードで「Yes」と入力します。
消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分）。
- 9** 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、ドライバCDを光ディスクドライブから取り出して、コンピュータの電源を切ります。
これでデータの消去は完了です。

機能仕様一覧

CPU	プロセッサ	インテルPentium Dプロセッサ、インテルPentium4プロセッサ、インテルCore 2 Duoプロセッサ、インテルCeleron Dプロセッサ
	ソケット	LGA775Socket
チップセット		インテル945G Express+ICH7
BIOS		Phoenix-Award BIOS
セキュリティチップ (TPM)	対応規格	TPM 1.2
	コントローラ	Infineon SLB9635TT 1.2
メインメモリ		PC2-4200 (DDR2-533 SDRAM) を使用して最大3GBまで搭載可能
ビデオ	メモリ	メインメモリより最大128MBを使用
	コントローラ	インテル945G内蔵 Intel Graphics Media Accelerator 950
サウンドコントローラ		インテル ハイ・デフィニション・オーディオ
記憶装置	HDD	1台内蔵 (S-ATA II) (容量、台数は購入時の選択による)
	光ディスクドライブ	1台内蔵 (種類、台数は購入時の選択による)
	FDD (オプション)	オプション選択された場合、3.5型FDDを1台内蔵
インタフェース	USB	6 : USB2.0 (前面側×2、背面側×4)
	LAN	1 : RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応 自動認識
	サウンド	フロントスピーカ/ライン出力コネクタ×1、センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ×1、リアスピーカ出力コネクタ×1、サイドスピーカ出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1
	ディスプレイ	1 : アナログRGB ミニD-SUB 15ピン
	キーボード	1 : IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	マウス	1 : IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	パラレル	1 : セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート
	シリアル	1 : RS-232C準拠 D-SUB 9ピン
ドライブベイ	3.5型ドライブベイ	1
	5.25型ドライブベイ	2
	HDDベイ	3
外部拡張スロット	PCI Express x16	1 : ボード長230mmまで搭載可能
	PCI	1 : ボード長190mmまで搭載可能 2 : ボード長312mm (フルサイズ) まで搭載可能
キーボード		109 USBキーボード (6点入力対応) (種類は購入時の選択による)
マウス		ホイール付USBオプティカルマウス (種類は購入時の選択による)
カレンダー時計内蔵		内蔵リチウム電池によりバックアップ
電源容量		300W
入力電圧		AC100V~240V (50/60 Hz) ※AC100Vでのみ動作保証
温湿度条件		温度 : 10~35℃ 湿度 : 20~80% (ただし、結露しないこと)
外形寸法 (縦置き時)		本体 : 約179 (幅) ×406 (奥行) ×368 (高さ) mm (突起部除く)
質量		本体 : 約10.4kg (最小構成時)
消費電力		462W (最大) / 4.4W (スタンバイ時) / 3.3W (電源オフ時)

索引

数字

109USBキーボードユーティリティ	25
インストール	176
109USBキーボードユーティリティCD	25, 165
3.5型2DD	61
3.5型2HD	61
3.5型FDD	29
3.5型ドライブ	
取り付け・取り外し	129
取り付け・取り外し後の作業	132
3.5型ドライブベイ	27, 106
5.25型ドライブ	
取り付け・取り外し	133
取り付け・取り外し後の作業	136
5.25型ドライブベイ	27, 106
7.1ch	80

A

ADD2ボード	77
Administrator	42
Adobe Reader	24
インストール	174
ADSL	88
Advancedメニュー画面	155

B

BIOS	141
BIOS Setupユーティリティ	143
Passwordの設定	148
起動	143
起動(Boot)デバイスの順番を変更する	151
終了	146
設定項目	153
設定値	160
設定値をもとに戻す	147
操作	144

Bootメニュー画面	158
------------------	-----

C

Caps Lock	56
CATV	88
CDメディア	
読み込み・再生	71
CMOS RAMの初期化	233
COAラベル	23
COM	103
Cドライブ	66, 167, 170
分割・変更する	222
Cドライブ以外のドライブ	
削除する	229
作成・変更する	225

D

DDR	114
DVDメディア	
読み込み・再生	71
DVI-Dケーブル	32
DVI-Dコネクタ	32
DVI-Iケーブル	32
DVI-Iコネクタ	32

E

Exit Without Saving	146
Exitメニュー画面	160

F

FDDアクセスランプ	29
FDDイジェクトボタン	29
FDDケーブル	130
FDDコネクタ	125
FDD(フロッピーディスクドライブ)	29
使う	61

- 不具合 196
- FD(フロッピーディスク) 61
- 製品保護上の注意 8
- 使う 61
- フォーマット 63
- G**
- gooスティック 24, 91
- インストール 177
- H**
- HDDアクセス制限 149, 159
- HDDアクセスランプ 27
- HDD設定変更サービス 66
- HDDのデータ消去 236
- HDD(ハードディスクドライブ) 65
- 購入時の状態 66
- 使う 65
- 取り付け・取り外し 137
- 取り付け・取り外し後の作業 140
- HDDベイ 106
- HDD領域
- 作成手順 227
- 分割・変更・作成 221
- Hyper-Threading Technology 103, 155
- I**
- IDEケーブル 126
- IDEコネクタ 125
- InCD 74
- Internet Explorer 89
- 情報バー 91
- 追加機能 91
- ISDN回線 88
- J**
- Java2 Runtime Environment 24
- JWord 91
- JWord Plugin 24
- インストール 176
- L**
- LAN機能 85
- LANケーブル 37, 85
- 接続 37
- LANコネクタ 28, 37, 85
- M**
- Mainメニュー画面 154
- Microsoft .NET Framework 24
- MS-IME 55
- N**
- Nero 7 Essentials 25, 72
- インストール 175
- 使い方 73
- Nero 7 Essentials CD-ROM 25, 165
- Norton Internet Security 90日版 25, 94
- インストール 174
- ファイアウォール機能 95
- NTFSファイルシステム 167
- Num Lock 56
- O**
- OS 17
- Outlook Express 89
- 初期設定 90
- P**
- Passwordの設定 148
- PCI Express x16スロット 120

- PCIスロット 120
- PCお役立ち情報 49, 217
- Power メニュー画面 157
- S**
- S-ATA HDD 65
- S-ATAケーブル 127
- S-ATAコネクタ 127
- S-ATA (Serial ATA) 65
- Save & Exit Setup 146
- Scroll Lock 56
- SDRAM 114
- SpeedStep 102
- T**
- TPM 220
- U**
- USB 75
- USB2.0コネクタ 27, 28
- USB機器 75
- 接続と取り外し 75
- 使う 75
- USBハブ 59
- Uボタン 57
- V**
- VGAケーブル 32
- VGAコネクタ 28, 32
- W**
- Wakeup On LAN 86
- Windows CD-ROM 50
- Windows Media Player 24, 83
- Windows Update 45, 92
- Windows XP 24
- インストール 168, 169
- 強制終了 52
- 再起動 52
- 終了 51
- セットアップ 40, 43
- Windows XPリカバリCD 24, 165
- WinDVD 25, 72
- インストール 176
- WinDVD CD-ROM 25, 165
- あ**
- アース線 38
- アース端子 38
- アイコン 18
- アクティベーション 44
- アップデート
- BIOS 142
- アドミニストレーター 42
- アナログ電話回線 88
- アプリケーションの強制終了 52
- い**
- インストール
- 109USBキーボードユーティリティ 176
- Adobe Reader 174
- gooスティック 177
- JWord Plugin 176
- Nero 7 Essentials 175
- Windows XP 168, 169
- WinDVD 176
- セキュリティソフトウェア 174
- セキュリティチップユーティリティ 178, 220
- 本体ドライバ 173
- インストール時の不具合 207
- インターネット 87
- 不具合 208

インフォメーションボタン	48, 57	機能仕様一覧	238
インフォメーションメニュー	24, 48	休止状態	98
		有効にする	99
お		強制終了	52
オーディオ機器の接続	80	記録メディア	8
お手入れ	216		
お問い合わせ情報シール	23	く	
オペレーティングシステム	17	クリック	40, 60
音量の調節	47, 83		
か		け	
解像度	78	警告メッセージ	213
外部オーディオ機器	80	ケーブル接続	
書き込み		コンピュータ内部	235
光ディスクメディア	72	ドライブ装置	128
拡張スロット	28, 106, 120	こ	
拡張パーティション	226	コピーコントロールCD	68
拡張ボード		困ったときに	183
増設に関する不具合	193	コンピュータウイルス	89, 94
取り付け・取り外し	121	コンピュータ内部のコネクタ	235
取り付け・取り外し後の作業	124	コンピュータの管理者	43, 167
各部の名称と働き	27	コンピュータの廃棄	236
カスタマイズ	19	コンピュータ本体の不具合	184, 192
かな入力	55	コンピュータを購入時の状態にする	169
管理者	42	コンピュータ名	42
き		さ	
キーボード	54	再インストール	164
USBコネクタ	59	必要なメディア	165
接続	34	再起動	52
キーボードコネクタ	28	再生	
キーロック表示ランプ	54	CDメディア	71
記憶装置		DVDメディア	71
不具合	196	音声	83
起動順位の変更	151	サイドスピーカ出力コネクタ	28, 80
機能キー	54	サウンド機能	80

サウンドコネクタ	28, 80
設定	81
サウンドドライバ	24
サウンドボード	84
サウンドユーティリティ	81
サウンドレコーダー	83
サポート情報検索	50
サポート・サービスのご案内	23, 182

し

システム診断ツール	24, 25, 209
HDDのデータ消去	236
システムの拡張	105
システムの復元	50, 211
自動更新	92
周辺機器	
増設・交換に関する不具合	193
省電力機能	50, 97
移行方法	100
時間経過で移行させない	100
不具合	192
復帰方法	102
情報バー	91
使用・保管時の注意	7
終了	51
初期設定ツール	45
初期値に戻す	147
シリアルコネクタ	28, 103

す

数値キー	54
スクロール	60
スタンバイ	98
スピーカ	80
接続	36
不具合	204

スピードステップ機能	102
スリープボタン	57, 101
スロットカバー	121

せ

制御キー	54
製品保護上の注意	7
セーフモード	211
セキュリティソフトウェア	25, 94
インストール	174
セキュリティ対策	50
セキュリティチップドライバ	24
セキュリティチップユーティリティ	25
インストール	178, 220
設定	169
セキュリティチップ(TPM)	220
不具合	193
セキュリティロックスロット	28, 104
接続と取り外し	
USB機器	75
設定値をもとに戻す	147
セットアップ	
Windows	40, 42, 43
セットアップ完了後の作業	45
センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ	28, 80
前面	27

そ

増設	
3.5型ドライブ	129
5.25型ドライブ	133
HDD	137
拡張ボード	121
メモリ	114
ソフトウェアの不具合	205

た

ダウンロード	219
壁紙	219
最新のBIOS.....	219
電子マニュアル	219
ドライバ	219
ユーティリティ	219
タスクバー	18
タブ	18
ダブルクリック	60

ち

直接入力モード	55
---------------	----

つ

通知領域	18
通風孔	28

て

ディスクの管理	179, 227
ディスプレイ	
接続	32
設定	79
データの暗号化	220
デスクトップ	18
電源コード	
接続	38
電源コネクタ	28
電源スイッチ	27
電源の入れ方	41
2回目	47
電源の切り方	51
電源ランプ	27
表示	99
電子マニュアル	
ダウンロード	219

電池ホルダ	231
添付されているソフトウェア	24

と

ドライバCD.....	25, 165
ドライブベイ	27, 106
ドライブ名	167
ドラッグアンドドロップ	60
とらぶる解決ナビ	49, 182, 218
トラブルが解決しなかったら	50
トラブルが発生したら	182
取り付け・取り外し	
3.5型ドライブ	129
3.5型フェイスプレート	112
5.25型ドライブ	133
5.25型フェイスプレート	113
HDD.....	137
拡張ボード	121
フロントパネル	111
本体カバー	108
メモリ	115
取り付け・取り外し後の作業	
3.5型ドライブ	132
5.25型ドライブ	136
HDD.....	140
拡張ボード	124
メモリ	119
「取り外し」アイコン	76
な	
ナローバンド	87
に	
日本語入力システム	55
日本語入力モード	55
入力キー	54

入力装置		ビデオドライバ	24
不具合	201	ビデオボード	77, 124
ね		ビデオメモリ	119
ネットワーク	85	表示機能	77
接続	37	表示装置	79
不具合	208	不具合	203
ネットワーク機能	85	ふ	
使う	85	ファイアウォール	95
ネットワークドライバ	24	ファイルシステム	
ネットワークボード	86	NTFS	66
は		フィッシング詐欺検出機能	94
パーティション	226	フェイスプレート	
ハードディスクドライブ(HDD)	65	取り外し・取り付け	112
廃棄(コンピュータ)	236	不具合	
ハイパー・スレッディング機能	103	FDD(オプション)	196
背面	28	HDD	197
パスワード	42, 148	インストール	207
設定・変更	149	キーボード	201
バックアップ	65, 169, 217	起動	184, 191
パネルコネクタ	235	省電力機能	192
パラレルコネクタ	28, 103	スピーカ	204
ハングアップ	52	セキュリティチップ(TPM)	193
ひ		装置の増設・交換	193
光ディスクドライブ	27	そのほか	194
使う	68	ソフトウェア	205
不具合	198	ディスプレイ	203
光ディスクドライブアクセスランプ	27	ネットワーク、インターネット	208
光ディスクドライブイジェクトホール	27	光ディスクドライブ	198
光ディスクドライブイジェクトボタン	27	マウス	202
光ディスクメディア		メモリ	195
書き込み	72	復元ポイントの作成	50, 212
製品保護上の注意	8	復帰する	
光ファイバー(FTTH)	88	省電力状態	102
		プライマリパーティション	226
		ブロードバンド	87

フロッピーディスクドライブ (FDD)	61
プロバイダ	87
フロントスピーカ/ライン出力コネクタ	28, 80
フロントパネル	
取り外し・取り付け	111

ほ

ボタン	18
ホットキー	57
ボリューム	83
本機でできること	26
本体カバー	
取り外し・取り付け	108
本体ドライバ	
インストール	173

ま

マイク	80
マイク入力コネクタ	28, 80
マウス	60
製品保護上の注意	10
接続	35
操作	60
使い方	40
不具合	202
マウスコネクタ	28
マウスポインタ	40
マニュアルびゅーわ	49
バックアップ	218

み

右クリック	60
-------------	----

め

メモリ	
仕様	114
増設	114
増設・交換後の作業	119
取り付け・取り外し	115
不具合	195

も

文字キー	54
文字を入力するには	55

ゆ

ユーザーサポートページ	49
ユーザー登録	44
ユーザー名	42

よ

読み込み・再生	
CDメディア	71
DVDメディア	71

ら

ライセンス認証	44
ライティングソフト	72
ライトプロテクト	64
ライン出力コネクタ	28, 80
ライン入力コネクタ	28, 80

り

リアスピーカ出力コネクタ	28, 80
リカバリ	164
リチウム電池の交換	230
リフレッシュレートの設定	79
リモートブート	86
領域の作成	179

れ

冷却ファン 28

ろ

ローマ字入力 55

録音

音声 83

論理ドライブ 226

わ

ワイドディスプレイ 78

Memo

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でのご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保障期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

JIS C 61000-3-2適合品

本製品は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

パソコン回収について



当社では、不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。

PCリサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。

パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、Windows、Windows Media、ActiveX、Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Core Inside、Intel SpeedStep、Pentium、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet Security、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



shop.epson.jp